



伊藤音次郎日記

1942(昭和17)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

会社

- 今期黒字化ニ最大ノ努力ヲナスコト
- 工員、主任課長ノ氣持チヲ改善 実行ニ導クコト

組合

- 資材ノ入手ヲ確實ニスルコト
- 需要ニ満足ヲ與ヘルコト

自分

- 身体ノ強健ニ努力スルコト

▲▼2ページ▲▼ 昭和十七年要記

前年繰越事項ノ實施強化

▲▼3ページ▲▼ 一月

整備部ノ改善

▲▼4ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月1日(木)

天気晴

マリニ(ママ)陥落迫ル マレー戦果進ム

五時半起床 今暁一時半目ヲ醒シ以來工場ノ事ヲ考ヘ眠ラズ

六時仁三郎和子ト航空神社ニ参拝後氏神ニ詣デ例年ノ通り日ノ出ヲ待ツ 瑞雲タナ
ビケドヤ、高クアキラメテ帰ル

太田、佐藤、宇賀、勝野、安岡全家族來

清平一家族來 夜参者ヲ加エ会食 清ガ一人デ歌フ。ウタツテニギヤカデアツタ
今日ハ笑フ事多カッタ ヨイ春!

ハワイノ戦果写真眞發表セラル

夜六七時半床ニ入ル

徳次ハ初メテノ職業ヲ持ツテノ迎春 休メナイノハ、可愛想デアッタガ本人ハ左程ニ思ワナイラシク、ムシロ元氣デアッタ
本年ハ最(ママ)ガ非デモ工場ヲ黒字化スル事ニ努力スル事

▲▼5ページ▲▼ 昭和16(1941)年1月2日(木)

天気 晴

マニラ北方軍ハマニラ二一里半ニ迫ツタ由

六時半起床 神佛ヲ拝シテスグ氏神ノ小松原ニ行キ日ノ出ヲ拝ス 今日ハ雲低クステキナ旭日ヲ拝スルコトガ出来タ

朝食後工場ニ行キ船橋へ電話シテハワイ攻撃ノ映画ヲ東京ニ見ニ行クコトヲサソヒ帰宅後昨日ノ日記ヲ記入 帳簿ヤ引出シノ整理ヲナシ十一時ヨリ晝食 晝ノニュースヲ聞イテ船橋ニ行ク。今日ハ混雑スルカラ止メタラドウカ 五日ニハ宮本館へ來ルトノコトニ中止シテツル姉ト新興館ニ行ク 四時半帰り夕食ノ馳走ニナリ七時ノニュースヲ聞イテ帰ル

▲▼6ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月3日(土)

天気 晴

時事 マニラ完全占領

今日ハ家内ガ日ノ出を拜ムトノコトニ一所ニ行ク 今日モヨイ日ヲ拜ムコトガ出来タ午前中少時工場方針ヲ研究

根本ノ主人來 シバラク盆栽ノ話シナドシテ帰ル

晝食後国民學校へ防空三関スル講演ニ自衛隊長トシテ出席。船橋警察ヨリ來テ設備ノ強化警報ノ正確ニツキ特ニ注意アリタリ

夜早ク床ニ入ル 今日ハ夜ノラジオガヨク聞エタ 昨日午後マニラ陥落シタ由

▲▼7ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月4日(日)

天気 晴南風

六時起床 定刻出社 航空神社前ニテ国民義礼 神社参拝後新年ノ挨拶ヲナシ後チ主任級以上ヲ集メ会議ヲ開ク 滑空部ノ者ヨリフロート組ニ対シ奨励金問題カラ作業ヲシナイトノコト 九時半工場ヲ廻ツタガドコモ作業シテ居ル處ハナカッタ 原因ヲ聞キ太田、作業課ノ二人ニ嚴重ニ取締方ヲ命ズ 作業会議ハ七日再会スルコトトシ午後自衛隊ノ改組ニツキ打合セ 四時終了

藤田君(朝鮮)竹中泰門ト來 宅へ連レニ帰り佐藤モ呼ビ夕食ヲ共ニス

安河内ヨリ徳治ト自分ニ當テ手紙來 余リ早く知レタカ結局大須賀ガ話シタモノラシ
イ 徳治ニ明日 安河内へ行ク様 島津氏ニ会ツテ諒解ヲ求メル様話ス

▲▼8ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月5日(月)

天気 晴

六時半起床 蓄音機ニヨル体操 定刻出社 腹工合悪ク朝食ハヌク
組合ノ資源計算ヲナス 各課長欠勤 太田、布施、予定ヲ聞キ明後日ノ準備ヲ命ズ
九時半ヨリ幕張ノセコンダリー試作状態ヲ見ニ行ク 胴体組立治具ハ出來テ居タガ人
ハ二人シカ居ラナカッタ 帰ルト神崎カラ十名バカリ來テ居タ 野口氏案内役 大分乗
気デアッタシ工賃ニナレバヨイトノ話シダカラグライダーノ様ナモノデモ出來ルダロウ
晝食後一時半頃帰ル。四時十五分迄工場ニ居ル 昨日ノコトモアリ氣ニナッタガ今日ノ
作業状態ハ平素ノ通りデアッタ
夜花ヲ家内中デ遊ブ 二手ヤツテ終始勝ヌク 今年モ先ツヨロシ

▲▼9ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月6日(火)

天気 晴

六時二十分起床 昨夜ノ夕刊ト朝刊ヲ合セ讀ムノニ急(ママ)ガシカッタ 定刻出社 清
平ノ出社ヲ見テ二三用件ヲ命ジ帰宅 自動車オクレルノデ徒歩上京 航空器材ニヨル
丁度社長、赤坂、矢野氏等居リ新年ノ挨拶ヲナシ航空局ニ行ク 長官、第二部長、工
政課長、国民航空課長、建設課長、補補(ママ)課長、其他大体ホトンド挨拶ヲナス
森川航空官カラハ特ニ今年度ノ作業ニツキ近ク相談ガアルトノコトデアッタ。組合ニ帰
ル途中蓮見氏ニ会ヒ銀坐三笠ニテ会食ス。自動車來 恵美子ニ用件ヲ命ジ組合文部省
ニ挨拶ヲシテ佐藤進少将宅篠原君宅ニ酒ヲ持参シ四時四十分帰宅ス

▲▼10ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月7日(水)

天気 曇リ

定刻出社 滑空部不穩 高橋退社シタイトノコト 太田ヨリ一度会ツテヤツテ呉レトノ
コトニ夜自宅ニテ會フ 昨年來ノ不幸續キデ借金ノ爲メ生活ニ困ルノデ借金ヲ返ス爲メ
会社ヲ止メ退職手當ガホシイトノコトニ其不心得ヲサトシ働クコトニヨリ前途ニ光明ヲ
持ツ様話ス。ヨク分ツテ帰ッタ

午後一時ヨリ作業会議 結局企畫ヲ整備スルコトトシ委員トシテ清平、木村、太田、
宇賀、佐藤、ヲ任命ス。フオートヨリ滑空ハ四名返スコト取キメル

◆▼11ページ◆▼ 昭和17(1942)年1月8日(木)

天気 晴

時事 第一回大東亜戦争米英二対スル詔書奉戴日

六時十五分起床 大藪ヲ呼ビニヤル 篠川其他ノ件ヲ命ジ定刻出社 第一回詔書奉戴日ニツキ朝礼ノ後チ十二月八日ノ詔書ヲ奉讀シ聖旨ニソムカナイコトヲ語ル

然ルニ滑空部四五名辞表提出者アリ。木村、太田、宇賀解決ニ當ラセル 木村ガモットシツカリシテホシイ

星野氏來 右同席ス

午後二時半工場ヨリ帰宅 余リ天気ガヨイノデ昨年來ノ懸案デアル、ニワトリノ小屋ヲムシロト羽布デ、カコヒ盆栽収要(ママ)小屋ノ柱ダケ建テ終ル 五時半終ル

◆▼12ページ◆▼ 昭和17(1942)年1月9日(金)

天気 晴

六時十五分起床 定刻出 滑空部漸ク皆落付イタトノコト 安心ス。裏ニ葉方ガ萱場ヘ引張ツタコトニ正式ニ抗議ヲ申込マセルコトトス

十一時組合ニヨリ十一時半国際航空三福知氏ヲ訪フ レインボーニテ晝食ヲ馳走ニナリ航本廠計理ノ係リ人ガ滑空機ニ関スル話シヲ聞キタイトノコトデ明日午後二時ヲ約束ス。朝日ト日日ニ新年ノ挨拶ニヨル。日日ニ藤枝ニ會フ 文部省式ノ賣リ出シニツイテ心配シテ居ルノデ山崎氏ニ電話シテ聞イテヤル 四月迄ハ何ニラ賣ッテモヨイガ四月以後ハ認可以外ノモノハ賣レナクナルトノコトデアッタ。其旨教ヘル

組合ニ歸リ東君平松君ニ會フ 東君十二日高山ヘ行ク由 自分モ行クト云ツタガ帰ッテ報告スルカラ其上ニシテ呉レトノコトデアッタノデ待ツコトトス

今夜篠原氏会见予定同氏ノ都合デ明日ニ延期ス

◆▼13ページ◆▼ 昭和17(1942)年1月10日(土)

天気 晴

七時半宅ヲ出九時十分器材着 畑、赤坂清水氏居リ社長モ來 松岡雇入レノ件相談 大体諒解成リ履歷書ヲ見セテ呉レトノコトデアッタ。板垣君ト局ノ村上氏ヘ認可申請ノ書類説明ニ行ク 自分アトニ残り工政課長ト組合人事其他ニツキ想(ママ)談ス 十一時器材ニ歸リ工員昇給ノ件決定。星野氏ヨリ余程グライダ―損ダトノコトヲ強ク云ツテ居ルラシイ畑氏ノ口振りデアッタ AIニテ畑、板垣ト会食後組合ニヨリ、国際ニ行キ福知氏同道航空本廠會計部第一科長崎谷氏ニ会见 一時以上待タサレタ グライダ―値段ノ件デアッタノデ公定價ヲ絶対ニ引ケナイ旨述べル 算定書ヲ見セテ呉レトノコ

トニ作ツテ出スコトヲ約ス

再ビ組合ニ帰ル大坂ノ安井氏來ルトノコトニ待 四時半來 組合加入希望ノ件 局指定問題ヲ話シテ分レル 五時〇ヤニ行ク 篠原氏來テ居タガ室ガナイトノコトニ井上三行キ会食。室ノ件、補助金問題、契約條件ノ件ニツキ懇談ス 尚内金問題ハ佐藤部長ニ話シスルコト、人事会社ノ方ヘモ人ノ世話ヲタノム
帰途清平宅ニヨリ九時半帰宅

◆▼14ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月11日(日)

天気 晴雲多

七時半朝食後家内ト和子ヲ連レテ成田山参拝ニ行ク 十二時半帰宅シタラ奈良原氏來テ居ラレタ 金沢氏ガ郷里ノ福島県鏡石デグライダーノ製作ヲヤリタイトノコトデアッタ 二三日中ニ來ル由 土産トシテ銀盃一ヶ貰フ。廻間來 大藪風ヲ引イタトテ來ラズ 廻間ト二人デ十七年度組合資材入手方法ニツキ調査。研究資料トシテ現在ノ狀況及將來ノ予定ヲ記入シタモノヲ作ラセルコトトス
成田デ買ツテ來タ鰹デ兄夫妻清平ヲ呼び会食ス

◆▼15ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月12日(月)

天気 曇小雨

時事 蘭領ボルネオ、セレス島メナト上陸発表サル

六時半起床 定刻出 B八原價材料調査ヲナス 九時半ヨリ自動車ニテ松戸ニ行ク 所長飛行機デ印旛ヘ行ツテ不在 山下庶務課長ニ会ツテ工場ニヨリ一三ノ手入レヲ見テ松戸ニ廻ル 廻間松戸ヨリ器材工場ヘ行

二時半帰場 星野氏ト階上ニテ主任ヲ集メ工員昇給ニ関シ今後此ノ率デ上ガラナイ旨ヲ徹底セシメル様理由ヲ話ス 後チ木村課長、梅津ヨリ九五、三型ニツイテ町田組ノコトヲ聞ク 少シモ進捗ヲ見ズ注意ス 後チ星野氏居残り滑空機ニ関スル総務ト自己ニ意見ノ相違アル如ク思ワシムル事ノ不利ト滑空機ヲヤル理由ニツキ充分説明ス 総務ハ滑空機ヲ止メルナドト工員ヘ云ツタコトハナイト稱シテ居タ 職員昇給ハ一月行フコトニ取キメ乙竹ヘ命令方星野氏ニ依頼ス

◆▼16ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月13日(火)

天気 雪曇リ

時事 静けさや 積りし雪は 深からん

三時頃カラ眠レズニ時間置キニ便所ニ通フ 雪ハ大分積ツテ居タ 朝二寸程デアツタガ

止ンデ居タ 八時頃カラ一眠リシテ正午起床 ドウモ身体ノ工合ガオカシイ。工場ニ出テ星野氏ニ會ヒ二時ヨリ上京 組合ニヨリ昨年ノ製作、受注台数等ヲ取調ベテ四時半時代社ニ行キ相連レテ宇起世ニ行ク 七時頃迄松下、畠山氏ト坐談会終リ会食後八時半分レル 銀座ニ出ルト千足屋ニ小鳥ヲ賣ツテ居タ カナリヤノ雛ヲ一疋五円デア求メル 色ハカナリヤローラ色デヨクナイガ声ガヨサソウデアツタ 十一時帰宅 恵美子一時間余リ停留所デ待ツテ居タトノコト。寒サノ精力身体中ガアチコチ痛ム

▲▼17ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月14日(水)

天気晴

少々気分悪ルカッタガ定刻出社 九時ヨリ上京 器材ニヨリ松岡ノ履歴書ヲ見セ諒解ヲ得テ組合ニ行ク 増々気分悪ク体温計ヲ買ワセテ見ルト八度六分アリ。井上武三郎、大藪氏ニ會フ爲メ三時頃迄我マシシテ急イデ帰ル 自動車船橋迄迎ヘニ來テ貫ヒ帰宅 後布施サンヲ呼ブ 夕方案外早く來テ呉レタ 薬ト催眠薬ヲ貰フ

▲▼18ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月15日(木)

天気晴

夜昨日ハホトソド眠レナカッタ 左ノフトモ、ガ最モ痛ンデ催眠薬ヲソソンデモ二時頃位デ目ガサメタ
今夜ハイシチヨールヲ付ケテ見ル
八度六分カラ七度五分位ヲ上下シテ居タ

▲▼19ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月16日(金)

天気晴

昨夜ハヤ、ヨク眠レタ 二時半頃催眠済(ママ)ヲノム
夕方布施サン來 流寒ダトノコト 神経痛ノ注射ヲシテ帰ル 今日大師サンガ御参ニ來テ教ツタ薬モ付ケテ見ル
身体中ガ痛ンデタマラナイ

▲▼20ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月17日(土)

天気晴

昨夜ハチヨイ、目ハ醒メタガ眠ルコトモ出來タ
午前中八度五分迄上ツタガ午後ヨリハ七度五分ガ最高デア小便ノ色モ薄クナツタ

午前午後共ヨク眠ッタ

朝大藪來 十九日ノ會議延期スルコトトス 午後星野氏氏(ママ)昇給ノ件決定後職制ニツキ考慮ヲウナガス 長島、青仙見舞ニ來ル
夕方の子二本ヲ讀マセテ聞ク 中々上手ニ讀ンデ呉レタ

▲▼21ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月18日(日)

天気 晴 暖

終日三十八度五分位

家では餅をついた 太田が見舞に来てくれた

▲▼22ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月19日(月)

天気 晴 酷寒

昨日フルーツを食べたのが悪かつたかしら下痢して困った。熱は七度五分が一度下りあとは八度以下に下らない そのため電話をかけ、医者が夜来てくれた。あと二週間寝なければならぬ

りんごが食べたかったがとうとう手に入らず腹ペコのまゝ一日過した

清平と木村と來たが予想定の三分一しか仕事が上がらない 困ったものだ 夕方木村君が松岡君をつれて來るんで清平が迎へに行った

▲▼23ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月20日(火)

天気 晴

朝八度六分 お午ごろ長尾喜市といふ男が來て高見さんの關係してゐる。パラシユートの賛助員になつてくれといふ話を二十年來の事をくどくど話したため夕方九度二分迄上る

宇賀をよんで防空演習の事について依頼しておく

▲▼24ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月21日(水)

天気 晴

朝九度 夜九度 日中は六度五分位で割合楽だった

島安博、金太郎、豊作

▲▼25ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月22日(木)

天気 曇後晴

朝又九度二分二上る。昨日の血液検査を持って行つたが返事がないので良いと思つて居たが夕方医者が来たチブスだといふ 明日布施さんへ入院する事にきめた 石つきの紅黄梅が一輪はじめて花が咲いた 鳥がはじめて卵をうんだ 佐藤、廻間、星野さんが来た

▲▼26ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月23日(金)

熱 三十九度二分
脈 九六

本日入院 午後二時頃稲毛布施醫院着

自動車ニ乗セラレフト空ヲ見タ時初メテチラト今一度再ツテ越ラレルカ知ラトノ不安ガ走ツタ。ホンノチラトデアツタガ

車窓より ふと見る空に 危惧走る

▲▼27ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月24日(土)

熱 三十九度五分
脈 一〇〇
便 水様便九回

▲▼28ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月25日(日)

熱 三十九度二分
脈 九八
便 二十回

▲▼29ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月26日(月)

熱 三十九度三分
脈 九二

便 十一回水様便

▲▼30ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月27日(火)

熱 三十九度一分

脈 九六

便 九回

今までの看護婦熱発して交代の看護婦来る

▲▼31ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月28日(水)

熱 三十九度一分

脈 九六

便 三回

▲▼32ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月29日(木)

熱 三十九度三分

脈 九四

便 四回

▲▼33ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月30日(金)

熱 三十九度二分

脈 九十

便 三回

家内も三十九度以上熱が出てチブス決定し同じ室に入院

張弓の きれてくやしき 共寝かな

苦しみも 半座をわけする 夫婦かな

▲▼34ページ▲▼ 昭和17(1942)年1月31日(土)

熱 三十九度二分

脈 九〇
便 二回

▲▼36ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月1日(日)
熱 三十八度九分
脈 九十
便 二回

▲▼37ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月2日(月)
熱 三十八度二分
脈 九十
便 四回

▲▼38ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月3日(火)
熱 三十八度二分
脈 八六
便 四回

布施金太郎様御見舞にリング戴く

▲▼39ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月4日(水)
熱 三十七度九分
脈 九十
便 四回

野口様御見舞に来訪す

▲▼40ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月5日(木)
熱 三十八度二分
脈 九十
便 二回

感寒夜にも 飛立つ鷺の たのもしさ

▲▼41ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月6日(金)
熱 三十八度三分
脈 九六
便 なし

▲▼42ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月7日(土)
熱 三十七度九分
脈 八四
便 二回

▲▼43ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月8日(日)
熱 三十七度五分
脈 九四
便 四回

▲▼44ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月9日(月)
熱 三十七度七分
脈 九十
便 三回

▲▼45ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月10日(火)
熱 三十八度八分
脈 百
便 二回

▲▼46ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月11日(水)
熱 三十七度三分

脈 八二
便 二回

航空時代社渡辺一英様代理見舞 菓物を戴く

▲▼47ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月12日(木)

熱 三十七度二分

脈 八四

便 二回

満州浪速工業所鵜飼良行様お見舞に来て下さる。
お花をいたゞく

▲▼48ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月12日(木)

熱 三十七度

脈 八二

便 二回

▲▼49ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月13日(金)

平熱 一日目

脈 八八

便 三回

流動食

日本滑空機工業組合一同御見舞を戴く

船橋兄 見えられて卵を戴く

▲▼50ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月15日(日)

平熱 二日目

脈 七二

便 二回

佐藤様御見舞に卵を戴く

▲▼51ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月16日(月)

平熱三日目

脈 八七

便 一回

初めて一分粥

本日ヨリオマジリトナル 一分ダガウラゴシノジヤガイモト共ニウマカッタ

▲▼52ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月17日(火)

熱 平熱四日目

脈 七五

便 一回

おまじり三分粥

宇賀様来訪す

▲▼53ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月18日(水)

天気 晴

時事 祝賀式 昭南島入場式

熱 平熱五日目

脈 六八

便 一回

お交り二分粥

音武様来訪す

恵美子和孩子病院に来る

和孩子元気がないので先生に見て戴いたが別に異常なし

昭南島 生まれて今日の 祭りかな

英国は 泣いてもソソソ 泣ききれまい

▲▼54ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月19日(木)

天気 晴 酷寒

平熱六日

脈 七六

便 なし

お交り三分粥

今日は豊作と其のお友達の方が見舞に来て下さった

大口叔母様も共に

ととてもおなかぐすいて困る

腹空らす 潜上者や 國の虫

▲▼55ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月20日(金)

天気 晴天 寒

平熱七日目

脈 八十六

便 普通便(生まれて初めて固い便)

船橋の叔母様見えられる

大口の叔母様西瓜糖を下さる

夜明けぬ 今日唯(ママ)が 来るやらん

▲▼56ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月21日(土)

天気 晴天 酷寒

熱 三六度八分

脈 八〇

便 なし

おまじり五分粥

大口の叔母様飴をたくさん持つて来て下さった

樂しみや 食事々々の まち遠し
来ねばよし 来ねば呼びたき 親心

◆▼57ページ◆▼ 昭和17(1942)年2月22日(日)

天気 晴天 小春日和

熱 三六度八分

脈 八〇

便 なし

おまじり六分

隣室の女をともらいて

主と子供 あわで散りゆく 心やは

たび一繡片の煙のすえぞ日岸なれ

仁三郎徳治和子来てくれて嬉しかった

伊藤三吉様来た

五時半(ナカバ) 小窓の外は あけそめぬ

◆▼58ページ◆▼ 昭和17(1942)年2月23日(月)

天気 晴 小春日和

熱 三六度五分

脈 七二

検便第一回

はつ坐り 見上げし室の 床を見下(み)る

初坐り 思つた程に 事もなし

検便に 合格せよと 祈るなり

心せよ 法悪報謝の 醜し世ぞ

四日振り 大難産の 心よさ

來訪金太郎、同妻、スシヤ、母、興吉入院中ノ人 イツレモ玉子貰フ

今日初メテヒラメノ煮付夜ツク 実ニウマカッタ 午前一回 三時二回晝夜食事毎ニ
坐ス 今日カラ初メデアル 夜ハダイブシツカリシタ

▲▼59ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月24日(火)

天気 雨後曇

時事 日本潜水艦アメリカ本土ヲ砲ゲキス

熱 三十六度八分

脈 七八

便 なし

長あくび 健康帰る しるし哉

十時頃兄來 久シ振りリデ 話ハツキナカッタ 正午 千葉模型商組合發起人ノ件デ白

戸ヘ一二名集マル爲メトノ事デアッタ

午後仁三郎來ル

小窓句

三十分 小窓オクル、雨ノ朝

▲▼60ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月25日(水)

天気 快晴

熱 三十七度

脈 七八

便 第二回検便 浣腸後摘出 とても苦しんだ

昨夜中降り續イタ雪ハ名残りナク晴レテ申分ナキ雪ノ朝ヲ示ス。

初メテ寢台ノ上ニ立ツテ中々六ヶ間

第二回検便ノ爲メ大便ヲ取ルノ二十時半ヨリ初メタガ出ズ イチヂク浣腸シテダメ。

更ニワスリンヲヤッタガ出ナイ處カ、気分ガ悪クナツテ來タノデツヒニ青木看護婦ガ手

デ引出シテ呉レタガ非常ニ苦シンダ 此間一時間半 十二時終ル 其後数回出便アリ

夜八時ニテ止ル

大難産 片腹悪く 熱進む

昨夜ノ雪

静けさや かた■さぐる 雪の夜

セコンドの 音にくらしき 雪の夜

▲▼61ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月26日(木)

天気 曇雪

熱 三十六度八分

脈 八十

便 ナシ

昨夜十二時ヨリ今正午迄ヨク眠ル 今迄シバラク夜三四時頃迄眠ツタコトガナカッタノ
デ今日ハ其點氣持チヨカッタ

昨日ヨリ普通ノ御飯トナル

仁三郎來 金太郎ノ代リ二角ガ來タ 成程防空演習中デアッタノダ。流シノコトヨクタ
ノンデヤル

夕方迄便通ナク心配トナル

小窓の句

我が爲めの 氣象觀測 小窓かな

竹の葉ト 幹の動きや 風測計

▲▼62ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月27日(金)

天気 雨後曇

熱 三十六度七分

脈 七二

便 浣腸 普通便

しとんと 春雨らしく 夜もすがら

晝過ぎ迄降ツテ居タ 午後清平ト木村君來 シバラク話シテ歸ル 清平ニ退院ノ時工
場ヨリ五百円借リル事ヲ申込マセル 夜藤田一日入営ニツキ挨拶ニ來ル 涙ガ出タ

仁三郎來ル 小サナ用ガヨクアルモノダ

午後二時半 ワスリンカン腸ヲ行フ 今日ハスグ快ヨク今迄滞ツテ居タト思フモノ迄皆

出タノデ快ナツタ

不要裡に かんちやう腹の 快よき

今日初メテ室ノ中ヲ歩いて見タガトモダメデアッタ

立つて見つ 歩いて見つ室の 広さかな

小窓下 たん検よろゝ 初あるき

初あるき 窓外たん検 よろゝと

▲▼63ページ▲▼ 昭和17(1942)年2月28日(土)

天気 晴

熱 三十六度八分

脈 八十

便 普通便一回

タンケンノ結果

冬枯に 百面相の 大榎

百面相 正体見たり 大榎

朝電話シテ大坂ノオバサン來 家内ノドテラマトメルコトタノム 恵美子、和子泊 看護婦ノ支拂二人デ百五十四円今日迄ノ分支拂フ 三時頃班長全員打揃ツテ菓物ノビン積ヲ以テ見舞ニ來テ呉レタ。村山ノミ又別ニ玉子ヲ呉レル 玉子ガ今日ノ時勢ニカクモ沢山フンダンニ喰ベラレ尙宅ニ百個 コチラニモ百近クアルト云フ事ハ何ンタル有難イ事デアロウ。午後カタカッタガ便通アリ 少シ量ガ少ナイト思ワレタガ先ヅヨカッタ 朝工政課長、船崎氏ニ手紙書キ恵美子ニ代書タノム

一仕事 はたして今日の 日本晴

▲▼64ページ▲▼ 三月

退院後ノ静養第一

次ギノ活動ニ対スル心構ヘヲ作ルコト

▲▼65ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月1日(日)

天気 晴

熱 三十六度九分

脈 八十

便 普通便一回

昨日ノツカレデ昨夜ハヨイ工合ニ眠レタ 朝電話シテ三代川ニ來テ貰ヒ野菜ヲ宅へ運ンデ貰フ

太田、引續キ野口氏九時半十時頃ヨリ十一時過ギ迄話ス。高橋君ノ件今後ヤラナク

テモヨイ様自分ニ任カセテ呉レトノコト。藤枝ノ事相談 援助ニツイテ一應今ノヤリ方
ヲ改メサセルコト 自分ガ直ツテカラ行ク前ニ野口君行ツテ話シスルトノコトデアッタ
朝食後又一眠リシタ 九時半三代川ガ來テ起サレタ時便ヲヤツテ見タガ見タガ中々
固カッタガ遂ニ出タ キレイニ皆出タラシク氣持ヨクコトニ初メ左巻ノ太イノヲ見テウレ
シクナッタ

有難や 黄金佛は 左巻

今日ハ一時間早く起床 渡辺看護婦千葉迄魚買ヒニ行ツタノニ尾モ得ラレナカッタ

380頁へ

(380ページへ続く)

▲▼66ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月2日(月)

天気 晴曇

時事 ジヤバ島三方面ヨリ上陸ス

熱 三十六度八分

脈 十回

便 普通便一回

昨夜ハ余リヨク眠レナカッタ ドウシタコトカ

久シ振リデナホ來 二三日兵隊送りニ行ツテ來タトノコト

喰ツテ寝て たれるばかりもへに 苦勞ありへ苦勞なり

々々 水鳥や

喰ふ事

材料の 思ふにまかせぬ 時勢かな

寝る事

しんしんと 寒夜眠れぬ つらさかな

たれる事

大難産 すぎてあしたが 氣にかゝる

電話ヲカケ使ヲ呼ビ星野氏へ私用ノ件注意書ト清平ニ金ノ件乙竹ニ私信ノ件云フテヤ
ル。宇賀君ニ時頃來

381頁へ

(381ページへ続く)

▲▼67ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月3日(火)

天気 雨曇

熱 脈 便

朝カラ雨 クラクテ気分悪シ 昨夜モ又ヨク眠レナカッタ 今頃便通ハヨロシ 本日ノ歩
行三回午後各二丁ヅ、疑チブス新患者入院ス 二十一才ノ青年 船橋ノモノ 看護
婦ナクコチラノヲ當分手傳ワセルコトトス

本月初メ鳥ヲロスニタ、キニサセタノニ、サ、身ノ小間切ヲ作ツテ煮方モマツカッタ 今日
午前午後二回モノノお八ツヲ喰フ ソレデモ便通ノヨイ爲カ腹ガヘツタ。院長ト相談ノ
上天氣ニナリ次第消毒シテ退院スルコトニ決定ス 妻ハマダ半月ハドウシテモカ、ル。退院
ノ準備工作ヲナス。午後会社重役ニ滑空機ニ関スル意見書ヲ書ク 用箋十枚
入院以來ノ信書仁三郎退院ノ着物ト共ニ持参ス 夕方ヨリ夜ニカケテ整理ヲ終ル

▲▼68ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月4日(水)

天気 晴

昨夜十二時過妻小便ノ注射ヲナス 一時頃ヨリ眠リ時々目ハ醒メタガ六時半迄ヨク
眠レタ。スグ看護婦ヲ起シタガ十五分位タツテ漸ク起キル 午前中仁三郎帶トハカマヲ
持参ス。消毒ノ都合デ退院日明日ト決定ス 仁三郎來タガ衣類ノ内帶ヲ忘レテ居タ
ノヲ袋ト一所ニ持ツテ來テ呉レタ 明日退院ニツイテ準備ヲ命ズ 午後兄來 清平オデ
キノ爲メ発熱 今日モ寢テ居ルトノコト 醫者ニ見セル様話ス 星野ト金ノ件相談シタ
ガ、ダメ 明日ノ支拂モ僅カニ二千円シカ金ガナイトノコトデアッタ 兄ノ金ヲ五百円
借りル事トス 明日ハ兄ニ來テ貰フトシソレ、心付等打合セル
家内モ今日カラアメラナメ明日カラオマジリニナルコトニナッタ モウ大丈夫

▲▼69ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月5日(木)

天気 曇リ

時事 小笠原島東南ノ南鳥島ニ昨日卅機ヨリナル空襲アリ 内七機ゲキ墜 一時間ニ
シテゲキ退ス 之レ本土ヘノ初ノ空襲ナリ

初メテ本土ニ空襲警報ガ今朝六時半頃発セラレタガ後チ味方ノ機ト判明ス
本日ヨリ体温ハカラス 薬モ不用

單獨後ノ食事表

夜 イリ玉子、ホウレン草、ジャカ芋

雨カト心配シタガ一日降ラナカッタ

遠慮シテ 退院送る 春の雨

妻ハ今日カラおまじリ 看護婦イソガシカッタノデ自分タバサセテヤル 少シ米ガ多カッタノデカスガアルト出シタリシタ

自分ハ朝モ晝モ玉子 フンダンニ鳥肉ヲアシラヒ御馳走デアッタ 一時半兄來 其頃消毒モ全部終リ自身小モノノ荷造リヲシタリシタ 醫師ノ支拂三百七十円位 看護婦其他心付五十六円、兄ノ手ヨリ支拂 工場金ナク借リラレナイトノコトニ兄ヨリ星野ニ器材ヘ行ツテ話ス様云ワシム。三時頃退院 途中工場ニヨリ事務所ダケ挨拶シテ航空神社ニ無事退院ノ御礼参拜ヲナシ帰宅 兄ニ一本ツケル 下ノキミト小供二人來テ居テ一寸ウルサカッタ三月五日 退院の日 入院當時ノ話ヲ聞キテ
しらぬ間に 命一つ ひろひける

退院

われ出る日 妻おまじりに なる日かな

四十日 苦樂の室に 名残り情

妻の事 くれぐれたのむ みとり人

妻のこゝろ 病院あとに 子等の家

小窓とも 今日が分れの よあけかな

寒き夜も 親身及ばぬ みとりかな (少シヨスギルガ)

◆▼70ページ◆▼ 昭和17(1942)年3月6日(金)

天気 雨後晴

朝 ホウレン草 スマシ汁 ボイル玉子二個、鯛味噌

晝 朝ノホウレン草汁ニ餅三ヶ、シヨウ付 焼餅二個

夜 アカエノニツケ、同味噌汁 玉子焼三ヶ分、大根、鯛ミソ 今夜ノ大根ハ生レテ初メテウマイト思ツテ喰ツタ

五時半エミ子 六時仁三郎 六時半和子、七時自分ノ順序デ起床 雨ガ降ツタリ止ンダリシタガ十時頃ヨリ晴レ午後ハトモ熱クナツタ エミ子仕事後出勤サセル 大藪來組合事務所他へ借リラレタコト、其他事ム上ノ協議ヲナス。十時頃星野氏來 ツヒデニ賣上増加方針ヲ取ラレタキ旨強調ス

正午太田ヲ呼び大坂出張、現在ノ作業ニツキ聞イタリ、命ジタリス。午後久子、菊子來 丁度、湯ガワイテ居タノデ日當ノヨイ、ロウカデ腰ヨリ下ヲ洗フ。スツパダカデ、ヤ

ツタガ寒クナクヨイ気持チデアッタ。散髪屋へ今日タノミニヤツタガ明日來ルトノコトデアッタ

夕方兄來 明バンノ汽車デ行クコトニシタ由

▲▼71ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月7日(土)

天気 雨後曇リ

時事 ハワイ特別攻撃隊九軍神発表セラル。大日本万歳 九軍神万歳

朝 昨夜ノ残り アカエノニツケト汁。半熟玉子ニケ、シヤガ芋。 晝 ボイル玉子ニケシヤガ芋

夜 イリ玉子、シヤガ芋、トウフノ味噌汁

クリマンヂウ四ケ 夜洋菓子一ケ リンゴ二個

七時起床 今日ハ運動ハ二回シカ出來ナカッタ

大坂ノ重二ト姉ニ手紙書キ今夜立ツ兄ニ事ツケル 汽車賃二十円自分持ツコトニシテ兄ニ渡ス 太田会社ニ金ナク自分ノ金六十円持ツテ來タトノコトニ更ニ四十円貸與ス 正午清平ト回間來 回間縄野カラ呉レタトホテイヤノ栗マンジュウヲ一函持參 近頃一寸口ニ這入ラナイウマイモノデアッタ

晝食後回間上京サセ清平ニ例ノ滑空機ニ対スル私見ヲ見セ意見ヲ聞ク。各重役ニ配布スルコトニハ反対シテ居タガ理由トテナクタバヤツテモ仕方ガナイダロウ位ノコトデアッタ 木村ノ滑空機反対ニツイテシキリニ云フノデ、ヨンデヨク話スコトトシタガ之又ムダダロウトノコト 午後散髪屋來テ呉レル 髪ヲノバスベク前ヲ残シテ貰フ 小供達ハヘンダト云ツテ居タ

夜徳治十時過ぎ帰ル 洋菓子一函持參 十二時頃迄話ス

▲▼70ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月6日(金)

五日夜中ニ目醒て

妻ヲ思ひて

今頃は 淋しさ一つ 迫るらん

退院

帰り來て 感謝を捧ぐる 神佛

味はえる 寢台の味 なつかしむ

久々に 見る工場の なつかしき

紅梅が 笑顔で迎へる 床の間に

帰り来て 変りの一つは 瓦斯悪し
二つには 足の痛みて 坐りがち
さかづきに 二杯あまりの ふけとれぬ
上むけば 骨にこたへる たゞみかな遠慮して 吾退院に 春の雨
春雨も 祝心か 夜に起す

▲▼72ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月8日(日)

天気 晴

時事 重二再婚ノ結婚式 コチラヨリ兄代表シテ参列ス
朝 玉子焼、トウ汁、鯛味噌
晝 子芋、油焼トーフ及半熟ニケ
夜 茶碗ムシ、子芋 昨夜ヨリ沢庵ヲキザンデ少シツ、
便通 六時頃一回 十時頃一回 カタケレドモヤ、ユルム

七時エミ子ヲ起シ八時起床ス 九時半食事終ル 徳次ト仁三郎病院ニ行ク 砂糖少シ
持タセテヤル
晝回間、藤原來 藤原カステーラヲ呉レタ 砂糖モ明日届ケルトノコトデアッタ。清平
來 コレヨリ先キ島田氏來 帰ツタアトデアッタ 約束シテアッタトノコト 模型屋ノ会
合ガ一時カラ白戸ノ處デアルトノコト 丁度一時デアッタノデ急ガセル。回間等二時
過ギ帰ル。
舟崎畑両氏ニ意見書ヲ送ル 手紙ヲ書キ外ニ不在中來書ノ反(ママ)書ヲ数通書ク 退
院ノ通知全部終ル 四時半頃ニナル 大分クタブレタ。
初メテ外ニ出氏神ニ詣デル 徳次写真取ル

3833頁へ

(3833ページへ続く)

▲▼73ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月9日(月)

天気 晴

時事 ラーングリーン昨日午前十時占領
朝 ジャガ芋ト同味噌汁 茶碗蒸
晝 ボイル玉子ニケ ジャガ芋
夜 茶碗蒸モチ入、小タラ煮付 ホーレン草。メシガ足ラナイノデ皆アト餅ヲ喰フ

ウス曇リ 七時起床 朝食後徳治帰ル 玉子八ツ持ッテ帰ル 大藪來 社長其他東京方面東京ニテ投函ヲ依頼ス。ステッキノ長サヲ一寸五分バカリツメル 一時過ギ木村課長來 賣上増加ノ件ニツキヨク話シ自分ノ私見書ヲ渡ス 話中井上武三郎氏來 三時頃迄大坂ノ藤井寺ノ近所デヤルトノコト 資本家ハ瀬戸内海ノ砂糖屋デ三十万迄出ストノコト。浅見君ヲタノムツモリトノコトニ井上氏ノ身分ニツキ初メノ内ニヨクキメテ居クコトヲ注意ス 乞ヒヨリ守屋課長、ミヅノ梅津君、宮崎雄蔵ニ名刺デ照(ママ)介ス 夕方郵便ヲ出ス爲メ中台迄歩ク 大シテ何ントモナカッタ。今日午後恵美子病院ヘヤル 退院ガ大分早クナル由 今日カラ全ガヒ ソシテ第一回ノ検便シタ由

▲▼74ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月10日(火)

天気 雨後曇リ

時事 ジャバ征服 蘭印全土無條件降伏

朝 ジャガ芋 ホウレン草 スマシ玉子入

晝 玉子イリ、ジャガ芋

夜 カレイ、ノニツケト味噌汁、シヤガ芋

昨夜ハ少シヨク眠レタ 朝食後大藪ト朝日式講習会ノ件打合せ 本日大藪ヨリ本庄氏へ話シスル事

九時過ぎ会社ノ車來 病院ニ行ク 丁度魚屋ニカレイガアッタノデニ切りト砂糖少々 退院迄ノ分持ス 自動車ニ鯛ミソ買ヒニヤル 十二時近クナッテ漸ク來ル 途中パンクシタトノ事 食事 ウタタネシテ居ル處へ縄野君來 アメ玉、砂糖二百目位、上等ノ鳥肉三百目位持ッテ來テ呉レタ。マダ入用ノモノハ何ンデモ云ッテ呉レトノコトデアッタ 三時前帰ル。ソノ後入院以來ノ自作句ノ整理ヲナス 五時過ぎ迄カ、ル 夕食後八時前頃床ニ入り間モナク眠ル

▲▼75ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月11日(水)

天気 曇後晴

朝 里イモ、トカレイ味噌汁 半熟二個

晝 鳥ソボロ玉子マブス 里芋

夜 鳥ノライスカレー

間食 カステラ、果汁、南京マメ、アメ玉

七時前起床 昨夜八時頃ヨリ眠ツタガ十二時半目醒メテカラツヒニ眠レナカッタ

晝食後三通手紙ヲ書キ十時頃工場へ行ツテ見ルベク出カケ魚屋前デ之レカラ宅へ行ク
ト云フ宇賀ニ會フ 最モ数日前カラ來ル様ニ云ツテアッタノデ來タノデ引返ス 結局本
年ノ入所生マダ十五名シカ確定シテ居ナイトノコトニ之レガ確定ノ爲奔走スル事、ト傷
イ軍人中ヨリ木工、板金ノ熟練工ヲ物色スルコトノニツヲ命ズ。ソコへ大坂ヨリ飯田來
千枚漬ヲ持參ス。十二時頃井上武三郎氏來 同時ニ二人ハ歸ル 工政課長肺炎デア
院中トノコト モウ大分ヨイ由 奈良原氏來 三時過ギ二人共歸ル
朝十丁午後二十丁歩ク タ方腰ガ少シ痛カッタ

▲▼76ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月12日(木)

天気 快晴

朝 玉子ゾーニ二杯 焼餅ニツ

晝 昨夜ノライスカレ

夜 タラ、イリ玉子ニケ ホーレン草

三時船橋ニテ餅菓子ニツ 少シ多カッタ様ダ

和子遠足 自分モ六時半過ぎ起床 七時ニハ皆ト食事 足ガムクンデ居ルノデ工場ノ
自動車ヲ見ニヤル 九時二十分迎へニ來タノデ醫者ニ行ク ツヒデニ味噌持參 鳥ヲスツ
カリ忘レタ 醫師ノ話シデハ水血ト云ツテ太ル前ニ來ル現像(ママ)デ何ンデモナイガメタ
ポリンノ錠剤ヲノンダヲヨカウトノコトデアッタ 千葉へ自動車ヤリ縄野二十円預ケル
豚肉四百円持ツテ來タ 菓子ハ明日午前九時ニ出來ルトノコト 工場ニヨルト清平昨日
行ツテタノンデ居イタノダンウデ式百円ヲ船橋ノモノ 十二時迄工場ニ居リ帰途鈴木
ニヨル 下請ノ話シアリ 不圖思ヒツイテ塗装専門ノ下請工場ヲヤラセタラト考ヘル
太田大坂ヨリ帰り報告ヲ聞ク 鈴木ノ話シテ居ク
二時半頃自動車ニテ船橋ニ行キ鈴木館ノ處カラ歩キ買物シツ、行ク 油ヲ一升貰ヒ兄
ノ店初メテ見ル 五時頃自動車迎へニ來 帰宅 東氏來タガ帰ツタラシイトノコト

▲▼77ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月13日(金)

天気 晴少曇

朝 トーフ味噌汁 里芋 ホーレン草

晝 餅シルコ、餅茶漬ケ 正油焼餅各ニケツ、

夜 豚トネギノ煮付、玉子入り、玉子トープ、ホーレン草

間食 リンゴニケ

六時半起床 朝食後三吉ニ明日ノ自動車ノ件星野氏ニ來テ貰フ件ヲ事ツケル 星野

來ラレナイトノ返事アリタレドモ一時頃來 工場ノコトハ永クナルノデ話サズ會計ニ關スル報告ダケ聞ク 自分会社ヨリ六百円借りタイコト 都合悪ルケレバ社員ニハ極秘国防貯金ヲ下ゲ不足ヲ会社ヨリ借りルコトトス。星野諒シテ帰ル 一時ヨリ海軍ノ検査官指導官ト懇談後船橋ヘ夕食ニ行ク由 明日ハ海軍サン皆帰ル
朝ノ内小鳥ノ箱ソウジ トマリ木モ洗ツテヤル
午後保険、債險(ママ)、土地、等ヲ帳簿上ニ整理ス
右ノ爲メ今日ハ運動ヲ取ラズ 恵美子病院ヘヤル 検便ノ結果午後二時頃漸ク分リナシトノコト 明日ヤルヲ九時頃帰リタイトノコト 自動車ノ手配ヲナス

▲▼78ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月14日(土)

天気 晴夜雨

六時半起床 今日ハきち退院ノ日 準備ヲトトノエ自動車ヲ待ツ 九時半頃來 スグ行ク 丁度身体ヲフイテ居ル處デアッタ 醫者ト視モリ今後ノコトヲ聞イテ居キタイ又自分ノ鼻ノ中モ氣持悪イノデ付薬デモ貰フツモリノ處家内ノ注射ヲシタノミデ、六二話シハ出來ナカッタ。勘定モマダ出來テ居ナイノデ一應引上ル 金太郎、ナホ同車午後金太郎一人デ会社ノ小型ニテ荷物ヲ運ブ 自動車代十五円ハ高カッタ
今日ハ郵便ヲ入レニ出タノト病院ヘ行ツタダケ運動
生産會議ヲ月曜日ニ行フベク(課長以上)一週間延期シテ呉レトノ星野氏ヨリ回答アリタ方清平立寄ル 清平モ自分ト意見ヲ一致サセテ居キタイトノコトデアッタ グライダーニツイテハ大分意見ニ差ガアッタ

▲▼79ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月15日(日)

天気 曇雨

朝 ネギ味噌汁、焼玉子三切。
晝 豚焼肉二切、太根
夜 ホウボウ塩焼、豚入サツマ汁
今日京都ノ千枚漬ヲ出ス

六時半起床 天候悪ク終日在宅 食後新聞 小鳥手入レ
來客 長島次良吉見舞ノ爲メ 佐藤孝吉母危篤ニツキ帰郷ノ爲メ
午後三時過ギモウ越マイト思ツタ福地氏來 娘サンノコトト見舞ニ來 陸軍ノ件ト福田行ツタ話聞ク。局第一部長ヨリ国際ヘグライダーヲヤツテ呉レト話シアリタル由
午後下駄函ト流シノ設計ヲナシ夜八時ニ及ブ
大口ナホアメニベルト買ツタトテ今八百円バカリ持ツテ來テ呉レタ 家内心配シタ食欲

ガ出テ來テ今日ハ腹ガヘツテ來タトノコト 便モ固イガ出タ由 大ニ安心ス

▲▼80ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月16日(月)

天気 雨夕方晴

朝 ネギミン汁 ジヤガ芋

晝 ジヤガ芋

夜 ホーレン草玉子卷キ ボイル玉子 イワシノ生干

六時半起床 雨ノ爲メ終日ユタツ 新聞讀ミ終ルノ二十時頃迄カ、ル 午後本函、ト小鳥ノ棚ノ設計ヲナス

夕食後眠ク八時前床ニ入ル

昨日今日天候悪ク運動不足デ腹工合ヨクナイ 注意ヲ要ス

家内食欲大キニ進ム

晝前布施醫院、島田看護会へ礼状ヲ兼ネテ家内ノ模様ヲ知ラセル

雨中今朝初メテ鶯ノ声ヲ聞ク

春雨や 初音聞くなり 窓の外

自分には 初音聞くなり 春の雨

▲▼81ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月17日(火)

天気 晴時々曇

朝 太根味噌汁 玉子焼 ホーレン草

晝 餅四切レ焼イテ正油ツケ

夜 マグロノサシミ、イリ玉子、太根ノニツケ、イワシノツクダニ 太根ミン汁

昨日一昨日雨ノ爲メ運動不足ノ上ニ少々喰ヒスギテ今日ハ便ガ少シヤハラカデ腹ハイツモ張ツテ居タノデ注意シ間食ヲ止メル 夕方帰宅後ニ二回目ノ入浴デ腹迄ヨクナツタ様ナ氣ガシタ

兄午後來 五百円ト小立替金十円五十銭返ス 大坂ノ姉來ル氣ガアルラシイコトヲ話シテ居タ

今日ハ少シ散歩シ風呂ノ水百ダケ押ス

金太郎家内來テ羽織ノホドキモノヲト薪割り等家事ヲヤツテ呉レ畑ニジヤガ芋ニウネ植テ居イタトノコトデアッタ 恵美子買物ト徳治ノ處へ行き不在中トテ助カッタ。艶子ツヒニ來ラズ

カナリヤが オキヨ、と 朝毎は今朝も鳴く

◆▼82ページ◆▼ 昭和17(1942)年3月18日(水)

天気 快晴

朝 ネギミン汁ニ玉子入レル。イワシノツクダニ
晝 ニギリメシ イワシ佃煮。梅干一ヶ ウデ玉子二ヶ
夕 アコウ鯛シオ焼 ホーレン草ト同ミン汁、ウニ、鯛ミンハ例ノ通り

風ナク温イ日デアッタ 六時半起床 朝食ヲヤ、控エル 起キテスグ出タ大便モヨカッタ
腹工合直ル 晝ハローカニ籐椅子ヲ持チ出シ海ヲ見ナガラニギリメシヲ喰フ ピクニック
気分

午前中工賃表ヲ一二月分写シ終ル 晝食後一時散髪ニ行キ元ノ通りミジカク刈ルサ
ツ。パリシタ 二時工場ニ行キ三時迄工場内ヲ一巡ス。器材ヨリ見舞トシテ青木會計ヨ
リ受取ル 金五百円也 スグ式百円ハ工場ノ分へ返金ス 夕方富山ノ塚田氏來 工場
利用ノ件

寒よりも 冷たくなりぬ 井戸の水

◆▼83ページ◆▼ 昭和17(1942)年3月19日(木)

天気 晴

朝 昨日ノ残りノミン汁 ホーレン草
晝 手製ノ榮養。パン玉子オトシ焼、代用食デスマス
夜 シチュー野菜、ホーレン草ノゴマアエ

仁三郎四時ニ起コス 試験中 今日デ終ワリ

十二時頃ヨリ目醒メ工場ノコト考ヘルト眠レズツヒニ朝迄ウト、ス

和子ガ學藝会デオドルノデ見ガテラ野口君へ昨日貰ッタ糶ヲ持ッテ行ク 不在 糶ハ昨
日ヤハリ貰ッタトノコト 學藝会ハ丁度初マル處デアッタ 五番目ノ三年ノ竹ノ子祭デ
和子ノオドリヲ見テスグ帰ル 帰宅後工場 平均工賃ヲ調査ス

晝食後クタブレタノデ縁側デ一眠リシテ居ル處へ国際航空ノ小島氏來 福知氏二代ッ
テ陸軍方面ヲヤッテ居ルラシイ 昨年ノマイゼニ機マダ其マニナッテ居ルノデ困ッテ居
ルトノコトデアッタ 三時ヨリ工場ニ行ク 星野氏今日ハ出來(ママ)居タ 風ヲ引イタト
ノコト 工場へ行ッテ居ル間ニ帰ッテシマウ

帰宅後手紙ナド書イテ居ルト篠川ボートルトヤ見舞方々見積書持参ス

▲▼84ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月20日(金)

天気 快晴風ナシ

朝 魚ノコロツケ、昨夜ノシチュウ残、ホーレン草

晝 ブリノテリ焼キ 生玉子一ヶ

夜 鳥ノスキ焼 生玉子一ヶ

上天気デアッタ 六時半起床 朝礼迄ニ出社々員一同ニ入院中ノ礼ヲ述ベル 十時迄
九三中練工程ノ調査ヲナシ帰ル途中星野氏ニ會フ。少シクタブレタ 帰宅後手紙ヲ書
ク 太田來 大連送り計器出ス爲メ鍵ヲ渡ス。ツヒデニ二三日前カラ、他ノ鶏ニイヂメ
ラレテ死ニカゝツテ居ル鳥ヲベテ貰フ 午後右ノ料理ニ三時迄カゝル。兄來

四時過ギ石島氏外三名來宅進メタガツヒニ上ラズニ帰ッタ 課長宛自分ノ手紙見タト
ノコトデアッタ

夜角夫妻ヲ呼ビタ食ヲ共ニス 兄ハ豚ヲ買ツテ、清平ガ待ツテ居ルカラト喰ワズニ帰ッタ
久子午朝(ママ)三時男子ヲ生ンダ由

家内昨夜ノンダ通ジ薬ガキ、過ギテカ今日午後ヨリ下痢ヲナス

▲▼85ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月21日(土)

天気 晴

朝 京菜ノミソ汁 ヒラメノアラ煮。

晝 洋食ランチ

夜 鳥入イリ玉子 ヒラメアラ煮、人参トカブノ煮付

六時過ギテ皆起コス 七時起床 朝食新聞後仕度シテ九時過ギ仁三郎ヲ連レテ初メテ
ノ上京。京成デ押上迄行ク バスヲ待ツタガ乗レズ遂ニタクシーニス お寺ニテ十分余リ
説教ヲ聞キ、食事ハ辞退シテ浅草ニ出途中ランチデ腹ヲ作ル 初メテノ洋食デアッタ
観音様ニ参詣シ梅園ニヨッタガ何ンモ出來ズ豆ノナイミツ豆ヲ一杯ヅ、喰テ、又バスデ
永間待ツ 來ラズ 市電ニ出押上ニ出三時船橋着 クタブレテトモ津田沼へ歩ケソウ
ニモナイデ工場へ電話シ自動車ニ迎ヘニ來テ貰フ。ヤット帰宅 家内ノ下痢モ止ツタ由

中日や 満都に煙る 春がすみ

▲▼86ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月22日(日)

天気晴

朝食。パン バタートースト

晝 マグロノサシミ

夜 豚スキ焼 肉ハ五キレ位デガスヲ出ス。メシニ杯

六時半起床後 エミ子ヤ仁三郎ヲ起コス 朝食少シオソクナル 九時半自動車來 佐藤同乗松戸工場ニ行キ退院ノ挨拶ス 佐藤ニ頼シダ女中一人有ルトノコトニスグ電報デ呼ンデ貰フコトヲ依頼ス 終ツテ八柱へ御参リシ奈良原サンニ寄り徳次ニ引延バサセタ写真ヲ渡ス 一二日後鏡石へ行ク由。

一時帰宅 晝食後仁三郎豚肉取りニ千葉へ行ヤル

午後出場 飛行機部ノ一、二月支出工賃ヲ調査研究ス

夕方徳治ノ爲メニスキ焼ノ外ニテキヲ作ツテヤル 家内下痢ハ止ツタガ昨日ハ身体ガダルクテ困ルトノコトニ今夜醫者ニ見セル 何ントモナシトノコト

▲▼87ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月23日(月)

天気晴

朝 ミソ汁 ジヤガ汁

晝 昨夜ノスキヤキ鍋ニメシヲ入レ焼イテ喰フ

夜 アンコウノ煮付

五時半エミ子ヲ起ス 六時五十分起床 九時工場出 階上ニテ滑空機工場、飛行機工場ノ工員調査ヲ行フ 受注ヲ調査サセ十一時頃帰宅ス 星野氏中央養生所ノ機関生卒業式ニ出張ス

朝大藪來宅 組合ノ総会開催ノ件其他二三命ズ

午後青島ニチューブノ件手紙書キ兄ニタノム

本復祝お返シノ石鹼代二百円同函代トシテ二十円宇賀ニ預ケル 佐藤ニ女中來ル様電報ヲ打タス 旅費十円預ケル

午後植木ノ植替ヲ仕様ト思ツテ今日モ又出來ナカッタ

家内又受シルノデ午後イチヂクカン腸二本ヲス 少シ出タガ腹張ツテ夕食喰ワズ 氣ニナル

▲▼88ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月24日(火)

天気 雨風晴

朝

晝 ニン人(ママ)ノ白アエ
夜 サカナノ煮付

今日ハ氣違ヒ天氣デアッタ

昨日午後カラ頭痛ガシテ夕方ニ六七度二分發熱シタガ今日ハ晝前ニ七度六分 午後八度四分 下ラナイノデア醫者ヲ呼ブ 八時頃來テ呉レタ 發熱ノ原因ハ鼻ニアルトノコト今朝來鼻が大變ハレ上ツテ氣持チ悪ルカッタ。アマリ鼻ノ穴ヲイジッタノデ、バイキンガ這入ツタノダロウ。面腸(ママ)ノ様ナモノダトノコトデアッタ。注射シテアト、アスタフィールフノンデ居ケトノコトデアッタ

家内食欲ナク困ル 醫者ヨリ食欲ノ出ル薬ヲ貰フ 午後ツツト床ニツク
夜小便ガ近クテ困ル 殆ンド一時間毎ニ便所ニ行

▲▼89ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月25日(水)

天氣晴

朝 玉子焼

晝 ズーニ

夜 醫者ニ注意サレカユト、シヤガイモノウラゴシ、玉子バカリノ茶碗ムシ

朝七度五分 午後八度三分 三時醫者來 丁度リンゴヲ喰ツテ居タ處デロヲウゴカシテハイケナイ 話シラシテモイケナイトノコトニ、エラクオドカサレル 面腸(ママ)ダトノコト 今日ハイクラガ、ハレハ引イタ様デアッタ

アスタフィール醫者ハニツツ、トニツノヲ晝ダケニツノムコトトス。兄來 大坂ノ千代子結婚ノコト一所ニタノム

▲▼90ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月26日(木)

天氣晴

朝晝夜共カユシヤガ芋イリ玉子 夜ダケ平目一切ツク

終日床ニツク 晝井上武三郎氏畑氏ニ手紙書ク 今日熱ハヤ、低ク最高八度一分デアツタガ、ハレルノハ顔全体ニ及ビニ左右ニホ、ガブラ下ルニイタリドーモアスタフィールガキカナイラシイ

仁三郎、登テ鳥ノ砂取替テ呉レル

カナリヤ巢新ラシイノト取替雛ヲ入レテヤル

尾形何ニカ話シガアルトテ夕方來タガ会ワズニ歸ス 又來ル由

▲▼91ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月27日(金)

天気晴

朝晝夜共ニカウト玉子

本日ハ熱ハ午後三十七度七分デ今迄ノ中一番低ク從ツテ気分モヨシ。但シ顔ハヤハリ、ホ、迫張レテ居タ 醫者來ラズ電話デホーサンナンコウヲ使エトノコトニ之レヲ使フ。ピツタリツイテ居ルノデ大變工合ハヨカッタ 夜ハ鼻ノ穴ヲナンコウヲガーゼニツケテツメテ寢タ 少々苦シカッタガ我慢ス

夜十時十分頃醫者ノ來タラシイノデ仁三郎飛ンデ行ツタガ丁度十時ニ門ヲベタ處デアツタノデスグ引返シタラシク、ガソリンノニホヒダケ残テ居タ由

畑氏、井上武三郎氏手紙書ク

夕方清平來 重要会谈ヲナス

▲▼92ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月28日(土)

天気晴

朝 カユ 玉子

晝 ヲ ヲ

夜 ヲ カレイ ホーレンソウ

昨日カラ大分寒クナッタ

今日ハ平熱ニナッタ アスタフィールヲノミ初メテ五日目ニナルノデ醫者ニ明日カラドウスルカ聞ク 續ケテ呉レトノコトデアッタ

張レハヅット引イテ來タ

畑氏ヨリ海軍モ許可アリタル旨通知アリ

平松時善子爵結婚ノ通知アリ

夜十一時前醫者來 ソレ迄今日ハ平熱ト嬉(ママン)ンデ居タノニ八度ニナツテ居タ。外科ニ見テ貰ヘトテトウ、布施サン、ニゲ出シシタ 結局明日佐久間サンへ行コトニス

▲▼93ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月29日(日)

天気曇リ

朝 ホットケーキ 半熟玉子二個

晝 ウドンノバタ焼き ケチャップ、モチ二個

三時半牛乳一合
夜

六時女中ヲ起ス 中々ヨク働ク子デ台所モキレイニナツタ 食後手當ヲシテ見ルト鼻ノ下ガヤ、白クナツテ居ルノト工場ノ自動車ガ松戸ヘ行ツテ居ナイノデ佐久間外科行ヲ中止シ、タクノ吸出ヲツケルコトトシ買ヒニヤリ処置ス 晝食後更ニ手入レス 左ノ鼻カラ大キナ、カサブタガ取レタ。右ノ上入口カラハ鼻ノ下ヲ押ストヤハラカイ、ウミガタラ、トスグ出テ來タ 鼻ノ下ニ小サナ血ガポツリト出テ來タノデスグヤメ、スイ出シテ張リ鼻ノ穴ハホーサンナンコウヲツメテ居ク。畑、青島、其他四五通手紙書ク

▲▼94ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月30日(月)

天気 晴

朝 トウフノミソ汁 イリ玉子

晝 カユニカキモチヲ入レル。人惨(ママ)、コンニヤク

夜 ホウレン草ノバタイタメ、オトシ玉子 ヤサイ煮 晝ノ残

七時半起床 大藪來 エミ子ト一所ニ出社ス

十時過ぎ自動車來 仁三郎連レテ佐久間外科ニ行ク 大勢ノ患者ヲ待ツテ漸ク自分ノ番ニナツタガ、醫者ハ急(ママ)ガシク、六ニ経過モ聞カナイ。ヤハリ面疔ダトノコト 今迄ニ痛カッタデシヨウトノコトデアッタガ、一寸モ痛クナカッタノデ其旨答ヘタガ何ントモ云ワナカッタ。ヤハリ安静ニ寢テ居ルコト、食事ハカナイ程度ノヤワラカイモノ、モノハ余リ云ワナイコトノ注意ガアッタダケデ、若クテ余リニ急(ママ)ガシソウナ醫者デ頼リ少ナカッタ

二時半志村君來 成工社勘定、理事長仮出金勘定等ニツキ打合せ 其他ニツキ協議 廻間今月限り囑托(ママ)ヲトキタイトノ本庄氏ノ希望ノ由 同意ヲ與ヘル

▲▼95ページ▲▼ 昭和17(1942)年3月31日(火)

天気 曇後晴

朝 パン、イチゴジャム

晝 オジ■

夜 カユ、牛乳一合

朝食中大藪來 帳簿持ツテ上東京(ママ)。廻間、藤原來 藤原鳥一羽 肉トリンゴ四ヶナシ一ヶ呉レル 第一四半期ノ初級中級機ノ申請書見テ呉レト出シタガ一寸ト云フ訳

二行カナインノデ間違ヒナケレバヨイカラト、スグ出サセル 廻間君ノ用ハスプルスノ件
器材ノ方へ話シ方打合セ
自動車來 千葉ノ外科ニ行ク 今日ハ早クスム 帰りニ、台所用流シヲ八円八十五錢デ
出來合セヲ求メル
午後三時迄床ニツク。夕方仁三郎手傳ワセ忒四鉢盆栽ヲ植替ル

◆▼96ページ◆▼ 四月

二日

風止んで 一きわ高く ひばり鳴く
雲の峯 早夏景色 はだに汗

◆▼97ページ◆▼ 昭和17(1942)年4月1日(水)

天気晴

朝 パン

晝 オジヤ

夜 パン

天気ガヨイノデ徒歩醫師ニ行ク 十二時半帰ル

朝大藪來

井上武三郎氏正午來 六日ニ職人ヲ連レテ來ルトノコトデアッタ

太田善藏來 作業課長、宇賀ト意見ノ衝突ヲナシ帰宅シテ來タノデ何ントカシテ呉レ
トノコトニ仁三郎ニ手紙ヲ持タセテ星野氏ニ速カニ解決スル様申送ル 夜宇賀來 夕方
太田君ト會見 話シ會ツタカラ安心シテ呉レトノコトデアッタ

◆▼98ページ◆▼ 昭和17(1942)年4月2日(木)

天気 晴タリ曇タリ

朝 カユ

晝 ウドン

夜 普通メシ、アサリノ天プラ

六時半起床 新聞朝食後九時半出 千葉佐久間外科ニ行キ帰ク 食事ヲ聞ク 普通
食事デ差支ナシトノコト アスタフィールハノシデモノマナクテモヨイトノコトデアッタ

ズットスグ奈良原サンニ行 丁度居ラレタ。鏡石ノ方ノ件出資者ハ少数ニシテ協会ト別
個ニサレタキ旨希望ヲノベル。工場初年工ニツキ意見ヲ交換ス。玉子十一個貰ヒ受ケ二
時船橋ニヨリ成田ノヨーカンヲ馳走ニナル。ウマカッタ。帰宅後盆栽ニ水ヲヤル

◆▼99ページ◆▼ 昭和17(1942)年4月3日(金)

天気 晴

朝 ホットケーキ

晝 牛乳、茶漬

夜 ヒラメ

朝寝深カッタ 八時四十分出テ佐久間外科ニ行ク 行きニ電車立ッテ居タノデ、非常ニ
ツカレタ 帰リニ久シ振りニ藤枝ノ店ヲ見ル べ切ッテ誰レモ居ラズ。硝子障子ガ一寸ア
カナイ 這ッテモシバラク誰レモ出テ、來ナイト云フ風デコレデハ賣レナイト思ッタ
菊修君出テ來タ お母サンガ留都(ママ)デお掃除ヲシテ居タトノコトデアッタ。十二時
廿前帰宅 晝食後少シ横ニナル 一時半頃大坂ノ西村來 タンバツク三万個注文ヲ貰
ツタノニ対シ内金ヲホシイトノコトデアッタ 毎月三千本ツ、入レルコトニナッテ居ル由
相談ノ上希望ニ添フ様ニスルコトス 外ニ八百余个送ッタ分明日金ホシイトノコト 品
ガツイタラ支拂ワセル様ニスル旨返答ス。
仁三郎ト盆栽ノ植替ヲ初メタラ清平ガ大東ベニヤノモノ三名連レテ來テ四時半頃迄
話ス ツヒニ植替今日モ出來ズ

風弱く 空に雲なく ひばりなく

◆▼100ページ◆▼ 昭和17(1942)年4月4日(土)

天気 晴

朝 ネギミソミソ不足ノ爲メアサリノ汁

晝 焼メシト焼玉子

夜 イワシノ汁トイワシノカラ揚げ

朝佐久間外科土曜日ニツキ行キガケニ町役場ニヨリ組合ノ事ム所借入レニ要スル印鑑
証明ヲ取ル 十一時十分帰宅

今日ハ工場多ク御講アリ高尾山行キ 無事帰還ヲ祈ル

西村八百個分ダケ支拂ヒ方志村君へ手紙持参セシメ支拂フ

夜寄席中繼アリ 家内揃ッテ大ニ笑フ

午後廻間君來 組合囑託(ママ)解職ノ件ニツキ行違ヒアリシニ対シ話シ合ヒ諒解ナル
後チ工場計算書ヲ見ル 割掛費ガ非常ニ多イノヲ調査ノ用アリ 特ニ工賃甚多シ

▲▼101ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月5日(日)

天気 風強後晴

朝 有合セモノ

晝 ホットケーキト牛乳

夜 豚スキ焼

終日風強ク夜ニ入り風止ンデ雨トナル

午前中外科

午後一時間程横ニナル 風ノ爲メ今日モ盆栽ノ植替出來ズ

▲▼102ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月6日(月)

天気 曇小雨

朝 生玉子

晝 牛乳、オコノミ焼 餅

夜 マグロノ焼物 ホウレン草 小カブ

九時出テ佐久間行き。藤枝ニヨル 不在 母居タガ例ニヨツテ店ハママ、人気ナシ 過
日総会後野口君カラ當分店ハヤッテ行ク方ガヨイトノコトデアッタ由 会フ度ニ話シガ
変ルノデ困ルトノコトデアッタ

買物ナドシテ帰宅 入口デ神崎ノ人二人ト会フ 坐敷ニ上ゲル。本日契約ニ來タコト、
指導者一名借りタイコトノ申込ミデアッタ 工場へ行ツテ貰ッタガ兄ノ話シデ清平今日
休ンダトノコトデアッタ

三時ノニュース追兄ト語ル ニュース後盆栽植替ヲ初メカケタラ小島航空機ノ有野外
一名來 タゞ挨拶ダケデアッタ 帰ッタノデイヨ、初メタラ井上武三郎氏來 砂糖十
ヶ貰フ 家内ガ嬉(ママ)ンデ居タ 庭デ立話シテ、スグ帰ル 職人四人來タ由
夜オカエシノ数調ベヲ行フ

▲▼103ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月7日(火)

天気 曇晴

朝 パン

晝 焼玉子、タイミン
夜 野菜ノテンプラ
三時二牛乳

今日八寒ニ寒イ日デアッタ

朝鼻ノ下ノバンソウコウガ、ハガレタノデヨク見ルト傷口モフサガツテ居ルノデ佐久間サ
ンヘ行クコトヲ止メタ

工場欠損ノ原因調査 ドウシテモ飛行機ノ方ノ出来ガ悪イ上ニ割係(ママ)費ガ非常ニ
多スギル 特ニ割係(ママ)費中ニ工賃ノ多イコトガ調査ヲ要ス

晝食後散髪ニ出カケタガ休ミデアッタノデ、其マ、久シ振リニ工場ヘ行ツテ見ル。コレカラ
養成工養成ニツイテ会議ヲスルノデ皆ノ意見ヲ聞イタ上自分ニ明日相談スルトノコト
デアッタ 二時半帰宅 殆ンド終日徳富氏ノ宣戦ノ大詔解説ヲ讀ム

◆▼104ページ◆▼ 昭和17(1942)年4月8日(水)

天気 晴

ヨイ春日和デアッタ 八時半久シ振リデ工場出勤 工場内ヲ一通リ廻ツテ見ル 整備
相変ラズ作業進マズ退院後ト大差ナイ 一ヶ月余リ何ニラシテ居タノカ分ラナイ

十時星野氏出社 同氏ヨリ養成工ノ教育ニツイ(ママ)話シアリ 三ヶ月間ヲ実習セズ
基本教育ノミトシ其後各部ニ分ケテ主任ト助手ヲ居クトノコトデアッタノヲ各部ニ分
ケルコトヲ止メグライダー一本ニスルコトヲ自分ノ意見トシテ述ベル。明日器材ヘ報告ニ
相談スルトノコトデアッタ。後チ自分ヨリ整備ノ不振ニツキ話ス 正午終了 帰宅 晝
食後散髪ヲナシニ時半帰り小鳥ヲ見後チ盆栽ノ植替ヲナス

◆▼105ページ◆▼ 昭和17(1942)年4月9日(木)

天気 晴後風

時事 印度攻撃海軍ノ戦果発表アリ

昨夜十時頃布施サン來 家内ノ右ワキ腹ヲ氷デ冷スコトナル 眠ル注射ヲシテ貰フ。
夜中ニ回氷ヲ取替テヤル 其爲メ朝眠カッタ 七時十分起床 朝食後新聞 小鳥ノ掃
除ヲナシ九時出社 正午迄、昨日ノ器材ヘ兄ト木村、青木ノ行ツタノハ増資ニヨル松戸ヘ
百七十万 足立ヘ百万ノ増設々備ニ対スル委員トシテ今後毎週一回会合スルコトニナッ
タ由 兄ハ土地関係ノ爲メ 木村ハ設備関係ニツイテノ由

午後本函ノ整理ヲナス。石鹼工場ヨリ四百八十個分ニ口運ブ

星野氏ニ整備増産ニツキ木村其他ヲ集メ会議ヲナスガ、或ハ個人的ニ注意スルカシテハ
如何ト話シタガ木村君ハダメダトノミニテ一向右ニ対スル明答ヲナサズ。大分オクレテ

居ル原因カハッキリシテイタガドウモイケナイ

▲▼106ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月10日(金)

天気 風後雨

時事 バタアン半島攻撃ノ発表アリ

猛烈ナ南風 夕方北風ニ変リ雨トナル

七時過ぎ起床 昨夜八十二時ニ一回氷ヲ取替テヤル 昨夜ノ注射ガ一寸モキカナクテ足ノ痛ミガ取レナイトノコトデアッタ 今朝熱ハ六度五分ニ下ル

八時半出社 十一時半迄居ル 星野氏見エズ。自動車ニテ船橋ヘカツケノ薬買ヒニ行キ正午過ぎ帰宅ス

午後八石鹼ノ包装ヲシタリ、工場、組合ノ方針ニツキ考ヘタリス へタノ考ヘ休ムニ似タリ。ヨイ案出ズ 夜恵美子帰り滑空機製造要項ツヒニ出來ル。滑空機規則官報モ見ル 夜洗濯石鹼ノ方包装ヲナス

▲▼107ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月11日(土)

天気 晴

昨日ノ様子デハ今日ノ天候ヲ氣ヅカワレタガ上天気トナル

八時半ノ予定ノ處へ篠川紙函持参シテ呉レル 廻間ノ不正ニツキ話シアリタリ 九時半余リオソイノデ工場ニ行ク 船橋へガソリン取りニ行ツテ居タトノコト 十時出發 組合新事務所ニツイタノガ十一時半 本日ノ会合時間ヲ早ダトノコトニ、ドコモ挨拶ニ行ク時間ナク漸ク晝食ヲ取ルダケデアッタ。海上ビル内ノ小型出張所ニ行ク 本庄氏ダケデー時半頃漸ク全部揃フ 場所ガ一寸ワカラナカッタラシイ

総会ト理事会無事終了 本庄氏ニ議長ヲシテ貰フ 自分全快ノ挨拶ヲナシ本庄氏ノ代理ヲ解消ス。福知氏ヲ皆ニ照(ママ)介シ福知氏ノ挨拶アリ

▲▼108ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月12日(日)

天気 晴曇リ

七時廿分起床 昨夜徳治帰ツタノヲ少シ知ツテ居タ ヨク眠ル 午前中小鳥掃除ヲナス

葉方君來 萱場ノ仕事ヲ東亜デヤルコトニシタイカラ諒解シテ呉レトノコトデアッタ。マダ決定的デハナイガトノコト 御自由ニト回答ス

午後石鹼包装ノ紙ヲ切ル エミ子包装ヲナス 夜数ヲシラベル 大分余ルコトニナツタ

朝福知氏へ明日行ケナイ旨打電ス 昨日速達ヲ出シタガ前ノ宅へ出シタノデ念ノ爲メ

打電ス

夕方清平來 帰ッタアトへ兄下デ大分ノンデ來ル。又酒ヲツケル 食事ヲ終ッタアト徳治ヲツカマエテ、一寸モ寄ラナイトテ、冷タンダト文句ヲ云ヒ出シ、シヤクニサワッタガヨッテ居ルノデガマンス。ウルサイ人ダ 徳治、仁三郎デ送ラセル

▲▼109ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月13日(月)

天気 曇後晴

昨夜ハ一度モ小便ニ起キナカッタ 七時起床 徳治ヤ皆出タアト新聞ヲ見小鳥ニエヲ與ヘ九時出社ス

太田ヨリグライダー製作ニツイテノ予定ヲ午前中ニ組合ノ總會結果ヲ課長以上ニ話ソウト思ツタガ星野氏遅ク十一時半漸ク出社ス 爲メニ星野氏ダケニ報告シテ居ク 二時ヨリ十六年度青年學校卒業式ト入学式ヲ舉行 自分ヨリ誠心ニツキ訓話ヲナス。器材ヨリ職人ヲ借リルト云フ話シアリ 作業課長ニ割掛費工賃ノ多イコト 毎月飛行機ヘ支拂フ工賃ガ約五千元ニナルコトヲ話シ、モット能率ヲヨクスル方針ヲ考慮サレタイ旨希望シテ三時帰宅ス
本日産報會員ヘ石鹼全部クバル

▲▼110ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月14日(火)

天気 晴

此頃ヨク眠レテ朝七時過ぎ起キル 左ノホウガ、ハレテ來タ 鼻ノ下モ左ノ方ヘ昨日カラ少シハレテ來タ

八時半出社。文部省型ボールトノ價格調査表ヲ作ル 海軍ノ試験官來 挨拶ヲシテ帰宅 晝食後十二時半ニュース後工業ノ父兄会ニ行ク。校長ニ見舞ヲ貰ッタアイサツニ行ク 病後ダカラトテ話シハ校長ガ聞イテ呉レ早ク帰シテ呉レタ 帰途幕張ノ島田ニヨリ会社ノ成立ニツキ内容ヲ聞ク。明日航空局ヘ行クノデ万一、聞カレタ場合ノ爲メニ帰ッテ小鳥ニエヲヤリ盆栽ニ水、社長ニ砂糖ヲ贈ルコトニシテ、入レル 五百目余リ函ニ這入ッタ

▲▼111ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月15日(水)

天気 曇リ後晴

九時過ぎ自動車來 上京 十時半器材着 赤坂、畑、其他数名ニ合フ 器材御中トシテニッサン石鹼一函十打ヲ贈ル。組合ノ貸付金五千元也ノ件畑、青木、野田三氏ニ話シ組合受取金中ヨリ差引コトノ諒解ヲ得

木村行ッテ居タ 星野來ラズ 職工二十十三名今日ニモ引取ッテ呉レトノコトデアッタ
新ラシク這入ッタモノデ器材ヘスグ入レル譯ニモ行カナイラシイ。航空時代へ行ッタガ鍵
ガカッテ居テアカナイ。日精ニ行キ社長ニ會ヒ砂糖ト石鹼ヲ運轉士ニ事傳ル。株モ影(マ
マ)氣ヨク拂込シマワッテ居ルトノコトデアッタ。組合ニ行キ福知氏ニ會ヒ皆ト共ニ食事ニ
行(ママ)行キ自分ノ考ヘデニツツ注意ヲ與ヘル。法規ニフレナイコト 公平ニスルコト、利
益ヲ後、ニ國策第一主義トスルコトヲ述ベル 福知氏ニ、組合員指名問題ト駒鳥号問題
ヲ話シテ居ク
局ニ挨拶ニ行ク 課長以上皆居ラズ。雑司ヶ谷ノ志賀氏ノ墓ノ御参リシテ帰ル 五時
二十分帰宅ス

▲▼112ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月16日(木)

天気 晴

七時起床 九時工場出 海軍検査官晝食後帰ルヲ見送ル 器材ヨリノ職人廿余名來
ニ階ニ上ゲテ会社ノ現作業ニツキ話シ仕事ニヨリ好ミヲシナイコトヲ特ニ話ス。話終ッテ
スグ帰宅 晝食後静養 昨日デ大分ツカレタカ夜ハ眠カッタノデ早ク床ニ入ル
畑氏高木村ト松戸ノ養成所ヘ挨拶ニ行クトノコト 兄ニ來テ呉レトテ行ク 自分ニモ來
ラレタシトノコトデアッタガ自分ハ月曜日ニ行クコトニス

▲▼113ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月17日(金)

天気 曇

北風強ク寒サ厳シ

七時半頃起キル 昨日カラ新ラタニ出來タ腫物ヲ切ル爲メ佐久間病院へ行クベク自動
車ヲ聞キニヤッタラ三代川ガ居ナイカラ賄ニヤラセルトノコト。少々心配シテ居タラハタ
シテ自動車ガコワレタトコトワリニ來タノデツヒニ今日ハ中止シテ吸出シヲハル。終日觀
音經ト同講話ヲ讀ム

夕方清平ヨル 立川ノ件明日駒林氏ニ話シスルトノコトトナル 其他数件色々話シ合フ

▲▼114ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月18日(土)

天気 晴

時事 皇室ハ御安泰ナリ

朝寒ク午後天気ヨクナル

器材ノ東君ト野中同道シテ來 千葉縣庁ノ土地ニ関スル手續キウマク行カナイトノコ
トニ明後日自身行クコトヲ話シテ返ス 晝食ニ帰宅スルト〇時半空襲警報アリ工場ニ行

ク 京浜ヲオソヒ九機打オトシタリトノコト 名古屋、神戸モ少数來リタル由 被害ハ東京ハ多少アリタレドモニキロ焼夷弾ダカラ、知レタモノデアッタラシイ 若干ノ死傷ト火災アリ 徳治ノ大森ノ上ハ低空ヲ数機ガ飛ンダトノコトデアッタ

▲▼115ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月19日(日)

天気 晴

快晴 ヨイ日曜デアッタ

今朝二時頃空襲警報アリ四時頃解除トナル 七時半起床 八時食事 小鳥掃除 盆栽水、肥等

晝食後ニユースガ済ンダ 昨日ノ空襲ヲ思ヒ出シテ居ル頃又々一時頃空襲警報アリ仕度シテ工場ヘ行ク 昨日程飛行機ハ飛バナカッタ 三時頃解除トナル 此ノ二回ノ空襲ニ対シツヒニラジオデ何ンモ云ワナカッタノデ、少ナカラズ氣ニナッタ コンナコトハ被害ガアレバアッタデ、ヤハリ発表サレルベキデアアル
夜米ガ不足スルノデ節米ニツキ家族ト協議ス 結局毎朝粥ニスルコトトス
鈴木ニテニケ 内ニテ五個計八ケチャボニダカセル

▲▼116ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月20日(月)

天気 曇後雨

千葉県庁ヘ行ク爲メ六時起床 七時半工場出 自動車コワレテ居ルノデ歩クコトニス 野中高木村ヘ行ク爲メ京成辻同道ス 九時十五分前縣庁着 九時東君乙竹君來。農務課青柳、野村両氏ニ会见 松戸ノ農地變更ニ関スル件ニツキ想(ママ)談ス 東氏スグ帰京 東日高橋君ニ右ニ対スル違反事件ニツキ松戸署長ノ意向ヲ調査シ至急始末書位デスマセル様奔走方依頼ス。帰途藤枝ヘ寄りお返シノ石嶮ヲ渡シ佐原ノ並木氏ニ照(ママ)介サレル
一時帰宅後ヒヨコノ函ヲ出シテ手入レ修理ス
ツル姉ト兄來 夕方帰ル

▲▼117ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月21日(火)

天気 曇晴

清平ト八時半器材着 兄ノ松戸駅ヘ後ヨリ直行スルコト 東君ト同道 自動車ニテ松戸駅ヘ行ク 野村技手ト農林省ノ技手一名來 兄、乙竹、野中、東、工場ニ行ク 調査ノ決(ママ)果土地十一万坪ハ広過ギルコト 建坪ノ十倍ハ到底見込ミナシトノコト 次ギニ内務省防空局デ近ク決定セラルベキ規則地区ニナルノデ同局ノ許可ガイルコトニナ

ルトノコトデアッタガ研究ノ結果大蔵省ノ資金調整ノ方ト農林省ノ方トハ別々ニ許可ヲ申請出來ルトノコトデアッタ 晝食ヲ松戸デ取り、野村氏再ビ工場ニ地主小作人会見ニ帰り東、自分ハ農林省迄送ツテ器材ニ帰り三時半ヨリノ會議ニ列ス 今日ハ松戸ノ建築物ノ坪数ヲ取キメタダケデ五時過ギル 終ツテ東日ニ挨拶ニヨリ帰宅 七時半少々ツカレタ 静岡ノ青島來テ居タ タイヤー一本チユーブ二本呉レタ 今夜泊ル

▲▼118ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月22日(水)

天気晴

自動車デ清平同乗千葉ニ行き車中立川ノ話ヲ聞ク 駒林氏スグニ話シテ呉レ一兩日中ニ回答アル由
自分ハ佐久間外科ニテ手當ヲ受ケ藤枝ニ寄ル 今村宅へ行ツタトノコトデアッタ 電車デ帰ル 藤枝來テ居タ 今朝青島カラ貰ツタ規格表ニツキ説明ス
十一時工場出 星野氏ト自動車ノ件昨日ノ會議ノ件立川ノ件ナド打合せ一時帰宅 静養ス

▲▼119ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月23日(木)

天気晴

六時十分前起床 七時半千葉へ行き高橋君ヲ訪問ス 今日九時半ニ松戸ト電話デ話シスルコトニナツテ居ルトノコトデアッタ。呼出シテ撰擧ニヤツテ貰ヘルラシイ話シデアッタ。スグ佐久間サンへ行き九時千葉駅發上京 十時半組合事務所着
福知氏ト飛行協會へ挨拶ニ行ク 丁度堀閣下ニ會エタ 摺沢大佐ノ母堂ノ葬儀ガアルトノコト 大藪ヲヤル 航空時代ニモヨリ組合ニ帰りボールト價格ノ件、成工社計算ノ件、定カン変更ノ字句変更ノ件、其他決定シ福知氏ト廿八日石岡へ行クコトヲ決定ス 東氏來 唐橋ニアル初級機一台分材料百三十五円工場着 値段デ出ストノコトニ早速各社へ照(ママ)介ノ手紙ヲ速達デ出サセル 帰途三越ニ久シ振リデヨリ朝顔ノ種ト肥料ヲ買ヒ帰宅ス
入浴夕食

▲▼120ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月24日(金)

天気晴

六時起床 朝食後千葉行き 十時帰宅 工場出 十一時駒林榊原、関口三氏來場 グライダー製作状態視察ノ爲 晝食後一時半頃帰ル 入レ違ヒニ航研ノ石井氏外一名航空學會ノ工場見学ノ下見ニ來ラレル 今日ノ状態ニテハ見學ヲコトワル 諒トシテ

帰ル

星野、駒林氏ト同乗シテ帰ル 今日初メテ定時迄仕事シテ五時前帰宅 盆栽ノ一二手
入レ水ヲヤル 百合ニ枝手ヲ立テル
今月一日持参シタ玉子十三個ノ内九ヶ生レ今日連レテ來タ 白六黒三ツアツタ
チヤボニ玉子八ツ船橋分ダカセル

▲▼121ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月25日(土)

天気 晴

八時過ギヨリ千葉行き 十時帰宅工場出。
近藤完予備下士合格 來月早々入営スル爲メ挨拶ニ來ル 奈良原氏ト共ニ宅ニテ晝食
ヲ取ル。一時半終ル 再ビ工場出 グライダー下請六月ヨリ製品入荷ノ予定ヲ立テル
フロート、九三中練材料ノ件聴ク。ドウモ、ウマク行カナイ。明後日星野同道霞ヶ浦行
キ約束ヲナス
四時組合藤原同道帰宅 マイゼ材料表ヲ渡ス
夜五月分予算ヲ作ル 中々金六残ヲナイモノダ 兎二角五十円預金スルコトトス

▲▼122ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月26日(日)

天気 晴

六時一寸前起床 朝食前小鳥トヒヨコニエヲ與へ巢函ノ手入レヲナス ヒヨコノ遊ビ場ニ
モヲ敷イテヤル
八時半ヨリ千葉ニ行ク 縄野君ニ會ヒ撰擧人名簿ヲ借リテ帰ルツモリガ余リ多イノデ
縄野君ノ方ノ手デ書イテ呉レルトノコトデ依頼ス
終日盆栽トヒヨコ。観音経講話
夕方四時頃大牧來 一時間余リ話シテ帰ル
午後船橋ノ節子小供二人連レテ來ル ミシンヲ借リテ小供ノ前掛三枚作ツテ六時帰ル
兎ニ酒持タセテヤル

▲▼123ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月27日(月)

天気 晴風

七時半工場ニ出清平ノ來ルノヲ待チ立川ノ話シヲ聞キ帰宅 九時出カケル 十時五十
五分松戸発ニテ出ル 車中辨當ヲ喰ヒ正午荒川沖着。星野、荒井兩人ニ會フ。荒井見
エズ ナクバスニ間ニ合ワズ二人デ行ク 廠長、田中大佐ハ會議ニテ二度訪レタガ時間不
明ノ爲メ名刺ヲ預ケ松尾技師ニ會フ 兎二角設備ヲ速カニ完備スルコト 人的ニモツト

活気付ケルコトノ注意アリ 後チ鈴木技手ニ會フ
荒井オクレテ來 材料ノ件ニノコシ、二時五十分ニテ荒川沖發 石岡ニ行キ橋本屋旅館
ニ入ル 星野氏町ノ名所見物ニ行キ自分ハ觀音經講話ヲ讀ム
夜清水君來 夕食ヲ共ニス。十時床ニ入ル

▲▼124ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月28日(火)

天気 晴曇雨

雀ノサエヅリカシマシク目サメル 六時半起床 七時朝食 觀音經ヲ讀ム 星野氏出カ
ケル 九時帰ル 九時十分駅へ出カケル 自動車アトヨリ來 九時三十八分福知氏着
スグ訓練所ニ行ク。セコンダリー訓練中デアッタ 正午前雨降り出シ練習中止 工場其
他ヲ見學 晝食ノ馳走ニナル 白石氏モ丁度帰り共ニ会食ス 一時五十一分石岡發ニ
テ帰ル 船橋ニヨリ帰宅ス。七時頃、高岡ノ人角同道シ來 挨拶ヲ受ケル
久次郎勲八等ト金九十円ヲ下賜セラル 十五年四月付デアッタ 目出度

▲▼125ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月29日(水)

天気 曇晴

昨夜ハ雨デ觀兵式ハ御取止メ
食前小鳥トヒヨコニエヤルコト 近頃ノ例ノ通り 今日ハ新ラシク生レ出ルヒヨコノ爲メ
ニ函ヲ作ル。終ツテ親鳥ノエ函ニ個作ル
觀音經講話讀ミ終ル

▲▼126ページ▲▼ 昭和17(1942)年4月30日(木)

天気 曇晴

時事 戦時下ノ総撰擧
六時起床 七時半散髪ニ行キ八時半工場出 十時ヨリ學校ノ撰擧ト布施サンへ、カッ
ケノ注射ヲシテ貫ヒニ行ク 毎日ヤツタ方ガヨイトノコトデアッタ
午後一時工場出 五時帰宅。
京都ノ横川滑空機資材ヲ得タク下請ヲヤラセテ呉レト來ル

▲▼128ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月1日(金)

天気 晴

ヨイ一日デアッタ

定刻久シ振リデ工場出 整列ノ仕方ハ大変ヨカッタ
八時帰宅 仕度シテ上京 十時半組合着 福知氏ト事務上ノ打合セ 晝食ヲ共ニシ後
チ航空局へ同道ス 村上氏ニ會フ 大蔵省ノ會議ニ六同氏行ツテ大ニ、ツトメテ呉レタ由
駒林氏ニ會ヒグルナウベビ制式ニスル件考慮ヲ依頼ス 石島氏ヨリCノコト高山ノコト
ヲ聞ク 第一第二部長ニ挨拶 北浦課長ヨリ文部省ニテ學校分マトメルコトニナッタト
ノコトデアッタ ソレニ対スル希望ガアレバ出セトノコト 福知氏ニ自分ノ意見協會ヨリマ
トメテ受注支拂ヒノコトヲ話ス 事務館ト會談 駒鳥ノ件。組合加入者ノ件組合推撰
トスルコト、全国ニ修理工場ヲ設置スルコトヲ希望ス
七時帰宅
ドウモ足ノ脚氣ガヨクナイ

▲▼129ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月2日(土)

天気 晴

五時四十分起床 朝食後大藪來 東氏ノ件打合セ昇給ニ関スル件モ命ズ。八時過ギヨ
リ布施サンニ行キ注射シテ十時帰ル 十時半工場出、午後松戸工場敷地ニ対シ建物ノ
位置決定會議ヲ開ク 結局根本的ニヤリ直サネバダメダ
星野氏器材ニヨリ正午來 発動機工場作業ナク職工津田沼へ引上ゲルコトニ決定ス
朝醫者へ行ツテ居ル間ニ第一航空廠飛行機部長來場ノ由

▲▼130ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月3日(日)

天気 曇雨

六時前起床 食後布施サンへ注射ニ行ク 和子同道ス 十時帰宅
航空婦人会ノ遺族慰安会ニ恵美子ト静枝サン行ク 七時頃帰ル 色紙ハ鉄砲百合ノ
繪デアッタ 外ニ竹ノ子ノ御土産アリ
午後お返シノ石鹼整理シ工場員ノ家ノ分ツテ居ルダケ持タセテヤル
不動全集ヲ讀ム
夕方稲毛ノナホ來 夕食シテ八時帰ル

▲▼131ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月4日(月)

天気 曇小雨

五時半起床 八時工場出 其前工場員お返シノ石鹼新聞紙ニ包ミ工場へ届ケ宇賀ニ
預ケ皆ニ渡シテ貰フ 十時星野出版社 清平ト霞ケ浦行旅費ノ件ニツキ協議中ナリキ
自分途中帰宅 早晝食後上京 浅草傳法院ニ観音經讀誦会ニ初メニ出席ス。二百人

位出席者アリ 割二楽ニツイテ行ケタ。アトノ講話ヲ聞キ四時十分前終リ五時船橋宅ニツク 兄ノ六十一ノ祝ニ出席 自分カラ三十円 徳治恵美子ヨリ各十円ツ、祝ヲナス 午前八時警戒警報出ス

▲▼132ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月5日(火)

天気 曇少晴

六時起床 八時工場出 九時ヨリ布施サンニ行ク 耳ノ後ノ腫物切ル事ヲ頼ンダガ外科デヤツテ呉レトノコトニ佐久間ニ行ク 大分大キクヤッタノデホータイヲ頭カラカケタノデ、大ゲサニナル。一度帰宅 晝食後工場ニ出ル 乙竹ヨリ物價手當ノ價議案出ル。今日ハ大分歩イテ、クタブレタノデ三時半自動車ヲヨンデ青木モヨバレテ居ルトノコトニ同道シテ器材ニ行ク 増資内認可ニ対スル社長ノ慰労会ノ由 築地ノ榴亭ニテ藝者又キノ御馳走ハ中々ヨカッタ 八時過ギ自分カラ散会ヲ散ツテ帰ル 十一時帰宅 大分ツカレタ

板垣ノ手許ヨリ電気設備ノ書類受取ツテ帰ル 日野原更ニ参考見積リ取ルトノコトデアッタガ板垣其必要ナシトテスグ発注シテ下サイトノコトデアッタ 板垣ハ中々ヤルワイ

▲▼133ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月6日(水)

天気 曇リ

七時起床 昨日ノツカレガマダナホラナイガ千葉ノ外科ニ行モ其マ、組合ヘ行ク 丁度十二時着 兄スデニ來テ居タ 四月ノ決算ヲ見晝食ヲナシ一時半迄資材特ニベニヤノ件ニツキ大藪、藤原ト打合せ、西村ヘ送金ヲ命ジ兄ト文部省ニ行ク 松下氏ニ會フ 同氏モ組合員多クスル意見デアッタ 初等等(ママ)ノ中谷氏ニ會ヒ模型小型組合ニツキ意見ヲ聞ク 最(ママ)非必要ヲ認メテ居ルトノコトデアッタガ千葉縣カラ鈴木ト云フノガ四五日前ニ來タトノコトデアアル。協会ニヨリゴムノ件、訓練部庶務ニテ聞合セ、蔵前会館ニテ高見氏ニ會フ。パラシユート普及会デタメナノデ熊本ノ方注文アッタ場合如何ニスベキヤニツキ相談アリ。台ハ熊本デ作ルコト パラシユートハ川辺君ニ相談スルコト 尚外ニ研究スルコトトシテ分レル 七時帰宅 夕食後スグ床ニ入ル 非常ニツカレル

▲▼134ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月7日(木)

天気 雨

終日雨 今朝マダクタブレハ取レナカッタ 九時ヨリ千葉行き 正午帰宅 一時工場出 五時半帰宅

上岡ヨリ萱場ヨリ本日千葉ノ並木ニテ午後五時ニ招待シタシトノコトデアッタガ手足ガ、シビレルノデコトワリ、清平木村、乙竹三人ヲヤル

今日器材カラ來タ職人連ガ米ノ問題カラ乙竹ガ云ツタコトガ氣ニ入ラヌトテ止メテ帰ルトノコトカラ自分ニ話シテ貰ヒタイトノコトニ話ス 皆落ツクコトニナツタソウダ
夕方食事中ニ北京ノ矢野來 友人ガ待ツテ居ルトテ上ガラズニ帰ル

▲▼135ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月8日(金)

天気 曇リ

時事 サンゴ海海戦大勝

朝醫者カラ上京 十一時組合着 協会明日午後二時頃ニシテ呉レト今朝電話ガアツ
タトノコト 二三用件ヲ見タ上三越ニヨリスグ帰ル

三時半工場出 今朝命ジテ居イタ会議ノ決課(ママ)ヲ聞キ五時帰ル
夜早ク床ニ入ル

▲▼136ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月9日(土)

天気 曇後晴

六時起床 七時半ヨリ醫者ニ行キ十時組合着 協会へ電話シテスグ行クコトニス 十一時協会着 篠原、斎藤ト会见ス 昨年度残り四月納メ分完納セズ契約出來ズ如何ニスルカト嚴重ナル話シテ寢耳ニ水デアッタ 大藪ノ、タイマンカラ四月分忘レテ居タラシイ。イヅレモ大坂ノ分ナノデ福知氏ニ電話デ連絡シテ火曜日迄ニ返事スルコトニシテ帰ル 大藪早引ケシテ居ラズ 止ムナク志村ヲ大坂へ出張セシムベク命ジタガ幸ヒ東洋ノ中村氏大坂へ今夜行クトノコトニ頼ムコトトス 火曜日朝帰ル由
昨日カラ大藪自分ニ会フコトヲ、サケテ居ルラシク思ワレル 困ツタヤツダ

▲▼137ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月10日(日)

天気 晴

六時半起床 昨日一匹今朝二匹生レテ居タノデヒヨ子ノ函未完成ヲ金網ヲ張ツタリ完成サセル 後チ朝食 昨夜オソク恵美子ノ友達磯部サン來 泊ル 當分居クコトトス お宅へ手紙デ當分預ルカラ心配シナイ様ト手紙出サセル
八時半ヨリ千葉ニ行キ帰リニ布施サンニテ注射ス 鳥籠ヲ一ツ買ツテ預ケテ居ク 岸ノ家へ鳥ノ礼ニヤルツモリ 今日ハ和子ヲ同道シタ

午後少時眠ル ツカレタカラ 後チ二三手紙ヲ書キ組合ノ定カンヲ讀ミ注ヲナシ、工場発動機工具買物表ヲ作製ス 夕方迄ニヒヨコ皆出ル 一匹ダケダメデアッタ 即チ八ツ

ノ内七ツカエル

▲▼1388ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月11日(月)

天気 晴

五時半起床 小鳥ノ函ヲ掃除シ七時十分出カケル 佐藤ニヨリ船橋ニヨリ清平ト器材ニ行ク 八時五十分着 社長、畑氏ト会见 土地ノ件話シヲ聞ク 青木野中ヨリ報告ナイノデ後チヨンデ聞ク 結局十三日株主総会後日銀へ本認可申請ヲスルノデ其認可ノアル迄土地問題ハフレナイデ居クコトニ決ス。発動機工具ノ件 畑氏ト板垣君ニ話シ書類ハ板垣君ニ渡シテ帰ル。伊勢庄ニヨリ昔ノ株券ニツキコトワリヲ述ベ諒解ヲ得 組合ニヨリ正午出晝食後傳報(マ)院へ観音経ヲ上げニ行キ今日ハ講演ハ聞カズ、スグ千葉ノ外科ニ行キ六時帰宅

▲▼1399ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月12日(火)

天気 晴後曇少雨

六時前起床 定刻工場出 久シ振りニ朝礼
会計傳票ニ捺印後九時ヨリ上京 組合ニ行ク
東洋中村氏帰ツテ居タ 電話デ話ス。土日全然出來ナイトノコトニ八ヶ間敷話シテ五機ダケヤツテ貰フコトニナル。大藪同道協会ニ行キ調査ノ結果ヲ報告ス 朝日式ト光ニ、二型六型六代ツテモヨイカラ最(マ)非何ントカシテ呉レトノコトニセヨハ小型へ プライマリーハ河合へ依頼スルコトトシ小型ハ大藪 河合ハ自行キソレ、依頼ス 明後日迄ニ確答アル筈。帰途組合ニヨリ正へ更ニ文部省型聞合セヲ出ス。六時半帰宅
作業ノ妻君來テ居タ 磯部サンヲ親権者ニ頼マレテ連レニ來タトノコトデアッタガ小供ハドウシテモ帰ルト云ワナイノデ八時半頃ムナシク帰ル

▲▼1400ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月13日(水)

天気 曇リ

八時工場出 星野氏関西旅行ヨリ今日初メテ出社 十時一寸前入レ代リニ千葉ノ醫者ニ行ク 正午帰り晝食後工場出 不在中ノ二三ニツキ星野ト話ス 会計報告ヲ見ル 板金、機械、整備ハ如何ニモ面白クナイ。夕方木村ニ再調査ノ必要ヲ説ク 船橋ノ青木氏ヨリ手紙來 本人ノ心ヲ聞イテ呉レトノコトデアッタ

▲▼1411ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月14日(木)

天気 曇り晴

器材カラ又一寸來テ呉レニ朝小型トラックデ千葉ノ醫者ニ行キ千葉ヨリ器材へ急行ス
千葉縣デ此間車中ニ忘レタ帽子ガ有ツタトノ通知ガアツタノデ貰フ 二十円タスカツタ
器材デハ昨日局ノ石島氏カラ電話ニテ器材トシテグライダーハヤル氣ガアルノカドウカ
ト相當八ヶ間敷ク云ワレタノデ其釋明ニ行カネバナナイガ誰レガ、ソシナコトヲ局へ行
ツテ言ツタモノガアルノカトノコトデアツタ 二三日前清平ガ行ツタノデ清平ガ云ツタノ
デハナイカトノ口振りデアツタ。社長モ來 必ずヤリ直スカラトノコトニ畑、板垣ト同道
工政課へ行ク 石島氏ハ自分ガ行ツタノデ氣ノ毒ガツテ居タ 終ツテ丁度福知氏ガ來テ
居タ 課長ト話シ自分ガ氣ニシテ居タ業者ノ統制ニツイテ大至急意見ヲ聞キタイトノ
コトデアツタ。組合ニ歸リスグ、書面ニス 福知氏明朝持參スルコト
午後五時花環停留所ニテ磯辺嬢ヲ大矢てるさんニ渡ス 其前少シ注意ヲ與ヘテ居ク

▲▼142ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月15日(金)

天気 晴

定刻出社 今日日本庄氏ノ招待ハコトワツテ静養スルコトニス 十時過ギヨリ千葉ノ醫者ニ
行ク 昨日カラ大キクナリツ、アツタ「アゴ」ノ腫物ガマタ大キクナツテ居タ 今日ハ余リ
多イノデ防グ注射ト云フノヲヤツタ
一時半工場出 九三中練進行セザルニヨリ會議ヲ開ク 梅津ヨリ材料受領ノ狀況ニツ
キ報告アリ 一ツノ方法ヲ決定ス
夜兄ト夕食ヲ共ニス
船橋ノ預リノ玉子今日生レル筈デシラベタラ一ツモ出ナイ 全部無精卵デアツタ

▲▼143ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月16日(土)

天気 晴

定刻出社 九時半ヨリ外科ニ行ク 今日アゴノ腫物手術ヲ受ケル 正午帰宅 午後休
ミ床ヲトラセル
夜モ又早ク床ニ入ル

▲▼144ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月17日(日)

天気 曇夜雨

七時起床 昨日カラ今日ニカケテヨク眠ツタ 今日ハ大分工合ガヨカッタ 九時過ギヨ
リ稲毛ノ布施サンニ行キ小便ノ検査ヲ受ケル 糖分ナシ 血圧ハ低過ギルトノコト心
臟ノ方ハ大シタ心配ハナイトノコトデアツタ カツケノ注射ヲシテ、外科ニ行ク

今日ハ車中往復共観音経ヲ讀誦ス

午後ハ何シモセズ、考ヘモセズ

大分前ニ頼ンデ居イタ高足台出來テ來タ 机モ今日持ッテ行ッタノデ夕方出來テ來タ
大工來ル予定ツヒニ來ラズ

船橋ヘヒヨコ内デ生レタノヲ持タセテヤル

▲▼145ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月18日(月)

天気 曇リ晴

六時起床 八時工場出 九時十分ヨリ外科ニ行ク 其間九五、三型契約ノコト同發送
ノコト、青年學校滑空部設置ノ件ヲ命ズ。途中奈良原、星野両(ママ)ニ會フ

外科終ツテ鳥屋へ昨日見タチヤホヲ買ヒニ行ク 中々ヨイチヤボデアッタ。ミカン函ニ入
レ津田沼デ、女中ノヨシニ渡シ、自分ハ浅草へ観音経讀誦ニ行ク 丁度時刻ハヨカッタ

終ッテ浜地八郎居士ノ観世音ヲ信奉シテト題スル講演ヲ聞ク 四時終ッテ五時半帰
宅

夜家内ト観音経一卷ヲ上ゲル

▲▼146ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月19日(火)

天気 雨

六時起床 大藪ヲ呼び専務理事ニ理事会ノ件其他事傳ヲナス 八時過ギ工場出 星
野出社後、本望ノ購買、立入管理ノ不合理ヲ話シ柁樹ノ調査方ヲ注意ス。海軍検査
官佐藤氏ニ會フ

自動車ニテ外科ニ行キ帰りニ井上病院入院中ノ小川市太郎ヲ見舞フ 丁度玄關デ世
話ニナッタ青木看護婦ニ會フ。尚布施ニヨリカッケノ注射ヲ受ケテ帰ル。午後休ム 今
日ハ寒イ日デアッタ

▲▼147ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月20日(水)

天気 雨

今日モ終日雨 梅雨ノ様デアッタ

六時起床 八時出社 工場一巡 海軍検査官來場 今日ハ昨日迄ノ検査ノ結果ヲ取
マトメ間モナク帰ラル。二三用件ヲ終リ十一時醫師ニ行クベク一度帰宅ス。スデニ晝ニ
近イノデ今日ハ中止スルコトトス

午後兄來 五時過ギ帰ル

夕方初メテ佛前デ観音経ヲ上ゲル 今後毎日実行スルコトトス

午後組合總會ニ関スル用件ヲ記録ス

▲▼148ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月21日(木)

天気 晴

晴レタガ寒イ日デアッタ

航空局長田事ム官明日ナラ行ク 今日ナラ來ラレタイ旨事傳ル ツヒニ來ナカッタ
八時十分前工場出。外科ニ行キ縄野ニ電話シテ來月七日ノ菓子ノ件聞合ス 成田ノヨ
ーウカンナラ百二十本間ニ合ワストノコトニ依頼ス 工場ヨリ電話アリ コークス五俵入
ルトノコトニ行キテ受取り帰途内科ニテ注射シ兄ノ鳥籠ヲ求メル。正午後町會議員ノ
投票ニ行ク

福知氏ニ電話シテ商工省物價局ノ連中潮立ニ來タイトノコト 廿四日ナラ都合ヨイ旨
知ラセル

▲▼149ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月22日(金)

天気 晴

朝散髪シテ工場出 外科行キ中止シテ九時ヨリ上京

組合ニ行キ福知氏ト晝食 長田氏ノ話シハ東洋ノ清水氏ヲ理事長トスルコトヲ自分カ
ラ課長ニ話シガアッタトノコトデアッタガ之レハ間違ヒデ飯国氏カラ清水氏ヲ入レテ吳
レトノ話シハアッタガ、マダ誰レニモ話シテ居ナイ。理事ノ改撰ノ時東洋ヲ理事ニ入レルコ
トダケハ考ヘテ居タ。午後長田氏カラ同様ノ話シガアッタノデ其旨返事シテ居ク。少シ
話シガ違フガ課長カ長田氏ノ間違ヒダロウトノコトデアッタ 四時頃帰宅

▲▼150ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月23日(土)

天気 晴

終日工場 五時帰宅 外科行キハ寢テ居ル間ニホータイガ取レテ傷口ガ、フサガツテ居
タノデ止メルコトニシタ

今日ハ江波戸ヤ中正夫其他クラブノ分等数通手紙ヲ書ク。久次郎ノ友人今日立川カ
ラ出營スルトノコトデ知ルモノ寄セ書キシテ清平、青仙行ク

▲▼151ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月24日(日)

天気 晴

六時半起床 何ントナク終日頭ガ変デアッタ

大工來 洋間ノ戸棚ヲ洋服入レニ改造ス
家内船橋ノ店へ初メテ手傳ヒニ行ク

▲▼152ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月25日(月)

天気 晴

八時工場出 九時ヨリ松戸工兵學校行き 鉄道線路ノ件津田沼ニ聯隊ノ管(ママ)宮
トノコト スグ上京 組合ニ寄ル シンブル注文ノ件ヲ取極メ善照寺ニ七回忌ノ御参リ
ヲ依頼シ国債五十円ヲ奉納ス 時間ガ早イノデ浅草公園デ四十分間程ニユースヲ見ル
今年初メテデアッタ 一時半傳法院ニ行き観音経ヲ上ゲ二時二十五分終リ再ビ組合
ニ帰ル 福知氏ニ會フ 協会ノ方契約案文ハ篠原氏ニ一任シタトノコトデアッタ 飯国氏
ト會フコトニナリ丸ノ内ホテルへ四時半行ク。ドウヤラ役員ニツイテ局へハヤハリ飯国氏ノ
差金ヲシイ 結局資材ヲ円滑ニ廻シテ貫ヒタイコト、岡村氏ヲ東京勤務ニスルカラ組合
デ使ツテ貫ヒタイコトトノ話シデアッタ
野口、島田組合へ來 會フ

▲▼153ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月26日(火)

天気 晴

終日工場 定刻出社 朝礼
今日ハ仁三郎ガ軽井沢へ廠営ニ行クノデ女中ノヨシハ三時ニ起キル。八時東部八十七部
隊へ行き係官ニ面會 高木村鉄道ノ件聞キ合セル 建築前ニ一度立合ッテ見タイト云
フダケデアッタ。午後一時間程會議 工員配置ノ件
野口菊治君來 久シ振リデアッタ 用件ハナシ 海岸ノ土地隣接地ノ人カラ境域ヲ見ニ
來テ呉レトノコトデ來タ由 然ルニ相手方ツヒニ來ラズ

▲▼154ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月27日(水)

天気 曇リ雨

五時半起床 清平來 対器材問題、鷺見君問題 同人關係出資者(大坂)問題等ニツ
キ話アリ

七時半自動車ニテ津田沼駅ヨリ上京 八時十五分器材着 畑氏ヨリ六月一日ヨリ合
併ノ型式ニシタイ ツイテハ職制ヲ斯クシタイト課長以上ノ人事ニツキ意見ヲ求メラレ
タ 大体大返ナキ様ニ思ワレタノデ承認ヲ與へ尚社名問題ニツキ変更方ヲ希望シテ居
ク。九時半航空局會議ニ列席ス 全国カラ十数社ノ滑空機製造業社ト局第二一分長以
下試験場同出張所等カラ出午後五時半迄カ、リ一通リ終リ明日九時ヨリ試験場へ行

クコトニナル 福知氏下痢ノ爲メ出席出來ズ 明日出ルコトヲ電報ヲ打ツテ居ク

▲▼155ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月28日(木)

天気晴

今日ハ思ワナイ上天気トナル 五時起床 角太田ト上京 九時十分試験場着 二階会議室ニテ九時半ヨリ会議ヲ開キ午前中ニ検査ニ関スル件ヲ終ル。清平一時ヨリ浜松へ出張ス 午後八代用品ニツキニ時半過ぎ迄会議 終ツテ場内見学。初メニ駒鳥ノ分解組立アリ 五分ト十二分位カ、ル

四時半器材へ電話ス 明日九時社長ガ會ヒタイカラ來テ呉レトノコトデアッタ 明日ノ會議ノコトヲ初(ママ)シテ居ク 組合へ電話シテ京都ノ横井ト電話デ話ス 明日モ會エナイノデ、星野氏ニ會ツテ帰ルトノコトデアッタ
南波氏ヨリ横井ノコトヲ聞ク マダ今年ニ回検査ニ行ツタダケデ何ニモ出來テ居ナイトノコトデアッタ 結果ヲシラセテ貰フコトトス
九時十分帰宅ス

▲▼156ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月29日(金)

天気晴

五時半起床 八時半器材着 九時社長ト會フ 高木松戸招待同時ニ出シタイコト、一日社長津田沼ニ出張 皆ニ合併ノ件ヲ話スコトニ決定

九時半航空局工政課ノ滑空機業社指定業者ニ対スル會議ニ参会 夕五時終ル 京橋小柳ニテ現組員ダケノ會合ヲ催ス 八時半帰宅 三日ニ渡ツタ滑空機會ヲ終了 割合ニツカレナカッタ

▲▼157ページ▲▼ 昭和17(1942)年5月30日(土)

天気晴

六時過ぎ起床 八時工場出 星野氏出社 前二三日會ワナカッタ間ノ事 合併問題等ニツキ話シ合フ

正午京都ノ横井來 金井氏ノ手紙持參ス
会社トクラブノガソリン代モビール代計算ヲナシガソリン代ハ支拂金ト差引シモビールトポンプ代ヲ現金ニテ受取り羽布四反ヲ方付ケ、今日更ニ星野氏ヨリ羽布一反タノマレタノデ結局五反分現金支拂ヒヲナス

今日ハ恵美子徳次ノ處へ泊ルトノコトデタ方ハ小供ハ和子一人デアッタ

◆▼158ページ◆▼ 昭和17(1942)年5月31日(日)

天気晴

六時起床 朝食後八時ヨリ千葉へ買物ニ行ク 藤枝ノ店ニ行ク 例ニヨッテシマッテ居タ
開クニ這入ッテモ誰レモ出テコナイ。シバラク、居タガ出ナイノデ其マ、カエル アンナコト
デハ、トテモダメダ 何ントカ、セネバナラナイ。小鳥屋デ赤ボタインコ廿五円番買フ。
午後工場ニ出ル 棚卸シヲ見帳簿上ノ整理スベキモノニ決裁ヲ與ヘテ三時帰ル 夕方宇
賀ヲ呼び合同ニツキ工員ノ意向ヲ聞ク 古い工員中止メタイモノアルラシイ。コレラガ、
セン動シテ動キ出サナイ様注意スルコトヲタノム
酒ノ配給工場ヨリ一升ヲ受ケル

◆▼159ページ◆▼ 六月

六月一日ヲ以テ航空器材ト合併ス
法的ニ七月初ナル見込ミ

◆▼160ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月1日(月)

天気晴

八時十分前出社 九時星野出 間モナク社長、並ニ新津田沼工場長同道來 工員九
時半集合 合併ニツキ社長ヨリ挨拶アリ 戸田氏紹会(ママ)。清平十一時頃帰社 間ニ
合ワナカッタ。社長ノ話ハ実ニウマカッタ 晝食後星野氏ト松戸へ挨拶ニ行ク。先ヅ甲斐
氏ニ會ヒ新所長鈴木竹徳少将ニ紹会(ママ)シテ貰フ 終ッテ器材ニ廻リ、新組織ニヨル
次長以上ノ会議ニ列シ今後ノ運行ニツキ打合セラナス 伊藤ト器材ノ関係ハ帳簿上ハ法
的事実ノ發生迄此ノマ、ニ行クコト 實際ノ運営ハ今日ヨリヤルコトトス。松戸ハ準備室
ヲ本社ノ階下ニツクルコト

終ッテ築地ノ宝屋デ長崎料理ニ行ク 大変ウマカッタ 十時半帰宅

◆▼161ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月2日(火)

天気晴

上天気デアッタ 六時半頃鈴木菊雄來 工場建築許可ガ出タニツイテ今後ノ方針ノ
相談ニ來タノデアッタ 松戸建設ノコトナドモ話シテ居ク
星野ヨリ係長以下ノ割當ニツキ相談ヲ受ケル

乙竹千葉縣庁へ使ニヤル ヤハリ警察ト反対ノ意見ヲ持ッテ居テ昨日モ其件ニツキ保安

課カラ聞合セガアッタノデ回答シテ居イタトノコトデアッタ 然シ資金調制法ノ認下ニ
農地ニ関スル但シ書ガ無ク無條件認下デアレバ、一切ハ其認可書デア万事OKトノ由 認
可書ヲ見セテ呉レトノコトデアッタトノコト 仁三郎一週間ノ野外教練ヲ終リ今日夕
方クタブレテ帰ッテ來タ。行キ買ッタ新ラシイ、ツックノ靴ハ三日デバラ、ニナツタ由

▲▼162ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月3日(水)

天気 曇リ

五時半起床 七時鈴木菊雄來ル 七時半出 器材ニ行キ九時十分着 松戸関係ノ課
長會議ヲ開キ新入社員石倉、富岡ヲ照(ママ)介セラル 今日ハ職制ダケヲキメル
二時終リ組合ニ一寸行キ四時再ビ帰リ丸ノ内會館ニテ畑、赤坂、東君ヲ加ヘ會食ス
八時半帰宅 新入社員ハ皆渡リ者ノミデアッタ

▲▼163ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月4日(木)

天気 雨

六時半起床 八時半工場出 戸田、星野、ト工場課長以下ノ組織ヲ取キメ課長級ト
ノ打合セヲナス 乙竹多少不滿ノ色アリタリ。午後主任課長三戸田氏照(ママ)介ス
太田、宇賀、佐藤休ム

今日變電所新設ニ対シ通信局ヨリ検査官來 少々六ヶ間敷狀況トノコトデアッタ
夕方青島來 自宅ニテ夕食ヲ共ニス 模型聯合會認可ニナツタ由

▲▼164ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月5日(金)

天気 曇後晴

七時四十分工場出 太田ニグライダー十機製作ノ工員補充計画ヲ出ス様命ズ 木村、
梅津、青仙ニソレ、用命 廿時宇賀出社ナク昇給ノ件話出來ズ 十一時前日本光學
ヨリ文部省型二機ノ注文アリ 八月初メトシテ受ケル。帰宅 牛乳ヲノンデ上京 上
野ノ盆栽俱樂部ヲ見テ晝食後千住駅ニ一時半ツク 兄ニ會フ 二時自動車ニテ足立工
場ニ行キ建設委員會ニ列席 五時終了 六時半帰宅ス
議事ハ新人ノ照(ママ)介ト機械購入方建物等ニツキ一般的ノ討議ス 今後分科會トス
ルコトトナル

▲▼165ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月6日(土)

天気 晴

昨夜ハ和子ハシカノ爲メチヨイ、起サレ眠カッタ 六時起床 七時半前出社 久シ振リニ朝礼後上京 九時器材着 戸田星野先着 津田沼職制ニツキ協議中デアッタ 一時辻会議ニ参加ス 総務課長ト労務係ノ関係 作業課内ノ係ヲ少クスルコト 制度ヲ器材ノ他部ト同一ニスルコト等原則的ナコトニ六意(ママ)義ハナイガ人ノ割當ニツイテ実状ニウトイ赤坂、板垣ノ口出シハ少々ニガ、シイコトデアッタ 自分ノ之レニ余リ多ク云フコトハナルベクサケル

十一時板垣、東ト局ニ土地問題ニツキ証明ヲ貰フコトノ爲メ行ク 先ヅ村上氏ニ会ヒ松尾、森川諸ニ會ヒ森川氏ヨリ圖面訂正ニツキ好意アル注意ヲ受ケテ帰ル。誰レモ居ラズ、組合ニ行ク。福知氏ト會フ 北浦氏來 組合トシテ駒鳥講習ヲ組合員ニ受ケサセテ呉レトノコトデアッタ 二三打合せテ帰ル。今日津田沼関係ノ宴会ヲヤル予定ト聞イテ居タガ人員揃ワズ延期トナル ヤレ、
夜明日ノ準備ヲナス

◆▼166ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月7日(日)

天気 曇雨

五時半起床 昨夜モヨク眠レズ 朝庭カラ小鳥ノ掃除 信太郎七回忌ノ準備ヲナス 十一時土地婆サン達四人來 御念佛ヲ上ゲテ呉レタ。正午上田ヨーカーン五十本持ッテ來テ呉レタ 清平等ト成田迄取りニ行ッタトノコト 二時頃奈良原初メ十数名参詣ニ來ル 二時十五分お寺サン迎ヘノ徳治ト一所ニ來 此頃ヨリ雨トナル 讀経後三時半帰ル 後チ婦人会ノ御詠歌アリ 四時終ル ヨーカーント石鹼昨夜用意ノモノヲ出ス。五時ヨリ親戚ノモノノミ十数名ニテ夕食ヲ共ニス 無事終了。塚本氏が一時頃來タ時胸ニコミ上ルモノガアッタ

◆▼167ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月8日(月)

天気 曇晴

六時半起床 ッカレガマダヌケナイ 朝徳次ガ左官屋ヤ金太郎ノ写真ヲ取ッテ居タノデオソクナリ九時頃出社。間モナク星野氏戸田氏ト三人デ十一時辻職制ニツキ協議ス。社長令兄死亡 明後日葬儀ノ由 十一時帰宅 晝食後十二時十分ヨリ上京 傳報院ニ行ク 今日経誦後講話ヲ聞キ五時過ギ帰宅 佛前ニ又讀誦ヲナシ盆栽ノ二三ヲ手入レス ドウモツカレガ取レナイ様ナガスル 今夜帰りノ車中一寸デアッタガ胸ガ氣持チ悪クナッタ 又胃ガヨクナイ様ダ

◆▼168ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月9日(火)

天気 曇少雨

六時起床 散髪シテ八時半工場出
戸田氏ヨリヤハリ器材提示ノ通りニテ組織ヲ進メラレタシトノコトデアッタトノコト 間
モナク星野氏來 右ニテヤルコトニ決定ス
十一時頃ヨリ上京 組合ニ行キ總會ノ件、其他打合せ 工政課ヨリ木材ノ件ニツキニ
三度電話アリタリ
清和伊藤君ヨリ材料ノ件ヲ聞ク
四時半ヨリ松戸ニ行ク 五時半丁度着 六時半頃高木村ノ人々ホ、ソロウ 七時前ヨ
リ畑氏挨拶ヲナシ九時頃宴ヲ終ル 十一時帰宅

▲▼169ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月10日(水)

天気 晴

八時半工場出 太田、ヨリ滑空機ノ件 廻間ヨリ仮拂金精算ノ件話シヲ聞ク 清平星
野出社。九時前組織ノ問題尚決セズ 戸田氏今日モ本社へ其事デ行ツタ由
十一時松戸工場設置ノ圖面出來持ツテ本社ニ行キ東君ニ渡シ日比谷デ晝食後新井三
郎氏令室葬儀ニ行ク 途中熊谷ノ弟ニ會フ。西川、中川両氏ニ會フ。組合ニヨリ清和ノ
主人ト青森県ノ商工技師ニ會フ。スグ松戸ニ行ク 今日ハ昨日ヨリ早イツモリガ反ツテ
オソクナル 十時過ぎ散會 十二時帰宅ス

▲▼170ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月11日(木)

天気 晴

七時半起床 九時出社 今日ハ觀音經講話ヲ持ツテ行キ終日讀ム 正午〇時半ヨリ新
組織ニツキ職員全部ニ説明ヲナシ尚所見ヲ述ベル。後チ廻間ヲ呼び庶務へ変ヘタコトニツ
キ諒解サセル 本人モ一時ハ止メ様カト思ツタトノコトデアッタガ大ニヤルトノコトデア
ツタ

夜鈴木館ニテ戸田氏トノ顔ツナギ宴会ヲ開ク 畑氏モ來ル 九時廿分帰宅
仁三郎二三日前カラ発熱 三十八九度ニナツテ居タ 今夜布施サンニ來テ貰ツタ處デ
ハドウヤラチブスラシイトノコト

▲▼171ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月12日(金)

天気 晴

七時起床 八時半工場出 ソアラヨリプライマリー適合板所要量調査表作製
四時頃賞与ノ點數表出來ル 一覽スル 各課長ノ採點ニ星野氏ノ意見ガ出デ居タ 大

差ナク一二不満ノモノアッタガ大シタコトモナシ。戸田氏ニ人心安定ノ爲金一封モヨイガ此際臨時昇給ヲ考慮スル様注意ヲナス。之レハ社長ニ直接話シスルト云ツテ居タ。採否如何ニヨツテハ伊藤ノ工場員ニ対スル器材ノ方針ガ大体分ル様ナ氣ガスル。正午一時間程鷺見君ト話シ會フ
午後觀音經讀ム 仁三郎入院室ナク明日ニ延期

▲▼172ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月13日(土)

天気 晴

六時半起床 八時半工場出 布施病院ニ電話シテ病室聞合ス 看護婦モ準備シタトノコト スグ帰り工場ノ自動車ニテ入院サセル 午前中カ、ル
午後定刻迄工場 帰宅
夜八時床ニ入ル 十一時エミ子徳次帰ル

▲▼173ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月14日(日)

天気 風雨

七時半起床 朝食後徳次、エミ子、和子病院へ牛乳ヲ持ツテ行ク マダ今日ハ病名決定セズ
十一時工場行き焼入爐火入式ヲ行フ ○時ヨリ約三十分ニテ終ル 晝食ヲ参会者ニ出ス
戸田、清平出社 自分ハ食事セズ帰宅
三時頃迄横ニナル 後觀音經講話ヲ讀ム

▲▼174ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月15日(月)

天気 風後晴

時事 印度獨立會議、バンコックニ開カル
アラシ氣味デアッタガ午後晴レル
朝顔ヲアタリ九時工場出 十一時ヨリ上京 讀誦会ニ出講話ヲ聞キ四時組合ニ行ク
酒井一人シカ居ラナカツタ
四時半器材ニ行キ五時新喜樂ニ行ク 野村証券ノ招待 社長、畑、今里、赤坂、板垣、自分 九時前終ツテ十時二十分帰宅ス。証券ノ一人デ自分ガ島原デ飛ンダ時アツタ
ト云フノガ居タ

仁三郎チブスト決定

▲▼175ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月16日(火)

天気 晴

好晴 八時工場出 伊藤隆吉氏來 大東滑空機創立 本社下請ノ件ニテ晝食後帰ル
戸田星野清平会見ス

検見川労働者住宅ノ件乙竹ヨリ説明ヲ聞キ午後戸田君本社へ相談行ク

晝食後一時ヨリ成田山参拝 病後初メテノ御礼参リ 四時帰宅 木下耶麻次氏來テ
居ルトノコト 工場二行キ會フ 之レモ木曾川附近デグライダーヲヤリタイノデ下請ヲ
ヤル様局デ云ワレタトノコトデアッタ 金六百万円位出サセル 二十万位迄ハ積ンデモヨ
イトノ話シ。飯國氏ヨリ電話アリ 七時半迄ニ來テ呉レトノコトニ木下氏ノ自動車ニテ
上京 六時丸ノ内ホテルニ行ク 居ラズ 七時ニ帰ルトノコトニ食事ニ行キ七時過ギ行ク
八時迄待ツ 帰ラズ 八時四十分ニテ大坂へ立ツ由 名刺ヲ置イテ帰ル

▲▼176ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月17日(水)

天気 晴

六時起床 八時出社 鋼板材料ノ調査ヲナス

九時戸田所長ヨリ検見川住宅イ五十戸ロ二十戸申込ムコトニナツタト云フ報告ヲ聞ク
ドウモウワツイテ居ルワイ 組合ニ一寸ヨリ局病後ノ守屋課長ニ初メテ會フ 少時病氣
ヤ松戸ノ話シデ後チ自分ヨリ理事改撰ニ関シ何ニカ御希望デモアレバト話シノウナガス。
氏ヨリ清水氏推撰ノ件申出アリ 外部ヨリ入レルトノ話シナリシモ東洋ノ代表トスルコ
トトス 尚理事長ニ推撰スルコトヲ約シテ東洋ノ飯國氏ニ會フ 晝食ヲ共ニス。局ヨリヨ
バレテ上京シタトノコトデアッタ。組合ニ帰り福知氏ニ報告 明日ノ会議進行ニツキ打
合セル。美津の理事留保シタイトノコトデアッタ由ニツキ自分モ共ニ理事モヤメルコトニ
福知氏ニ申入レル

三時ヨリ五時迄器材 七時過ギ帰ル

板垣君最(ママ)非ヤハリ理事ニ止マツテ貰ヒタイト云ツテ居タ

▲▼177ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月18日(木)

天気 曇

六時起床 八時工場出 清平ニ理事長止メタ件話ス ヤハリ、ガンバツテ貰ヒタイト云ツ
テ居タ

千葉工業へ行ク 主任ノ井上先生ニ會ヒ経過ヲ話シ休校カ欠席カニツキ相談ス 後チニ
相談ノ上返事スルトノコトデアッタ。帰社後十時ヨリ上京 途中兄ニ會ヒ模型ノ話シヲ
聞キ松戸土地承認書ノコトヲ話ス 正午組合着 一時ヨリ理事会ヲ開ク 美津野止メ

ズ。例ニヨツテ本庄氏強ク生田君例ノ調子 自分ハ阿克迫辞退ス。決極(ママ)自分ニ指名ヲ托サレル。左ノ如ク定ム 理事本庄、福田、東洋、監事美津濃。総会ヲ開キ決定後更ニ 自分ヲ相談役ノ席ヲ設ケ優遇スルトノコトデアッタ 後チ理事長ノ互撰ニ入ツタガ五時半ニ到ルモ決セス 保留シテ文部省ノ招待ニ行ク 松下氏ノ挨拶ニ対シ自分ヨリ礼ヲ述べ九時半散会ス

▲▼178ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月19日(金)

天気晴

六時起床 八時工場 九時ヨリ上京 局ニ直行 工政課へ理事辞退ノ挨拶ヲナス 課長マダ出勤ナク第三部長ヲ訪問 丁度木戸シゲノ君來 同君ノ其後ナド聞ク 今ハ北京ニ居ル由 グライダー製作ヲヤルベク準備ノ爲メ來タトノコトデアッタ 三木氏ニ昇任ノ挨拶ヲナシ練習機ノ今後ニツキ聞ク
守屋課長ニ會ヒ昨日ノ経過ヲ話シ清水氏ヲ理事長ニ推撰シ得ナカッタコトヲ謝シ、組合ニ行ク 一時過ギ生田、美津の本店ノ順デ來 結局一期間本庄氏ニヤツテ貰フコトトナル
千葉ニ直行 藤枝ニ寄ル 不在 母堂ヨリ状況ヲ聞イテ小鳥屋ニヨリ、エヲ求メ五時前帰宅ス

▲▼179ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月20日(土)

天気晴

午前中工場 十一時十分前ヨリ上京 其間戸田、佐藤、富岡、木村ト発動機工具整備ノ件ヲ命ズ
飛行館ニテ翼友会ニ出席 十二時半ツク。久シ振リノ会合 奈良原、磯部、天王寺、眞壁、田中、飯沼、東、其他三四名出席。南洋ヨリ帰ツタ会員 君ノ土産話シ 比島セレベス島ノ話。天王寺ノ華キヨウノ話アリ 三時半終ル 四時器材ニヨル タレモ居ラズ帰宅。

午前富田夫妻兄ト工場ニ來 挨拶ス 帰途ヨツタラ晝食後上京 スグ大坂へ帰ル由

▲▼180ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月21日(日)

天気晴

六時半起床 一通り朝ノ仕事ヲ終ツテ和子ヲ連レ仁三郎ノ見舞ニ行ク 参吉ガ來テ居タ。三日程前カラ七度ト八度ノ間ヲ上下シテ居タ スデニ熱ハ下リ坂ニナツテ居タ 普通ヨリ一週間早ク終リソウダ 來月十日頃ニハ退院ニナルダロウトノコト

本望來宅 伊セ庄ノ株券五枚ト委任状ヲ還ス。萩原來。滿州ノ特種部隊ニ居ル由 秘密ノ仕事ニ従事シテ居ルトノコト 部隊ニ十六名ノ大佐ト數十名ノ博士ガ居ルトノコト 三時前歸ル

▲▼181ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月22日(月)

天気 曇雨

七時四十分工場出 今朝久シ振リデラジオ体操ヲナス 大分忘レテ居タ
十時十分前戸田、星野ニ會ヒ入社希望者ノ履歷書ヲ渡シテ上京 本社二十一時ツク。
賞与ノ件表ヲ畑氏ヨリ見セル 皆前年度ヨリ多少トモ多クナツテ居ルノニ廻間一人前ニ
百三十五円ガ百円ニナツテ居タノデ、如何ナル理由ニヨルカ聞イタガ明答出來ズ 自分
ヨリ退社サセルナラトニカクサモナケレバ増額スルコトヲ述ベ結局百四十円トス。青木ニ
明後日津田沼へ來ルコト 新勞務係ニ松戸ノ工員名簿作ルコトヲ命ジ組合ニヨリ福知氏
ニ會ヒ、途中晝食シテ觀音讀誦會ニ出ル 終ツテ木村日記氏ノ印度ノ獨立ニツイテト講
演ヲ聞ク 結論ハ印度ニガンジーアルカギリ必ズ獨立ハナルトノコトデアッタ

▲▼182ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月23日(火)

天気 曇リ

八時半工場出 午前中工場 太田ニ佛様ノ話シヲナス
清平松戸ノ件ニツキ話シアリ
晝食ニ歸リ午後休ム 清平ニ時頃來 鷺見ト京都ノ松尾君ニ四時ニ會フ爲メ上京スル
トノコト 一切清平ニマカセル。マダ何人ニモ話シ出來ヌ 鷺見川崎氏ニ話シタル由
三時ニユース後朝顔ト外ニ三盆栽ノ植替ヲナス

▲▼183ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月24日(水)

天気 曇雨

八時過ギ工場出 神崎へ行く予定ノ處京都ノ長尾來ルトノコト 大体清平ヨリ今迄ノ
経過ヲ聞ク。正午畑、板垣、小野來。食事 工場見テ松戸へ挨拶ニ行ク 二時半ヨリ同
道シ所長ニ挨拶シテ五時歸宅ス 工場ハ木材ハ大分運バレテアッタ
コレヨリ先キ朝日ヨリ坂本氏小松氏來 製産能力調査ヲナス。二時頃鷺見氏ト長尾氏
同道來 一寸挨拶ダケスル 四時頃歸ヘツタ由

▲▼184ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月25日(木)

天気 曇雨風

午前中工場 高岡ヨリ來場ス
清平ヨリ昨日ノ報告ヲ聞ク 戸田氏ニ駒鳥ノ説明ヲナス 星野氏ヨリ霞ヶ浦ノ話シ聞ク
午後身体ガダルク眠クテタマラナイノデ休ム
雨、風ノ爲メ神崎行中止ス

▲▼185ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月26日(金)

天気 雨

終日雨

朝八時工場出 俳句ヲ手習ス 午後松戸工場。工場配置圖ヲ作ル 六時迄工場ニ居リ工場内ヲ見テ帰宅ス

▲▼186ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月27日(土)

天気 晴

八時上京シカケタ處へ高見氏來 引返シテ話シヲ聞ク パラシユート普及会ハダメニナツタノダガアト注文ガアルノデヤツタモノカドウカ、何ニカヨイコトカナイカトノコトデアッタ パラシユートヤ飛行機ハ止シタ方ガヨイト止メル 南方行キハ家族ガ承知シナイトノコトデアッタ 結局組合ノ寄附金募集ヲヤツテ見テハトノコトニ自分カラ協會へ話シテ見テ呉レトノコトデ 引受ケル

十時器材着 板垣昨日作ツタ工場図ノ説明ヲナシ十一時ヨリ各課長ニポーナスヲ渡ス ツヒデニ自分ヨリ一席希望ヲ述ベテ居ク

一時組合ニ行ク 理事会本庄、生田、飯国、美津の、福地、自分出席 生田ヨリ飯国氏二十九日ノ話シヲシタカ飯国氏即答ヲサケ結局月曜日清水氏ノ回答ヲナスコトトナル

三時ヨリ鷺見君ノ電話シテ会见 先日來清平ノ話シニツキ自分ノ意見ヲ聞カレル。自分トシテハ現在ニ不平不満アルワケニアラズ。然シ思フ仕事ガ出來ナイカラ自分ノ理想ヲ諸君等ノ若イ人達ニヨツテ実現サレルコトデ爲メニハイクラブモ犠牲トナルコトヲ繰返シ述ベテ居ク 尚方法ニツキ實際的ナコトノ話シアリタリ

▲▼187ページ▲▼ 昭和17(1942)年6月28日(日)

天気 晴

熱イ日デアッタ 午前清平來 昨日鷺見君ト会见ノ話シヲナス 晝前清平工場へ出ル

清一人才イテ行ク 俳句ノ書キ方ヲ終日讀ム

徳治八仁三郎ヲ見舞テ其マ、友人ヲ陸軍病院へ見舞ニ行ツタ由

◆▼1888ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月29日(月)

天気 曇リ少雨

八時半縣庁へ行ク 青木來ラズ 九時五分受付デ名刺ヲタノンデ上京 組合ニヨリ高見氏ノ履歴書ヲ受取り協会ニ行キ堀閣下ニ會ヒ会社ノコト組合理事辞任ノコトヲ述べ高見氏ノ件ヲタノム 内藤氏ヲ呼ブ 熊本県ニハスデニ募集係リハ居ルガ佐賀縣ニハナイ由 尚熊本縣モ協力シテ貰フコトハ差支ナイ由デアッタ

器材ニヨル 書類出來ズ 今朝行カナカッタ由 其旨昨夕工場へ電報シタトノコトデアッタ。ポーナス貰フ 前期通リトノコト 一日重役會 午前十時出席サレタシトノコト 社名其他總會ニ対スル打合せノ由 今井仁ヨリ久シ振りデ通信アリ 南方活動振りヲ知ラセテヨコシタ

◆▼1899ページ◆▼ 昭和17(1942)年6月30日(火)

天気 曇雨

電報ニヨリ九時組合ニ行ク 飯国氏居リ昨日課長ト福知君ト會見ノ結果總會ノ役員撰ビ方ガ悪イトノコトデアッタ由 十時頃全役員集マル。生田、本庄二人 外ハヤハリ課長ヨリ呼バレタガ行ケナカッタノデ今日行クトノコト 理事会ハ其上ト云フコトニシタガ局ニ電話スルト皆一所ニ來テ呉レトノコトニ行ク。ヤハリ色々辨明シタガ役員變更ニツキ難色アリ 理事長問題モ共ニイツ迄タツテモラチ明カズ 正午過ぎ一先ヅ切り上げ美津の氏ノ顔デ工業クラブデ晝食ヲナシ協議ノ決(ママ)果役員ハ認メテ貰フコト、理事長ニ一時福知氏代行ノコトニテ福知、飯国両氏課長ニ行ク 五時頃帰りヤツト右通知シタル由 但シ一札今後ノ協力ニツキ念書ヲ入ルコトニナル。終ッテ飯国氏清水氏ノ招待デ夕食ヲ日本橋ノ常藤村デ受ケル 課長長田両氏モ來テ居タ 清水氏照(ママ)介終ル一寸見タ第一印象ハ余リヨクナイ人ダ 今日ハツヒニ一日ヲ要シ縣庁へハ青木一人書類ヲ提出ニヤル

◆▼1911ページ◆▼ 昭和17(1942)年7月1日(水)

天気 曇後晴

十時丁度器材着 社長、畑、今里、赤坂、森川、矢野、清水、八塚、伊藤、板垣出席 社名變更ノ件日本航空機工業株式会社ト決定 伊藤飛行機ト器材トノ賣買契約書 七月二十日ヲ以テ行フコト 金額五十万円トスルコト、新役員ハ専務ヲ畑、今里、常務

ヲ赤坂、伊藤、新タニ取締役ニ板垣ヲ加ヘルコト。株八万株ノ内六万株ハ前株主ニ一株ニ対シ一株ニ万株ハ社長一任デ新規募集。安田保ノ保険会社ニ社 其他ヨリ社員デハ新ラタニ赤坂三〇〇板垣二〇〇アリタリ。十一時終ル 森川ト食事ヲ共ニス 伊藤ガナクナレバ自分ノ役ハ終ッタノダカラコ、デ止メルトノコト。僅カノ給料デシバラレルノハ困ルトノコトデアッタ 三越ノ七階ニ同道 見物シテ一時半器材ニ帰ル 二時ヨリ松戸建設ニ対スル松戸関係者ノ会議ヲ開キ工場ノ大キサ配置ホゞキマル 決定ヲ命ジテ高見氏同道山水楼ニ内藤君ヲ招待 高見君ノ会員募集ノ件ニツキ想(ママ)談 七時半終ツテ帰ル 船橋ニテエミ子ニ会ツテ帰ル

◆◆1926ページ◆◆ 昭和17(1942)年7月2日(木)

天気 晴

久シ振リニ工場出勤 ヤハリ次ギ、用事ガアッテ午後仁三郎ノ學校へ欠席届ヲ出シニ行ク予定ガツヒニ行ケナクナッタ

午前中職員ノ身分制定ヲ行フ 午後縣警察部長來社 安全週間ノ視察ノ爲メ 島安博來 技研ニテロボット操縦ノ大型グライダー製作ノ件ニツキ大森少佐ガ會ヒタイトノコト 八日会见ヲシタイトノコトデアッタ 夜再ビ宅ニ來 八月頃ヨリ大坂へ行クノデ就職ノ件デアッタ 当社ノ囑托ヲタノムトノコトニ下話ス

◆◆1933ページ◆◆ 昭和17(1942)年7月3日(金)

天気 曇リ

時事 午後七時警カイ警報出ル

八時前工場出 乙竹ニ松戸立替金ノ取報(ママ)方ニツキ話ス。本望ヨリグライダー用材料在庫ヲ聞ク。清平ト一二打合セシテ帰宅後工業學校ニ仁三郎ノ欠席願ヲ出シニ行ク 井上教師ニ會フ 十六日カラ試験ノ由。

正午組合ニ行キ資材ノ件ヲ聞ク 東氏ニ電話ス スグ來ルトノコトニ待ツタガ來ラズ 二時本社ニ行ク 三時ヨリ社長次長會議 専務ヨリ總會、役員会ノ結果報告後日野原氏ヨリ提案ニテ職員ノ職制ニツキ協議 四時半ニナル アト自分ノ理事長辞任ヲ対シノ報告アリ 事後報告ニツキ遺憾(ママ)ノ意味ノ話シアリ 無言ニ聞流ス 五時二十分青木ニ綜合所移設調査方月曜日千葉(行)ク由ニツキ依頼ス

五時半高見氏ト會フ 質ノ利子百五十円受出シニ二百円式百五十円借(ママ)シテ呉レトノコト 困ツタガ結局百円ダケ貸スコトニ約束ス

◆◆1944ページ◆◆ 昭和17(1942)年7月4日(土)

天気 曇晴

八時前工場出 上京 試験場ニ駒鳥講習ノ状況見学ニ行ク 松浦氏一人シカ居ラナカ
ツタ 木原氏ノ案内デ見學 十一時半出テ、高見氏宅へ行キ百円質ノ利子トシテ貸ス
一時半出テ本社ニ行ク T社課長連中ノ会議ヲヤツテ居タノデ参加シテ聞ク 五時終
ツテ帰宅。毎日本社ニ出テ貰ヒタイトノ社長ノ希望ノ由 朝出ルコトニ自分デキメル
午後津田沼へ帰ルコトトス

▲▼195ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月5日(日)

天気 晴

家内トヨシハ四時半頃カラ畑へ草取りニ行ク 六時起床 午前中菊ノ植へ替エヲ行フ 午
後少シ眠ル 野口氏ヨリ島田氏ト夕方五時ヨリ並木ニテ会食シタシトノコトニ行クコト
トス 四時前出カケル
仁三郎ヲ見舞フ 夕方七度台ニナツテ今日デ六日目デアル 今日七度ニ上ラナケレバ
上等 明日アタリハ平熱ニナリソウニ思ワレタ
小鳥屋へセキセイノ雛一羽持参。湖綿鳥(ママ)ヲ買フベク予定シタガ主人不在 帰リニ
寄ルコトトス 野口氏高橋氏ト会食 島田氏來ラズ 用件ハ千葉県ノ資本デ五十万位
ニシテ伊藤飛行機ヲ再建シテハトノコトデアツタ 考慮ヲ約シテ居ク
帰リニ小鳥屋へ寄ル 戸ガ締ツテ居タノデ又來ルコトニシテ帰ル
ナホカ水アメラ持ツテ來テ呉レタ
和子八度余リ熱アリ

▲▼196ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月6日(月)

天気 晴

朝出カケニ下痢シタノデ今日ノ出社ハ見合セ 午前中清平來 將來ノ問題ニツキ打合
セヲナス 一昨日ハ局長カラ二部長モ來タ由 二部長ハ鈴木館ニ泊ッテ行ツタトノコト
デアツタ
正午ヨリ浅草ニ行ク 讀経後講話ヲ聞キ四時五分前終ル 今日ハ三十三身應身全部
終了 帰途千葉ノ小鳥屋へ行キ鴻錦鳥小供ニ羽二十円デ求メセキセイト白十姉妹ト
交換ス。今朝十姉妹一匹死ンデ居タノヲ發見ス

▲▼197ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月7日(火)

天気 晴

今日ハ寒ニ熱カッタ 九時五分前器材着 社長畑ニ會フ 会社指導精神ヲ作ルコトヲ述

ベル 津田沼ノ社はヲ如何ニスルカヲキメルコト

赤坂氏妻君死去ノコトヲ聞キ、十時半協会三行キ高見氏ト小川大佐ノ会見ニ立會フツ
モリガ小川氏カラコトワラレル 亀サンノ處デ井上長一ニ會フ 廿五六日野武(ママ)會
富士川下デヤル由亀サンヨリ聞ク

赤坂氏ヲ訪問 弔意ヲ述べ組合ニヨリ福知氏ニ會ヒお盆忌ノ件話ス 三時半頃帰宅
工場へ行ク予定取ヤメル トテモ、クタブレタ 清平ニ船橋デ會フ。二ノ宮ノ工場調査ニ
行ク 夜八時床ニツク

▲▼1988ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月8日(水)

天気 晴

七時半出 立川行き 十時半ツク 十一時半大森少佐会见 自重ノ重イ即ウイグロ
ードノ大キイモノガ欲シイトノコト 滑空ハシナイ由 曳航ダケデヨイ 從來ハ三百キロ
位ノ速度ヲ出ス様ニシタイトノコト 現在アルソアラヲ改造スル程度デ四五ヶ月内ニ
見本の二一台作りタイトノコトデアッタ 工場ノ事情ヲ一寸話シ現在デハ試作ハヤラナ
イ方針ナノデ別ニグライダーヲ自分デヤル様ニシタイ希望アル旨述べテ居ク 島ニモ會
フ 新宿デ分レタ(ママ)事シテ赤坂宅へ二時二十分着 三時迄立チ立(ママ)棺ヲ見送り
組合ニテ清平ヤ兄ト會フ 清平ト話ス時間ナク明日宅デ會フコトヲ約ス 廿一日カラ
出社シナイトノコトデアッタ

▲▼1998ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月9日(木)

天気 晴

朝島田君來 最(ママ)非起ツテヤツテ貰ヒタイトノ事デアッタ 九時過ギ器材着 一時
ニ青木帰ツテ來ルカラトノコトニ待ツ 二時迄帰ラズ 明朝縣庁へ單獨ニ挨拶ニ行クコト
青木來ルナラ十時頃來ル様事ツケテ帰ル

晝前日航ニ竹中、尾崎君ト會フ 庄司居リ晝食ヲ共ニ話シヲ聞ク 飛行機ヲ取りニ
來タトノコト ソレハ丁度器材デ最近試飛行シタモノデアッタ

船橋ニヨリ兄同道ニテ帰宅 入浴後清平ト三人デ相談 自分ノ考へハ長尾ノ方が出來
レバヨシ 出來ナケレバ、コノマ、ヤルコト。イクラ資本家ヲ取替エテモ、五十歩百歩デア
ルコトヲ述ベソレニキマル 長尾十五日前迄ニ來ル由

▲▼2000ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月10日(金)

天気 晴

五時半起床 八時久シ振りニ工場ニ行キ手紙ノ整理ヲナシ九時半ヨリ千葉縣庁ニ行ク

青柳氏出張不在 野村氏二會フ 挨拶ヲシテ高橋君兄二會フ 再ビ工場ニ帰り今朝清平、乙竹迄主任連中ヨリ話シノアツタ退職手當問題ニツキ星野、戸田両氏ニ話シ善処ヲ頼ミ上京 一時過ギ本社着 二時ヨリ松戸所属課長以下組長級迄約三十名ニ対シ自分ヨリ作業卜訓話ヲナス。畑氏ヨリ会社ノ方針等話アリ 板垣氏ヨリ係長、課長ノ照(ママ)介ヲナス 三時終ツテ帰ル 船橋ニヨリ君子ト小供同道シテ帰宅。少休後水ヲヤリ、御経ヲ上ゲ夕食

▲▼201ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月11日(土)

天気 晴

五時半起床 ラジオ体操 朝食後上京 九時十五分前着 社長ト戸田対談中デアツタガ自分ガ這入ツタノデ止メタラシイ 板垣居リ社長カラ盆栽談アリ二三話ス 板垣ヨリ社長へ報告 電話一本申込ミ一本買へソウダトノコト(現在買入レタ外ニ職紹へグライダー下請ケサセルコトニ交渉中トノコト 今迄自分ニ何等報告モ相談モナカッタコトバカリデアル。発動機廿一日船橋ニツキ宿舍賄ニツキ注意ヲ與ル 十時過ギ畑氏足立工場ニテ、グライダー破損重傷者ヲ見舞フ 帰ツテ來タ戸田氏ト会談ノ予定ノ處日精へ社長、今里ト会見ニ板垣同道行ク 矢野氏モアトヨリ行ク 自分十一時ヨリ組合ニヨリ一時出テ仁三郎ヲ見舞ヒ家内ト一所ニナリ四時帰宅ス 植木ニ水ヲヤリ御経ヲ上ゲ夕食 六時半

▲▼202ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月12日(日)

天気 晴

今日モ暑イ日デアッタ 四時ニ家内トヨシガ畑ノ草取りニ行ツタ 五時半起床 九時頃徳次稲毛へ行き十二時半頃友人ヲ連レテ帰ツテ來タ 其前家内ハ船橋へお盆ノ花ナド買ヒニ行き帰ル
お客ハ工場ヲ見ニ行き三時頃帰り風呂ニ入レ食事ヲ出ス 五時帰ル 徳次モ帰ル 昨日五十円主人カラ貰ツタトノコト 賞与デアロウ 初メテノコトデ佛様ニ上ゲテ居ク 終日在宅 讀書ト入浴 盆栽松ヲ地上ニ植替エル 今日ハ水ヲ充分ヤル

▲▼203ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月13日(月)

天気 曇り晴

今日ハ曇テ朝ハ涼シカッタ

七時前清平來 鷺見ノ話シテ陸軍カラ佐藤氏ニ五百万円位ノグライダー新会社設立ニツキ話シアリタリトノコト ソレニツキ佐藤氏ハ鷺見氏ヲ推撰シテ帰ツタトノコトデアツ

夕 右ニツキ明日鷺見氏自分ト會ヒタイ由 明朝會フコトニシテ居ク 九時器材着 社長、畑、赤坂会談中デアッタ。自分青木ヨリ充員計画ヲ貫ヒ之レヲ写シ、マモナク協會へ高見氏ノコトデ行キ内藤氏ニ依頼。局ニ行キ二部長ニ會フ 鷺見氏ノ話シラシイモノ何ニモ出ナカッタ 補給課長森川氏ト會談 十二時出お寺へお盆ノ挨拶ニ行キ浅草へ御詣リ 今日ハお盆ノ法要アリ十人余リノ僧ガ出テ讀經アリ
五時工場へ出六時藤代、鈴木、松崎三名ノ入營壯行会ニ出席ス

◆▼204ページ◆▼ 昭和17(1942)年7月14日(火)

天気 晴

七時四十分工場出 佐藤ヲ呼び解散手當ノ件ヲ聞ク。ドウヤラ佐藤ナド主唱者ラシイ

九時清平來 モウ來ルトノコトニスグ帰宅 間モナク鷺見君來 アトヨリ清平來 結局長尾氏來タ上同氏ノ考ヘヲ聞クコト ソレニ止メルカ、取アエズ予定通り進メテ合流スルカ、初メカラ大口決定スルカ三ツノ内ニ取ルコトス

正午ヨリ上京 一時二十分器材着 二時ヨリ所長次長會議 五時過ぎ終ル。帰途奈良原氏訪問。大分悪ルソウデアッタ 昨日工場デ晝食ノカツオガ中毒シタトノコト 船橋ニヨリ帰宅ス

◆▼205ページ◆▼ 昭和17(1942)年7月15日(水)

天気 曇リ小雨

七時四十五分工場出 十一時畑外二名來 星野、戸田同道ス 先ヅ課長以上集合 意見ヲ求メラル 両課長ハ畑氏ヨリ会社方針ヲヨウ話シテ貫ヒタナラ、ウマク納マルダロウトノ見解デアッタ 会食後男子職員全部集合シ畑氏話ス筈ノ處自分カラ話シテ呉レトノコトニ自分ヨリ合併ニツイテ引断(ママ)ギ模様カラ会社側ノ情宣等ヨリ話シ畑氏ヨリ、尚フエンシテ但シ一人デモコノマ、ニ行クコトニ反対ガアレバ全部ニ対シ一應解雇ノ手段ヲ取ルコトヲ申渡ス 漸(ママ)時時間ヲ居キ各課長ヨリ結果ヲ聞ク 総務、經理、ハ課長一任。工場ノミ大部分解散ヲ希望シタル由ニテ更ニ女子職員モ加ヘ集合 一度解散手續キ取ルコトヲ申渡ス 時三二時 四十分半
広島県三次ヨリ來客アリ グライダー木材ノ件話シテ居ル内三三時ニナリ印旛行キ中止 奈良原氏見舞ニ行ク 大變ヨカッタノデ安心ス

◆▼206ページ◆▼ 昭和17(1942)年7月16日(木)

天気 曇少雨後晴

今朝ハ寒カッタ 夕方ヨリ暑クナル
九時縣庁ニテ野村氏ニ會見 農地ノ件依頼ス。スグ上京 器材ニテ青木ニ會フ 工場配置圖急グコト。職員ノ表ヲ作ルコトヲ命ズ 清平ガ來テ居タ 呼バレタノダトノコト 星野、戸田來 清平ト話シテ居タ 自分ハ階上ニ行ク 今里、畑、赤坂、板垣等何事カ會議ノ終ツタ處デアッタ。板垣ニ縣庁ノ話ヲナシ、建築ニツイテノ方針ヲ話シ晝食ヲ共ニス 廿一日予算會議ヲヤルカラ朝十時交詢社ニ集ルコトトノコトデアッタ
一時協會ニ内藤氏ト會フ 高見氏ノ件小川氏ノ方ハ不調ノ由 協會ニヨル 清平居リ 廻間ナド來 四時迄居リ帰ル
宅へ畑氏ヨリ明日十一時ニ行クアリタシトノ電報アリタリ

▲▼207ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月17日(金)

天気 晴

朝清平來 今日十一時畑氏來ル旨話ス 八時半頃ヨリ工場ニ行 途中星野氏ニ會フ 昨日ノ模様聞ク 工員ハ此マ、引續ギタイノデ其話シニ畑氏來ルトノコトデアッタ 工場着 工場内ヲ一週ス 防空演習ノ爲メ作業ニツイテ居ルモノ少ナカッタガ割合ニ出テ來テ居タ 更ニ戸田、星野ヨリ同様ノ話シヲ聞ク 十時半防空演習終ルト同時ニ畑、矢野、森川、三氏來 畑氏ヨリ工場閉查(ママ)カコノマ、断(ママ)續スルカ スルトスレバドウシタラヨイカ僕ノ意見ヲ聞イテキメタイトノコト。工場閉查(ママ)ハ考タコトモナイ、コノマ、ヤルニハ新所長、次長、意見ガ第一デ自分ノ口出シスベキデナイトコトワル 結局人事問題デヤメテ貰ヒタイ人トシテ清平、兄、宇賀、布施ヲ上ゲテ僕カラ話シテ呉レトノコト コレニ対シ外ニナイカ所長、次長ヲ呼ビテ聞カセル 自分席ヲハズス 結果星野ヨリ乙竹ヲ上ゲ之レニ新井ヲ加ヘテ退職者ト決定 乙竹ニハ森川氏ヨリ話スコトトナル 以下三六五頁へ

(385ページへ続く)

▲▼208ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月18日(土)

天気 晴

今日ハ終日在宅 考慮ス 結局自分モヤメル外ナイ事ニ決定ス 夕方星野ヨリ手紙ニテ明朝九時カ十時頃舟崎氏自宅へ來テ呉レトノコト
朝佐藤ヲ呼ビ意見ヲ聞ク 止メル 就職ニツイテハ一ヶ月バカリ考ヘルトノコト
夕方宇賀ヲ呼ビ一昨日ノ件話スヨリムシロ聞クコトニナル 一時間バカリ太田トノコト清平ノコト等話シテ帰ル 解散手當ガ出ナイ場合辨護士ヲ頼ムツモリダトノコト。又一ツ難問題ガ生ジタ訳ダガ之レハ、ソシナコトスル事ハ無駄ナ様ニ思ワレル

◆▼2009ページ◆▼ 昭和17(1942)年7月19日(日)

天気 晴

防空演習ア四時カラ起ル 六時半出カケ船橋ニテ清平、兄、ト話ス 木下氏廿日十時羽田ニ帰ル由

九時十五分舟崎低(ママ)着 少時來客デ待合セ会见 舟崎氏ヨリハ氣ヲクラサラ(ママ)ナイデ松戸所長トシテ大ニヤツテ貫ヒタイトノコト 自分ヨリ自分ノ性格ノ弱サカラ今日ニ到ル迄ノコトヲ井倉君當時ノ事ヨリクワシク話シ其故ヲ以テ止メタイガ代リノ人及局トノ連絡ヲツケタ上デ止メタイト述ベル 其頃畑氏ヲ電話デ呼び清平ノコト止メサセナイデ足立トカ、他ニ廻ス様ニシテハドウカトノコト 尚工場ノコトニツキ会社デ相談シテ呉レトノコトニ自分ノコトハ考慮スル旨考ヘテ畑氏ト会社ニ行ク

三時半迄方、リ昨日ハ工員ハ職員ノ通りニシテ呉レトノコトニ対シ明日回答スルコトニナツテ居ル由 結局矢野、今里モ來 畑氏ノ案ノ全部ヲ引繼グコト 止メル人ニダケ退職手當ヲ出ス 解散手當ハ出サヌト決定散会シタガ、又変化シタ案ニナツタノデ困ツタモノダ。

船橋ニヨリ清平ニ外青木廣瀬ナド來テ居タノデ自重シテイヤシクモ暴力ニ渡ルコトナキ様時ニ注意スルコトヲ命ズ

◆▼210ページ◆▼ 昭和17(1942)年7月20日(月)

天気 晴

朝早く清平來 川崎氏ヨリ大口ノ話シ聞イテ來タコトヲ聞ク 自分ニ参加スル意見アルヤ否ヤ等ノコトデアッタ由

九時本社着 十時工業クラブ株主總會約三十分位デ終了 自分モ正式ニ常務ニ就任森川氏出席セズ 十一時ヨリ畑、矢野、両氏ト津田沼ニ行ク 正午着 晝食 一般ノ空氣悪シトノコト 清平以下退職者ニ畑氏ヨリ辞令ヲ出スカワリニ正式ニ話ス 別ニ欠點ハナイガ会社ノ運営業止ムナク止メテ貫フトノコトデアッタ 後チ工員職員全部ヲ食堂ニ集メ畑氏ヨリ全部ヲ引繼グトノ宣言アリ 自分ヨリ輕擧ライマシムル話シヲシ矢野氏最后ニ畑氏ノ足ラナイ處ヲオギナウ。然シ過日全職員ヲ解職スル旨申渡シテ今日ハ其事ニフレズ直チニ会社ノ決定案ヲ申渡シタノデ佐藤、太田、角、其他來 四時迄カレコレシタガマトマラズ 自分ト畑上野ニ帰り矢野戸田星野アトニ残ル 七時頃矢野、戸田來 マダ未解決ノマ、ラシカツタガ、ヤ、落ツイタカラ明日ニデモナレバヨクナルダロウトノコト 七時半ヨリ帝国ホテルニ長尾、鷺見両氏ト会见ス

三八七頁へ

(2007ページへ続く)

◆◆211ページ◆◆ 昭和17(1942)年7月21日(火)

天気晴

朝参吉ヲヨシ昨夜ノコトヲ話シ清平ニ事ヅケル 太田來 今日大部分ノモノ辞表ヲ出ス
予定トノコト

九時本社着 十時交詢社ニ行キ十二時迄足立、松戸製作所予算会議 マツ経理ヨリ
出シ得ル予算三月迄二百一十万円ト提示 足立六約九十七万入ル由 松戸モ丁度九
十五万バカリニナル 結局松戸ハ新設ニツキ全額認メ足立六十万円ト決定 内材木代
トシテ支拂濟ミノ約三十万円ハ引ク由 終ツテアラスカニテ晝食。森川氏ノコトニ及ビ
昨日ツヒニ來ラズ。登記ノ爲メ判ヲ貰ヒニ行ツタガ押サナイトノコトナド聞ク 後社長、
板垣同道航空局長ニ部長、工政、補給両課長ニ挨拶ヲナシ菊水ニテ久シ振リニ木下
君ニ會ヒ今日迄ノ事情ヲ話ス ソコハ清平來 木下氏ハ結局舟崎ノ人格問題ニナルカラ
明日話ストノコトデアッタ。分レテ清平ト長尾訪問 自分ハ組合ニヨリ、津田沼ニテ野
口君ニ其後會ナイノデ先日ノ札方々今日迄ノ様子ヲ話シ職工ヲツナク爲メ五千元借
入金ノコトヲ相談 明日中三三千元ダケ作ツテ見ルトノコトデアッタ

◆◆212ページ◆◆ 昭和17(1942)年7月22日(水)

天気晴

八時工場出 九時迄居ル 所長、次長、青木ダレモ來ラズ 工場内將碁ヲスルモノ、ピ
ンポンヤルモノナドアリ 千葉行キヲ止メテ九時ヨリ出カケル 途中星野ニ會ヒ善処
ヲ命ジ組合ニ行キ正午迄理事會ニ出席。組合強化問題ニツキ本庄氏ノ提案アリ 印刷
ノ上各社ニ廻シ更ニ協議スルコトトス 適性價格問題ニツキ聞カレ自分ノ意見ヲノベル
値上希望千三百円ノ由ナルモソレハ一時ノ値上不可能ト思ニヨリ 漸(マ)定的トシテ
千円トシニ二百円ハ値上ニヨラズ補助金ヲ出スコトヲ案ヲ答ヘル。工政課長ニ會フ予定 不
在トノコトニ明日ニス 三時半工場ニ帰ル 青木ニ検事局ハ松戸トノコトデアッタ 尚青
柳氏ハ自宅訪問ノ必要アル旨話ス

工場、特高ヨリ調定ニ來 職員中止メタイモノハヤメルコト、工員ハホトンド残ルコトニナ
ルラシイトノコト ソレハ青木ガ四割以上ノ加給ヲ出ストノ條件ヲ出シタコトカラデアッ
タガ昨日特高ノハカラヒデ退職金ヲ積立テ止メタイダケヤメアトハ復職トナツテ居タノ
ガ又好條件ニヨリ引止メ策ヲ出シタノデ特高ノ人モ氣ヲ悪クシタ由 然シ決(マ)局止
メルモノハ止メ止マルモノハ止マルト云フ結論ニナツタ
朝清平、角、布施ト退社組ノ人名調ベヲ行フ

◆◆213ページ◆◆ 昭和17(1942)年7月23日(木)

天気 晴

五時起床 布施、佐藤、参吉來 昨日迄ノ情勢ヲ聞ク 青木統ガ加給四割以上器材同様ニスルト云ツタコトカラ藤本、安田ナドガ活躍シテ居ルトノコトデアッタ 工員ハ大体残ルコトニナル模様

清平宅ニヨリ兄今日ハ二ノ宮ノ工場調査ニ行ク 自分航空局工政課長ニ會ヒ今日迄ノ情況アラマシヲ話シ自分モ止メタイ旨述べ、グライダーハ出來ナイト思ガ修理ハ完全ニハタシ得ル旨述べテ諒解ヲ求メル。課長大分アワテテニ部長ニ會ツテ呉レトノコトデアツタガニ部長不在。辞シテ器材ニ行ク。板垣一人居リ昨日ノ日航ノ器材準備議ノ模様ヲ聞キ、検事局ハ松戸へ書類ヲ二十日程前ニ送ツタトノコトニ松戸へ行ク 松川検事ニ會ツタガ來テ居ナイトノコト 晝食後警察へ行ツタガ警察デハ五月ニ送ツタ筈ニチガイナイガ係リノモノ居ラズ廿四日明日行クコトス。正午森川氏本社ニ來 今日社長、木下モ午後會見スル由

▲▼214ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月24日(金)

天気 晴

息ツマル様ナ暑サデアッタ 清平宅ニヨル 兄工場ノ方ノ問題デ関根へ行クトノコト 自分松戸警察ニ行ク 調べテ貰ツタラマダ書類ガ警察ニアツタノデ、スグ検事局へ廻シテ貰フコトヲ依頼ス 経済課長ノ話シデハ之レハ君ノ方ニモ責任ハ勿論アルガ其一半ハ縣ニモアルノダカラ誰レノ係リカトノコトニ青柳小作官ト云フト、ソレデハ今日スグ電話デ此事件ニ関セス進行スル様話シテ居クトノコトデアッタ。本社ニ行キ板垣、畑、今里、矢野ガ居タノデ右報告シテ、局へ行ク 丁度十一時 然ルニ木下ト打合セ一所ニ來テ呉レトノコトデツタトノコト 自分ハ木下モ來ルカラ十一時ニ來テ呉レト聞イタノデ木下來ラズ明朝ニ延期シテ組合ニ歸リ、協会ニ行ツタガ大西閣下不在 高見氏ノ件氣ニナルガ不明

兄ヨリ電話アリ 奈良原サンへ関根氏ト行クカラ、行ツテ呉レトノコトニ行ク 丁度一所ニナリ奈良原氏宅ニテ会谈 関根氏ノ話シデハ銀行ガ押テ居ルトノコト 同氏ハ十日頃ニ同工場ガ入用トノコト 右ニツキ買収、共同使用、或ハ先方ノ入用迄一時借用デモイツレデモヨイ様ニト依頼シテ兄ト先キニ歸ル アト奈良原氏ト懇談シテ貰フ 佐藤、吉田局ニテ會フ 慎ト補給課行ツタ由 慎ノ處へ行クコトニ大体キメタ由

▲▼215ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月25日(土)

天気 晴

八時工場出 戸田星野スデニ來 階上ニテ組長伍長制ニツキ優遇案ヲ提示 引止メ中デアッタ

九時ヨリ上京 十時丁度局ニツク 木下氏待ツ間石島氏ト懇談ス 木下氏十二時十分前來 守屋課長十二時ヨリ外出スルトノコトニテ少時會談。グライダーモヤラズ伊藤氏モ居ラヌトノコトデハ、局ガ器材カラ増資ニツキ一杯喰ワサレタコトニナルカラ嚴談セネバナラヌトノコトデアッタ 木下、舟崎會見ノ上更ニ會見スルコトニシテ木下氏ト丸ノ内會館ニテ晝食ヲ共ニ自分ノ意見トシテ今更元ニ返ツテノ話シハ到底不可能ニツキ今日ノ事態ヲ元トシテ如何ニスベキヤニツイテハ自分ニグライダー部ヲ引受ケ必要アレバ自分ノ名只殘シ会社ト局ノ間ヲ斡旋スルコトニシテモヨイ。其方向ニテ解決案ヲ見出ス様依頼ス 木下氏モ其外アルマイトノコトデ賛成シテ居タ 組合ニヨリ四時帰宅

▲▼216ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月26日(日)

天気晴

四時半起床 徳治ト成田山參拜 九時帰宅
清平來 十一時工場ニ行キ清平、布施、佐藤、ト記念写真ヲ取ル 帰宅 晝食後一寝入シテ清平五時過ギ帰ル

▲▼217ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月27日(月)

天気晴

朝会社ヨリ板垣ニ電話スル 青木縣へ行ッタラシイトノコト 十時自動車ニテ縣庁ニ行キ青柳小作官ニ會見 青木來 書類ハ名儀(ママ)變更ノ爲メ持ツテ歸ツタトノコト 農地變更ニツイテハ建築ニ從ツテスルコトニ諒解ヲ得テ歸社後上京 十二時十分本社着 食事ニ行ツテ誰レモ居ラズ。銀坐ニテ晝食後淺草ニ行ク 今日ハ夏安居ト放生會、ガアルノデ本堂ニテ行フ 初メテ這ル本堂ハ不動様カラ見ルト十分、セマイ 本尊前ニテ觀音經一卷ト般若經ヲ上ゲ終ツテ裏堂ニテ放生會ヲ行ヒ觀音經一卷ヲ上ゲル 記念撮影ノ後チ淡島様ノ前ノ池ニ、ウナギヲ放生ス。四時帰宅ス

▲▼218ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月28日(火)

天気晴

早朝清平來 木下氏ヨリ電話ニテ交渉 六ヶ間敷ク舟崎、工政課共ニ自分ガ止メルコトニ不同意ノコト 今日出社ヲ中止シテ終日自宅ニ居ル 夕方電話ト電報ニテ明朝九時本社ニテ會ヒタシトノコト社長ヨリ報セアリ。清平川崎氏ト會見ニ試験場へ行ク 結局大会社ニ自分ガ這入り得ルヤ否ヤガ先決問題ト考ヘル 明朝早ク清平ヲ呼ブコトス

▲▼219ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月29日(水)

天気晴

五時半清平ニ來ル様電話スル 六時來 昨日川崎航空官ト会見ノ模様ヲ聞ク。何ン等新ラシイ話ハナカッタ 卅一日長尾來ル旨昨日電話アリタル由 兎ニ角大会社ノ動行分ル迄社長ニ會フコトヲ辞(ママ)ケルベク微熱アリトシテ電話デコトワラセル 別ニ板垣ニ手紙ヲ書イテ工場へ事傳ヲタノム。角、金太郎來 清平晝迄居リ後チ、北浦石島氏会见ノ爲メ上京ス

今日ハ終日神話編ヲ讀ミ又眠ル

夕方廻間ヲ呼ビ工場ノ情況ヲ聞ク

今日岩本外一名試験場ヨリ來リタル由 星野、夕食ニ鈴木館ニ行キタル由

▲▼220ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月30日(木)

天気晴

早朝清平來 今日ノ工政課へ來テ呉レトノコトニ對シ協議 之レモ延期スルコトトシ工場ヨリ局ト木下へ其旨電話ニテ返事ス

今日神話編讀ミ終ル 清平関根へ行ク 佐藤午後來

夜八時床ニ入ル 夜中ニ目ガ醒メルト徳次ガ來テ居タ

▲▼221ページ▲▼ 昭和17(1942)年7月31日(金)

天気晴

今日ハ御経ヲ写ス 午後小島ノ有野清平ト一所ニ來 今後出來得ベクバ組合直屬ノ下請ヲサセテ貫ヒタイトノコトデアッタ 同氏帰ツテ間モナク三時過ぎ、中央養生所ノ甲斐氏來 朝カラ畑板垣ト会谈シタトノコトデ自分思止マル様 ソレニハ、ドウシタラヨイカ、條件ヲタノマレテ來タトノコトデアッタノデ從來ノ件ヲ話シ今日ノ事体ヲ基礎トスルヨリ外清平ヲモドストカ皆ヲ引止メルコトハ時機スデニ遲イ旨答へ自分トシテハ会社ニ何等不満不平アルノデナク、全ク苦樂ヲ共ニシタ古イモノガ皆バラ、ニナルノニ對シ自分一人安カントシテ居レナイ。然シ航空局ノ條件ヲ得ナイ内ハ止メナイ。会社ガ局ノ仕事ヲ出來ル様條件ヲ得ル迄努力スル旨繰返シ述ベテ居ク

清平夕方長尾君ニ會ヒニ行ク

▲▼223ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月1日(土)

天気晴

終日在宅 観音経写経ヲ終ル 夕方ソレニヨツテ讀経ス

長尾午後三時發ニテ九州へ佐藤氏ニ会ヒ三行クトノコト 清平本日ハ來ラズ 青木仙正
午來。奈良原氏給料マダ手ニ入ラヌトノ手紙ガアッタノデ工場へ取りニヤルト本社カラ
送ルコトニナツテ居ルトノコト 取アエズ百円ダケ立替テ送ル 青仙ニコトツケル

▲▼224ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月2日(日)

天気晴

五時十分起床 小鳥ヲ見体操 朝食 以上大体近頃ノ日課

七時出テ清平宅ニ行キ昨日鷺見、長尾ト会见 長尾三時ニテ九州へ出發 多分佐藤氏
モ上京スルトノコト 五日ニハ帰ル予定ノ由

九時出テ清平ト十時東京駅着 十二時迄待ツ 木下氏ツヒニ來ラズ

待ツ間ニ今後ノ方針ナド語り合フ 三越ニヨリ本ヲ一冊買ツテ二時過ぎ船橋ニ帰ル 角、
青木、栗林ニ会フ 四時帰宅 庭ニ水マキ 入浴後観音経ヲ上げテ夕食
早ク床ニ入ル

▲▼225ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月3日(月)

天気晴

八時工場ニ出一通り見ル 事務所ノ職員ラシイモノ廻間以外居ラズ。船橋ニヨル 木下
氏四五両日差支アリ六日会ツタ上局へ一所ニ行キタイトノコトデ今局へ行クコト延バス。
藤枝來 十時ヨリ上京 十一時本社着 丁度松戸ノ課長會議中デアッタ。福岡ニテ修
理機事故アリ 対策トシテ工作、企画両課長出張サセルコトトス。一時頃日特へ來テ
呉レトノコトニ板垣ト同行ス 社長、畑ト会见。社長工政課長ニ呼バレ伊藤ヲ居タタマレ
ナクシタ様ニ思ワレテ居ルノデ此際最(ママ)非留任責任ヲ重ジテ貫ヒタイトノコトデア
ッタ 明日局へ行ツテ其事ヲ言明シテ貫ヒタイトノコトデアッタガ、木下ト一所ニ行クコ
トトス

式時半分レテ組合ニヨル 東洋金属五時カラ会ヒタイトノコト 今日ハ古イモノ五時カ
ラ招待シテアルノデコトワリ明日連絡スルコトトシテ鈴木カンニ行ク 招待者中今村一
人不参ス アト十二人出席 大ニハヅム。九時二十分自分先キニ太田ト帰ル

▲▼226ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月4日(火)

天気晴

昨夜ノ雨デ今朝ハヤ、涼シカッタ

七時出 船橋ニヨリ九時十分前本社着。十時半頃戸田一人來 星野他へ寄ツタトテ來

ラズ
正午飯国氏ト会見 清水氏今月アタリ理事長ニサレタイトノコト。養成所ノ作業ヲタノマレタノデ、ドンナ風カト色々聞カレ最後ニ材料ヲ、ト、ノエルコトヲ教ヘル 三井ノ問題ヤ、クワシク教ヘル 東洋冶業工場分離サシツカエナイトノコトデアッタ
二時本社ニ帰り予算会議 四時終了
船橋ニ寄り帰宅

▲▼227ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月5日(水)

天気 晴

ニースヲ聞イテ起床 昨夜十二時頃カラ左ノ無名指ガ痛ミ出シ眠レナカッタ 今日ハ終日痛ム 夜カイロニアタタメル
八時工場出 野口、島田自宅へ來 帰ツテ会見 特別ナ用件ナシ 島田氏ト工場ニ行ク。戸田氏ト職員ダケ退職者決定ス 七名アリ前ノ五名共十二名トナル 工員ノ方ハ星野、木村來ラズ明日トス 正午ヨリ上京 一時半局工政課長ト会見 課長ヨリ止メタ人タチガ、グライダ―工場ヲヤルトノコトダガ局トシテハ認メラレナイトノコトデアッタ 其旨一同ニツタエルコトヲ廻答 但シ太田ハ郷里ニテ修理ヲ希望シテ居ルノデ小規模ノモノデモアリ必要ナ旨ヲ述ベ諒解ヲ求メル 返事ハナカッタ。自分ニ器材ニ君ガ居ラナイトハ局ノ意見ガ全然通ラナイトニナルカラトノコトデアッタ 自分ノコトニツイテハ木下ニ課長ト御相談ノ上デ決定スルカラ宜シクタノム旨答へ、尚大口ノ会社ノ件ニツキ全然シラナイツモリデ国家的ニ見テ現今ノ滑空界ノ不合理ヲ強調シテ居ク
午後本社ニテ会議 社員ノ移轉並ニ出張費ニ関スル件
七時清平宅ニ帰り九時迄居リ帰宅

▲▼228ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月6日(木)

天気 曇小雨

今日ハ終日在社 戸田、星野午後出社 工員退社員決定件スミヤカニ決定スベク木村、牧田等モ其予定ナリシニ星野之レヲ處分スルコトニヨリ他工員ガ更ニ續々申出ル場合ヲ考へ軽々ニセズ、強硬ニ取扱ワントノコトナリシヨリツヒニ今日決定ヲ見ルニ到ラズ明日ニ持越スコトトナル 五時終ツテ帰ル
夜太田來 今日工政課へ行ツタラヤツテモヨイトノコトデアッタト大変嬉(ママ)ンデ居タ。後林部、外一名太田ト一所ニ行ク工員挨拶ニ來ル

▲▼229ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月7日(金)

天気 晴

今朝ハ秋ノ様ニ涼シカッタ

清平宅ニヨリ一所ニ上京 清平長尾ヲホテルニ訪問 自分ハ本社ニ行ク。工員止メルモノハ此際キマリツケルコト 社長、専務共ニ承認セシム 十一時半辞シテ組合ニ行ク 丁度清平カラ、スクホテルニ來テ呉レトノ電話ガアッタトノコトニ角ヲ連レテ行ク 晝食ヲ共ニシ初メテ長尾ノ方針ノ一端ヲ聞キ自分ノ統一ノ方針ノ一端モ話ス 一時半分レテ工場ニ三時帰ル 星野出社ナク工員ノ取キメ明日ニ延期トナル 原則ハ本社デキメテ來タコトヲ戸田、牧田ニ話シテ居ク 五時半退社々員ト共ニ記念写真ヲ取り清平、宇賀自宅ニ呼び今日預ツタ退職慰勞金ヲ渡ス 布施不在 太田、佐藤今夜九州へ出發ス 退職金清平千六百元 宇賀布施千円ヅ、兄ノ分ハ何シニ云ワナイノデ、コチラモ何ニモ聞カナイデスマス

▲▼2300ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月8日(土)

天気 晴

五時起床 八時四十分本社着 九時大詔奉戴式ニ一席挨拶ヲナシ協会ニ行キ大西閣下ニ會ヒ高見氏ノコト聞ク。ヤハリ入レル場所ガナイトノコトデアッタ 組合ニヨリ金具ニ対スル文部省ノ通知ガ來テ居タノニ対シ私見ヲ書イテ理事長ニ残シテ帰宅ス 丁度高見氏夫妻ト双子ガ來テ居タ 夕食後帰ル。西瓜、ジャガ芋アサリ等お土産タクサンデ、ヨロコンデ帰ル
午後工場ニ一寸出ル 戸田星野ニ會フ 工員退社ノモノ決定スル様スグニ社長、専務トモ打合セ済ミデアルニカ、ワラズ尚カレコレ星野ノ意見ニヨリ明後日ニ持越ス。木村新辞意ヲモラス 明後日自分ノ手元ニ辞表ヲ出ストノコト 森川氏ノ斡旋ニテ松尾課長ガドコカニ世話シテ呉レトノコト

▲▼231ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月9日(日)

天気 晴

終日在宅 風アリ涼シクツヒニ汗ヲ知ラズ
朝散髪、晝寢、忠臣蔵ヲ讀ム
來客、兄、青木、宇賀
徳治今夜モ泊ル

▲▼232ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月10日(月)

天気 晴

清平宅ニヨル 十時過ぎ本社着 晝食後畑、板垣同道松戸養生所ニ行ク 山下庶務課長ヨリ居ラナイトノコトニ他日ニシテ工場ニヨリ舎宅ヲ見ル 二年ノ小供ガ九人來テ居タ 昨日無断デ來タ由。津田沼ニ行ク 丁度甲斐氏來テ居タ 畑氏ヨリ自分ガ今後会社ニ届(ママ)マリヤルコトニツタト照(ママ)介シタ 自分黙シテ語ラズ 後チ職員工員ノ辞表ノ取アツカヒニツキ所長次長卷田ヲ加ヘ協議 今更協議デモナイノニ畑ヨリ今後工員ガ之レヲ例ニ辞表ヲ出シタ場合ニコマルカラ一度辞表ヲ返シ出ナイモノハ今後二週間デ切ツテ会社ヨリ退社セシメルニツキ手當等ハ支給セズトノコト 強行意見ヲ出ス 自分ハ自分ノ養成シタモノガ多イカラトテ意見ノ発表ヲ、コトワル。スデニ社長ノ前デ二回追キメタコトヲ今日又ヒルガエシテ、シマウナド此前ノコトト云ヒ実ニ良心ノ有無ヲウタガワレル

▲▼233ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月11日(火)

天気晴

八時工場出 九時戸田出社後帰宅 清平宅ニ行キ午後三時ノニュースヲ聞イテ帰宅ス 昨日清平工政課長、補給課長ニ会ツタ由 工政課長ハマダ心配シテ色々聞イテ居タトノコト

技研ノ大森少佐カラ十一日又ハ十二日來ラレタシトノ手紙アリ清平ト相談 明朝同道スルコトトス

今日ハ会社トグライダー並ニ自分ノ考ヘヲマトメルコトニ努力ス

▲▼234ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月12日(水)

天気晴

七時宅ヲ出清平ニヨリ同道シテ立川技研ニ行ク 十時着 一時半迄待タサレル 大森少佐ニ面会 圖面ガ今月中ニ出來上ルノデヤツテ呉レルカトノコト 会社ノ態勢ガマダ、トノワナイ旨答ヘ迫テ挨拶スルコトトシテ帰ル 三時半航空局着 丁度木下來テ居タ。案ジタ如ク畑今日工政課長ノ處へ津田沼へ松戸分工場設置ノ件ト自分ガヤルコトニナツタ旨挨拶シテ帰ツタトノコト 自分ノ考ハ左ニアラズトテ工政課長ト二人話ス 要ハ當分ヤルコトハ止ムヲ得マイガソレモ工政課長ト木下氏トニおマカセシタイト思テ会见ヲ希望シテ居タ旨述べ大体諒解ナリ松戸完成迄ヤルコト 尚グライダーハ最(ママ)非ヤルコトニ決定。森川航空官ニ會ヒ会社ノ状況ヲ聞カレ合同ト決定ヲ御答ヘス 前田健一ヨリ太田君ニ聞イタトテ親切ナ手紙ヲ速達デヨコシテ呉レタ

▲▼235ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月13日(木)

天気晴

定刻前工場出 八時十分迄待ツタガ男子事務員一名モ出社セズ、尾鷲ノ入庫品調査出來ズ 船橋ニヨリ昨日局デキメタコトヲ話シ上京 十時半頃本社着 丁度社長モ居タノデ畑、今里、板垣ノ前デ昨日局へ行ツタコト 滑空機引續キヤルコトノ報告ヲナシ、尚技研ノ試作ニツキ意見ヲ聞ク。社長、畑、共ニ試作ハ當分ヤラナイコトニ仕様 局ノ文部省型ヲ二十台程度ヤロウトノコトニ少々ガツカリシタ。大ニ積極的ニヤッタ方ガヨイト云フノダガダメ。畑ヨリ伊藤精算ノ上自分ニハ弍千五百円ノ仮出シヲ消シタ上一万円、森川ニ五千円、兄ニ三千円出シタイトノコト。昨日木下ヨリ兄引續キ顧問又ハ囑託トスル件 白洲ヘノ五千円ハ認メナイ方針ナリト ソレモヨカロウ

森川氏社長出タアト來 共ニ出テ話シヲ聞ク。森川氏ハ辨護士ニ依頼シテ手當ヲ請求中トノコト 中々ヤル人ダ 自分等ニハトテモ出來ナイコトダ。組合ニヨリ三時船橋ニヨリ四時出テ野口君ヲ訪ヒ昨日ノ結果ヲ報告シテ帰宅ス
朝前田君ニ返信ヲ出ス

◆▼236ページ◆▼ 昭和17(1942)年8月14日(金)

天気晴

五時過起床 体操小鳥、新聞 六時半頃清平、角來 自分ニ迄ハツキリ止メサセタ証據ヲ作ツタ上Yニ九二カ、リタイト申出タ 清平モ、コレダカラ人ニキラワレルノダ 結果自分ガ手帖ヲ預リ出來テカラ円満退社サセルコトニキメル。島田氏來 材料ノ件タノマレル 今日旅行スル由。上岡ニ會ヒ布施ホシイトノコト 一ヶ月位ナラ手傳セラレルダロウト云ツテ居ク。萱場ニ顧問ノ件又タノマレル

終日工場 引ツグ工員ノ調査ヲナシ高橋ヲ呼び松戸ノ引ツギノ件ニツキ、スグ松戸へ行クモノト誤解ナキ様注意ス

尾鷲ノ中岡氏來タガ齋藤ノ宅迄聞キニヤッタ處一昨日云ヒツケタ調査表ガ出來テ居ナイノデ來週中ニ取調べ返事スル事ニ約束シテ返ス

幕張ノ島田ヘ材料ヤルベク取揃ヘサセテ居イタ處夕方聞ゲハ星野ガ止メテ、ヤラズニ帰ツタトノコト 不都合千万ナ奴ダ

◆▼237ページ◆▼ 昭和17(1942)年8月15日(土)

天気晴

五時半起床 八時工場出 十一時半頃畑、板垣、富岡、野田、野中來場 ○時四十分工員ヲ集合ス 五六十名ヨリ居ラズ 畑、ヨリ松戸分室ヲ作ツタコトヲ述ベル 戸田ヨリ挨拶シ次ギニ自分立ツテ今回ニ変事ニヨル会社ノ犠牲、並ニ自分個人ノ犠牲ニツキ話シ死ヲ途(ママ)トシテ全力ヲ傾倒スベキコトヲ述ヘ皆ニモ協力ヲ要望ス

午前技研大森少佐ニ試作コトワリ状ヲ出ス
午後島君來 四時半頃帰ル
今日高見夫妻兒供、保來ル 自分帰ツタ時二六三十分程前帰ツタ處デアッタ

▲▼238ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月16日(日)

天気 晴

六時起床 九時船橋ニ行キ保田、岡田、勝手ナ作業ニツキ清平ノ名ヲ出シタニツキ聞
キ合セル。工員試験場へ預ケル件川崎氏カラ話シガアッタトノコトデアッタ
正午帰宅 午後ラジオノ演藝ヲ聞ク
夕方兄ト食事ヲ共ニス
首ニナツタ爲メ工場へ出入リモ出來ナイ様ニナツタコトヲ、シキリニ云ツテ居タ 氣持チハ
分ルガ首ニナツタト思フコトガ氣ガ小サイ様ニ思ワレル 清平ノ昨日ノ言葉ト云ヒモツト、
ユッタリシタ氣持チニナツテホシイ
先月廿五日頃池本死ンダトノコト兄ヨリ聞ク

▲▼239ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月17日(月)

天気 晴夕立

定刻出社 出社前角、青木來 試験所へ提出ノ人名表ヲ見ル 十一名アリ青木、清平
今日持参

朝礼後私物ノ製作ヲ禁ズルコト 将碁ハ工場内デ禁ズルコト 新ラシイ氣持チデ善処ス
ルコトヲ述べル

十一時板垣、富岡、阿部、工作ト現場係ノ二人ヲ連レテ來ル 松戸工員ニ照(ママ)介
シ板垣ヨリ挨拶ヲナス 中々要領ヲ得テウマカッタ

十二時五十分皆ト同乗シテ上京 浅草松屋裏ニテ下車 一時五十分傳防院着 丁度
導士ガ着坐サレタ處デアッタ。御経ノ終ツタ頃カラタ立トナリ三時半説経後四時半
迄待チ小降りニナツテ帰ル
七時二十分帰宅

▲▼240ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月18日(火)

天気 雨

終日雨 八時工場出 九時戸田氏出 津田沼工場工賃改正ニツキ意見ヲ述ベ調査ヲ
命ズ 十時ヨリ清平ニ行キ兄ト同道組合ニ行ク 福知氏休ミ

中岡ノ追注文ヲ調査ス。後チ兄ト一色ニ行キ模型材料ヲ注文シ分レテ新事ム所ニ行ク
飛行館ノスグ裏トナリデアッタ。マダ雜然トシテ居タ。間モナク板垣本社ヨリ來 四時
過ギ追居リ帰ル 速カニチツジヨリ付ケル必要アリ 帰リニ三十分程清平ニヨル 角新
会社ノ購入工具表ヲ作ツテ居タ 建設予算書ト収支予算書案ヲ見ル

▲▼241ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月19日(水)

天気 曇リ

昨夜一昨夜ツ、ケテ夜小便ヲシクジル 前週ハ夜ル小便ニ一回モ起キナカッタ位デ大變
ヨカッタノニ變ダ

朝礼ニ参加後栗林、角來社 十時過ギ鈴木營業來 角ヨリ引ツキヲナサシム
正午帰宅 晝食後上京 局村上氏ニ會ヒ懸(ママ)庁ト交渉ノ結果ヲ聞ク 村上氏モヘ
ラシテヤルコト 三角ノ處ダケ農地統制價格令ニヨツテ出スコトトノコトデアッタ。工政
課長ニ會フ 関口、北浦課長二人ガ居テ金具問題、價格問題ニツキ私見ヲ述ベテ二時
四十分本社ノ社長次長會議ニ列ス 五時半終ル 工員金融問題夏冬勤務時間問題等

▲▼242ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月20日(木)

天気 晴

秋冷ヲ覺エル 天氣好シ

定刻前工場出 十時頃追居ル 星野ヨリ職員ハ七月末ヲ以テ処置スルコトニナッタ旨報
告アリ 中ニ青木ノ件相談アリタルモ会社トシテノ方針ニ任カセル旨述ベル 結局普通
ニ取扱フコトトナル

組合ニヨル 福知氏出テ居ラズ大藪不在 今夜宅へ來ル様コトツケテ事務所出 六七月
分傳票ニ判ヲ押ス。木部繁君來 川辺君來 高見氏ニ四十五円貸シタガ返シテ呉レナ
イトノコトニ立替ル旨述ベル。四時半帰ル 後チ課長係長次長ヲ集メ滑空機ノ歴史ヨリ
組合ト今後ノ見通シニツキ話ス 六時半帰途ニツク 七時半帰宅 大藪來テ居タ 福知
氏ノ代理ヲスル様話ス

▲▼243ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月21日(金)

天気 晴

朝五時二十分起床洗面 御燈明ヲ上ゲニュースヲ聞ク 終ッテお経ヲ上ゲ体操ヲシ朝
食 定刻工場出

鈴木菊雄來 木工十名バカリ出來ルトノコトニ主翼作業ヲヤルコトヲ撰メル

正午晝食ニ歸リ上京 組合ニヨル 福知氏今日モマダ來ラズ 事ム所ニ出五時居ル 雜

用多ク相當ツカレル

▲▼244ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月22日(土)

天気 晴

定刻出社 颯風ニ対スル注意ヲ與ヘル
工員職員中松戸へ引継イダモノノ略歴表ヲ作製 津田沼工場ノモノモ其通り作ル様
星野ニ話ス 小島航空専務 野氏來 晝食後上京 車中秋葉原迄同行ス。金ノコトデ
アツタカラ火曜日事務所へ來ル様話ス

組合ニテ福知氏ニ會フ 理事長問題ニテ大坂へ行ツテ來タトノコト 同氏ノ考へハ遮ニ無
ニ議論ナク止メテ局ノ希望通りニシタイ考ヘラシイ 他ニ値上問題ニツキ話ス 対器材
問題ニツキ心配シテ呉レテ居タノデ木下力課長ニ自分ノ身柄ニツイテハ局ト相談ナシデ
ハ何事モシナイ様ニト云フコトダケ話シテ貰フコトトス 木下氏ニハムシロ金ノコトハ云ワナ
イ様ニシテ貰フコト

藤原ヨリ青木仙ノ助嫁取りノコト話シアリ 昨日結納ヲ納メタトノコト 九月ニ式ヲ上
ゲタイノデ自分ニ、ナカダチヲシタイトノコトデアツタ。

事ム所ニ行キ下請出張ノ件其他ヲキメ四時半出テ航空時代ニヨツタガ、シマツテ居タノ
デスク帰ル

夜徳治九時半頃帰宅ス

▲▼245ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月23日(日)

天気 晴

五時起床 定刻出社 尾鷲ノ中岡へ手紙ヲ書キ木村ニタノミ九時船橋ニヨリ十時上京
局ニ行キ工政課長ニ會ヒ器材ニ対シ自分ノコト金ノコトハ云ワナイコト 身分ニツイテハ
局ニ相談ナク取扱ハナイコトヲ云ツテ貰フコトニキメル 値上ゲ問題、会社ノ名議(ママ)
変更届出等ニツキ話シ駒林氏ニ會ヒ今日迄ノ経過ト心持チヲ話ス。正午組合ニヨリ一
時飯国氏ト丸ノ内ホテルニ會フ 三井ノ件、修理作業ノ件聞カレルマ、ニ話シ二時十分
本社行キ 三時半ヨリ會議 建設委員復活ノコト 出張手當ノコト等協議 六時散会
七時半帰ル カヤクメシ久シ振りデウマカッタ

本記事ハ廿四日分ナリ

▲▼246ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月24日(月)

天気 晴

五時半起床 千葉へ行くべく九時頃工場出 三代川休ミニツキ中止シテ帰宅 終日眠ツタリ、サメテハ夢殿ヲ讀ム

夜今年ノヒヨコ三匹ベタ内朝船橋ト下へ半分ヤリアト徳治ヲ加へ皆デ会食ス 幸ヒ今日酒ノ配給アリ 徳治一人デ三本ノム。少シモヨワナイラシイ

▲▼247ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月25日(火)

天気 晴

今日ハ大分暑カッタ 朝礼後鹿兒島ノ川畑氏ニ返信ヲ書ク 午前十一時船橋ニ行キ兄ニ會ヒ上京 事務所行キ 四時半帰途ニツク 事ム所ニテ有野來 協力工場トテノ打合せ 板垣、鈴木営業係リト打合ス アト十機発注スルコトトス

川辺君來 高見氏ガ借リタ金四十五円也川辺君へ渡ス 近日大坂へ帰ル由

清平今日ハ終日宅デ新会社ノ創立計画ヲヤッタ由。廻間本日辞表提出シタル由 夜挨拶ニ來ル

▲▼248ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月26日(水)

天気 晴暑シ

定刻出社 八時ヨリ船橋ニ行キ九時廿四分ニテ上京 兄ト十時半本社ニツク ヤ、待ツテ板垣、青木、長田來 兄ヨリ土地ニツキ聞カレルマニヨク説明シ約一時間ニテ終ル。

出テ東日会館デ晝食ヲナシ久シ振リデニュース映画ヲ見ル 冷房アリ、スビシカッタ 二時終テ組合ニ行キ更ニ局ニ行ク 名議(マ)引継キノ件石島ト話シ合ヒ三時組合ニ歸ル 生田、美津濃、本庄、來 理事長問題、局ノ命令ヲ待ツカ、或ハ此際値上ゲ問題ヲ土産ニ交渉シテ貰フコトトナル。五時終ル 五時半丸ノ内ホテルニ飯国氏ニ會フ 昨日例ノ会社ニ會ツタ由 今後連絡シテ善処シタシトノコト 同意ス。清平組合へ來 飯国ヨリノ申込ミニヨリ今夜浜寺ノ工場長尾ガ見ニ行クコトニナツタ由 清平上原氏會見

▲▼249ページ▲▼ 昭和17(1942)年8月27日(木)

天気 晴

終日工場 朝清平來 布施以下ニ渡ス金四百五十円小切手ニテ預ル 八時頃出社 滑空機今月來月ノ生産予定表ヲ作製ス 小島へ発送品命ズ

海藤ヨリ佐藤氏外一名検査ニ來場

五時帰宅

青仙來 工場ノ青年學校ノグライダー部員ガ自分ノ退院祝遅クナツタガト眞柏ノ盆栽一鉢持ツテ來テ呉レタ

◆▼250ページ◆▼ 昭和17(1942)年8月28日(金)

天気 晴ニワカ雨

五時起床 颯風警報アリ 福岡ニ大分被害アリタル由。定刻出社 八時半出 廻間ニ会ヒ清平ニ同道ス 九時十分迄待ツ 青仙來ラズ 廻間ニ三十円手金ヲ渡シ頼シテ事務所へ行ク 三時迄居リ出デニ越ニヨリ本ト小鳥ノエヲ買ヒ組合ニヨリ、プライマリー前部胴体ノ木材注文ヲ依頼シテ帰ル ドウモ頭ガ変ダ 宅近ク野道ニ來テ漸ク氣持チヨクナル

◆▼251ページ◆▼ 昭和17(1942)年8月29日(土)

天気 晴

定刻出社 朝礼ト共ニ朝礼ニツイテノ注意ヲ與ヘル 長本胃ケイレンニテ五日程休ムトノコト 菊池妻君へ国元へ送り且ツ母ノ病氣見舞ヲスル爲メ九月五日迄休ミタイトノコト 其間藤本ニ臨時代理ヲ命ズ 参吉、広瀬ノ八月分給料津田沼デ立替支拂ヒサセルコトトス

正午事ム所ニ行キ工作課長ニ長本菊助休ムコト、日報、木具材料ノコト等ヲ話シ丹下ヲ連レテ小島へ行ク 途中電車デ榊原氏ニ會フ 値上ゲ問題補助金案ヲ考慮シテ居ルトノコトデアッタ 組合側ノ希望モ話シテ居ク 小島ニ四時前迄居リ打合セヲ終リ丹下事ム所へ 自分ハズツト帰宅 清平ニヨツタガ兄モ清平モ上京不在

◆▼252ページ◆▼ 昭和17(1942)年8月30日(日)

天気 曇後雨

朝三代川ヲ呼ビニヤリ八時半工場ニ行キ神崎へ一日十一時行ク旨打電ス 二三藤本ヨリ材料ノ出シ方ニツイテ不平ヲ聞ク 検見川ノ営團ノ家見ニ行ク マダ容易デハ、ナサソウダ。布施サンニ行キ八十七円余支拂ヒ血液検査ヲ依頼ス 安岡ノ家内病氣見テ貰フコトヲタノム

千葉ノ小鳥屋ヘインコウ一匹ニゲラレタノデ残リノ一匹ヲ返シ湖錦鳥雄一匹 綿花鳥番ト巢箱ヲ求メ差引二十五円五十銭ヲ支拂フ ボタンインコウ八十円デ引取ツタ。藤枝へ釘三百円渡シラツカータノマレテ帰ル 工場ニヨル 野中、町田両氏來テ居タ

◆▼253ページ◆▼ 昭和17(1942)年8月31日(月)

天気 雨後晴

八時工場出 九時ヨリ松戸工場二行ク 十時十五分前着 間モナク板垣外課長二名
安立鈴木來 養成所ニ行キ所長課長會計等ニソレ、挨拶ニ連レテ行ク 十二時終ツテ
工場ニ帰り工場建設ニツキ意見ノ交換ヲナシ十二時四十分迎ヘノ自動車ニテ松戸ヨリ
事ム所ニ帰ル 畑氏來 社長ノ意見トシテ土地問題ニツキ現在購入シアル所ダケヲ先
ツ利用シテ建築シテハ如何トノ事デアッタ 明日差支アリ明後日午前中本社ニテ協議
シタシトノコトデアッタ 五時ヨリ帰途船橋ニヨリ兄ニ今月ヨリ五十円ヅ、小使ヲ渡スコ
トトス 辞退シタガ渡ス 明日神崎へ同道ヲ約ス

◆◆255ページ◆◆ 昭和17(1942)年9月1日(火)

天気 晴

五時半起床 八時前出社 事ム所へ電話シ富岡ニ今度ノ出張者板金ノ者仕事ヲシナイ
ノミカ作業中バクチャヤルトノコトニ其旨ツタエル。スグ來ルトノコト 尚足立工場へ電話
ヲ命ジ木材ヨコサナツタ連絡ヲ取ラセル

八時過ギ船橋宅ニ行キ兄ト神崎ニ行ク 先ヅ神社ニ参拜 神主晝食ニ行ツテ不在 下
男ヲシイモノニ御神饌料ヲ托シ工場ニ行キ今井氏ニ会フ 材料不合格品ノ代品來ナイ
爲メ作業中止シテ居ルトノコト 工員ハ四名ハ出來ル 女ハイクラモアルトノコト ソレダ
ケ聞イテ一時十二分ノ汽車デ帰途ニツク 今井氏甘食、パンヲ沢山持ツテ駅迄來テ呉レ
タ 成田山ニ参拜シ四時過ギ帰宅ス

布施ヲ井上病院へ見ニヤツタガ病名マダ分ラヌ由 チブスカモ知レヌトハ長島ノ話シデア
ツタ

◆◆256ページ◆◆ 昭和17(1942)年9月2日(水)

天気 晴

八時半丁度本社着 畑氏一人 誰レモ居ラズ 九時十分電話アリ 板垣來 十時頃社
長、今里、矢野來 ソレカラ松戸ノ土地問題ト建設問題ニ入ル 社ハ拙速主義デヤレト
云フ 板垣畑ハ根本ハ變ヘタクナイトノコトデアッタ 自分ハ社長ノ心配スル買収ガソレ程
困難デナク、要ハ努力ガ足りナイノト金ノ支拂ヒニ先方ニ不安ガアルカラ役場へ供託ス
ルコト、努力ニツイテハ兄ノ例ヲ引キ時タマ自動車デ乗り付ケルナド反ツテ土地ノモノノ
反感ヲ買フ恐レアルコトヲ主張ス 社長共鳴シ今里モ金ヲ積ムコト交渉員ニ土地ノ議員
ナドヲタノムコトトナリ自分行クコトト決ス

十二時丁度上原中将訪問 清平ヨリ話シタ件ニツキ自分ノ意見ヲノベル 即チ若イモ
ノノ爲メニ一肌又ク、ツモリノ處へ今度ノ会社問題ガ出テ若イモノガ入社スルコトニナッ
タニヨリ若イモノハ最(ママ)非出馬シテ呉レト云フガ自分ハ今常務デ居ルノデ積極的ニハ
出ラレナイガ自分ノ経歴ガ御約(ママ)ニ立ツナラ会社ノ希望ニヨツテモ月ニ数回出ル位

ノコトナラヤル 尚今日ノ滑空界ノ状況ヲ話シ統合論ヲ述ベテ帰ル
事務所ニテ五時過ぎ迄居ル 日航ノ課長招待ニ出席シテ呉レトノコトデアッタガコトワ
ツテ帰ル。安岡ニヨル 熱ガ下テ來タトノコト 病名ナホ不明ノヨシ トナリヘ世話ニナツ
タ札ヲノベ尚ヨクタノンデ帰ル

◆▼257ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月3日(木)

天気 晴

定刻出社 午前中雑用 正午晝食ニ帰り一時出社 二時幕張ヘ行ク 同駅ニテ丹下ト
同道ス製作予定数量、拡張計画等ヲ聞き取引方法等モアラカジメ小島ノ例ニヨリ話ス
習志野製菓会社ヘ廻リ養成工ノ大福ヲ受取り工場ヘ送ル 自分帰宅 四時
工場ヨリ手紙ニテ明日興業銀行ヨリ工場ヲ見ニ行クカラ津田沼ニ居テ呉レトノ傳言ア
リ

◆▼258ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月4日(金)

天気 曇冷シ

定刻出社 野口菊治ニ三角ノ土地借用方手紙書ク 九時ヨリ高木村役場ニ行キ村長、
石川両氏ニ會ヒ結局石川氏土地問題ヤツテ呉レトノコトニ明日午後五時長田氏等ト
共ニ今後ノ方針ヲ決定スベク松戸駅前ノ旗亭デ会フコトヲ約ス。中央養成所ニ山下庶
務課長ト會見 飛行機引入道問題佐藤閣下ト諒解済ノ件ニツキ想(マ)談ス 山下氏
何ニモ聞イテ居ラレナカッタノデ書類ト云フ程ノコトデナク手紙ノ形式デモヨイカラ右
ノ旨提出スルコトニ約ス。帰ツテ晝食後工場出 受注作業表ヲ作製ス 興銀ヨリ三名畑
野田両氏同道來場 工場ヲ見受注状況ヲ聞キ五時過ぎ帰ル
帰宅 入浴 観音経

◆▼259ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月5日(土)

天気 雨後曇リ

八時事務所出 板垣本社ニ居ル 電話デ連絡 同人ハ興銀ト松戸ヘ出張。福岡ヘ自分ニ
出張シテ呉レルカトノコトデアッタガ九日二局ノ会議ガアルノデ、富岡ヲヤルコトトス。
十時頃本社ニ行ク 社長一人居リ雑談 森川氏辨護士ヲ以テ株券ノ代要求シテ來タ
トノコトデアッタ。矢野氏ニ松戸ノ土地問題取引上ニツキ法律的ノ見地ヨリ意見ヲ聞
ク。星野來 正午晝食ヲ共ニ事務所ニ帰り中央養成所ヘ機体搬入路設置方願書作ル。
磯部氏來 特許飛行機ノ件一寸ヤル氣ニナレナイ 三時半組合ニ行ク シンナーノ件
木材ノ件聞キ合ス 釘本日送ツタ由 カゼイン十罐ハ内五罐ヲ横井ヘ 五罐ハ組合ニアル

由 内一鐘小島へ送ル様依頼ス 金物材資ノ方ハ結局今迄通りデヨイコトニナツタ由
人サワガセナトヲスルモノダ

五時松戸松葉館ニ行ク。長田、青木同道。高木村長石川氏福井氏來 石川氏ヲ囑託
トシテ五千円ツ、出スコト 買収ノ方針等諸般ノ打合セヲナス 九時半帰宅

▲▼260ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月6日(日)

天気 晴曇リ

六時起床 散髪後九時朝食後小鳥ノ手入レ

午後山縣以來ノ卒業生名簿ヲ作ル

太田善藏來 福岡ニ於ケル状況ヲ聞ク 工員数名ホシイトノコトデアッタノデ清平ト
相談スル様話ス

夕方ヨリ夜ニカケ自分ノ略歴ト業績ヲ書ク。昨日本社へ九月二十日ニ航空局デ表賞ス
ル爲メ業績ヲ知ラセトノコトデアッタノデ作ル

▲▼261ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月7日(月)

天気 晴

五時起床 定刻出社 拾時ヨリ上京 事ム所へ十一時過ぎ着 次長、青木、鈴木皆居

ラズ、木村新ガ居タノデ次長へ事傳ヲ依頼ス 即チ滑空機ノ青写真焼クコト 明日ノ

滑空機生産會議ノ件、コンパス購入ノ件 長田氏明日高木村々長訪問 住宅ノ件相談
スル由 足立ニ広瀬利吉ニ関スル件話ス

一時出テすしニテ晝食ヲスマセ一時四十分傳報院着 讀經後觀音經講話ヲ待ツタガ
今日ノ戦時下ニ対スル心持ダケデ塩入師ニ急用出來中止トナル 三時頃散会シタノデ
公園ニ行キニュースヲ見テ六時頃頃(ママ)帰宅ス。家内ハヨシト今年初ノ夜燈シニ行ク

▲▼262ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月8日(火)

天気 晴

五時起床 定刻出社 詔書奉讀後国会体制ニ順應スベキコト感謝生活ヲナスベキコトヲ
述ベル

十時過ぎ丹下外一名來 二時頃迄長元菊池ヲ添へ滑空機生産會議ヲ開催 成案ヲ得
尚會議ノ初メニ當リ滑空機ノ事情ニツキ話シヲナス

海軍検査官來

石黒辞表提出シタトノコト 夕方大石辞メタイト申出タ。シカシ之レハ俸給値上ゲノ要
給カラ出テ居ル爲メデアッタ

家内ヨシ今日モ夜トボシニ行ク
根本一男ハルビンヨリ來信 返書ヲ送ル

◆▼263ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月9日(水)

天気 晴

今日ハ大分暑カッタ

十時ヨリ局會議室ニテ組合總會ヲ開ク 主トシテ計畫生産ガ不良ナル状態ニアルノデ
之レガ原因ヲ研究シ將來ニソナエントスルモノデアアル。三時過ギ終ツテ前工政課長守屋
氏ヨリ駒鳥製作ニツキ製作希望ノモノハ工政課へ申出テ貰ヒタイトノ話シアリ 之レニ
対シ大分議論ガ出タ 五時十五分終了

飯国氏ト錦町河岸迄歩ク 大分浜寺ノ工場ヲ持テ余シテ居ルラシイ口振りデアッタ
朝オートミルニ牛乳ヲノンダ爲メガ終日腹ガハリ瓦斯ガ出テタ方カラツヒニ下痢ヲシタ
痛ミハナカッタ

◆▼264ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月10日(木)

天気 晴

今日モ暑カッタ 八時工場出 試験場関係命ジ上京 十時事ム所着 板垣ヨリ工員日
帯ヨリ來タ五十名ヲ長洲氏ノ南方航空陸軍ノ口入レデ五十名ヤルコトニ決シタトノコ
ト。急デアッタラシイ 十一時頃畑、板垣、青木先方へ人名表持ッテ行ク 後チ富岡、
足立ヨリ此問題ニツキ、初メ入レタ時ノコトナドヨリ意見ガアッタ 晝食ヲ中央亭デ共
ニシ運動手當旅費ニ關スル富岡ノ意見アリ 一時半ヨリ組合役員会ニ出席 他ニ問題
千三百五十円目標ニ進ムコト 十四日原價標ヲ持參スルコトトナル。板垣初メテ連レテ
行キ照(ママ)介ス。板垣ニ富岡ノ旅費ノ件、メモニ書イテ渡ス
スグ帰宅 四時過ギデアッタノデ割ニ楽ニ帰レタ。市川下車 奈良原氏訪問 二日カラ
胃カタルトジンゾウトカデ苦ンダトノコトデアッタ

◆▼265ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月11日(金)

天気 晴

五時半起床 定刻出社 村山、高橋ニ工員募集ノ件ヲ聞ク ドチラモマダ積極的ニ運
イテ居ナイ。タヨリナイ奴等ダ。戸田所長ニ工員職員中十数名田中計器へ履歴書ヲ出
シテ居ル旨注意ス

十時千葉工命名式ニ行ク 來賓ハ縣ノ体育主事千葉中学校長以外ニ自分一人デ氣ノ毒
ナ位デアッタ 南風強ク心配シタガ無事終了ス 最後ノ仁三郎ノ飛行ガ、ヒイキ目デ

ナク一番ヨカッタノデ安心シタ 操縦士ニシテヤツテモヨイトモ思ツタ
組合ニヨリ木材急グコト ボールト小島へ送ルコト等 清和ノ社長ニ会ヒ模型用ラッカー
諒解ヲ得 値上ゲ問題ニツキ十四日迄三清和トシテノ希望提出方ヲ命ズ
一時半事ム所ニ行キ五時出ル 雑用中々多シ
局長官ヨリ廿日通信大臣ヨリ表敬スル旨通知アリタリ

◆▼266ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月12日(土)

天気 晴

朝新聞ヲ見テ居ルト中央養成所デ告別式ガアルトノ事 田村外一名ノ殉職デアッタ
上京 九時本社着 退職者手當ノ件野口君ニ話ス 佐藤廻間ノ仮拂ヒガ清算ガツカナ
イノデ今日野口君ヲ津田沼ニ派遣 決定ノ上支拂フトノコト専務ヨリ話シアリ 社長
同席ス
スグ松戸ニ行ク 丁度讀経ノ初マッタ處デアッタ 観音経ヲ上ゲテ居タ 告別式ニ観音
経、少シ変ニ思ワレタ
十二時事務所ニ帰り協会ニ立寄り二時過ぎ出テ組合ニヨリ兄ニ會フ 共二四時半帰宅
ス。兄買物が大分アッタ

◆▼267ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月13日(日)

天気 晴

六時起床 観音経朝夕二回
九時頃工場出 二三用件ヲ済マセル 小樽ノ人來 木材ニツキ想(マ)談ス。幕張ノ島
田氏來。駒鳥製作ノ件、船橋中學修理ノ件、岐阜縣行キノ件ナド話シ清平ト三人工
場ニテ晝食後帰宅。午後初級機値上ゲ明日ノ總會ニ対スル準備ヲナス
夕方清平帰ル 千万円ハ資材的ニ難色アリ 小資本ニ対スル様ナ口振りアリ。成ベク千
万円デ通ス様話ス
夜徳治帰ル

◆▼268ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月14日(月)

天気 晴

定刻出社 局提出書類ノ準備 今日ノ總會ノ準備ヲナシ十時帰宅 徳治ト共ニ上京
自分事務所ニ直行 次長ハ専務ト千葉縣庁へ行ツタトノコト 四時ヨリ南方行キノ工具
ニ専務ヨリ挨拶ヲナス筈
一時協会ニ行キ遺族代表ノ件妻カ小供ニ代理サセルコトニキメ組合總會ニ行ク 一時

半美津濃氏ト二人デアッタ 二時河合、山本等來 小型六二時半、生田八三時半頃來
福知氏ノ委(ママ)頼ニヨリ自分ヨリ説明ヲナシ東洋ト福田ノ原案ニツキ研究 自分ノ意
見ヲ述べ自分ノ案現在及近キ將來ニ関スルモノニツキ述べ結局千三百円以上ガ適性價
格ナルコトヲ決定 五時半散会

◆▼269ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月15日(火)

天気 雨

八時出社 石井來ルト云フノデ待ツタガ來ラズ出社ス 晝迄退職社(ママ)ノ調査ヲ行
フ

朝東君ニ電話シ退職手當渡シテ貰フコトニシ太田ヲ呼ビ貰ヒニヤル 佐藤家内モ行ツタ
由 太田千余円 佐藤仮拂四五百円引イタ由 五百余円トノコト 青木分戸田氏ヨ
リ渡ストテ呉レナカッタ由。ケシカランヤツダ

午後三時船橋太神宮ニ行 同停留所デ花ムコハマダ作業服姿デウロツイテ居タ 四時
半頃漸クソロウ 夫人側カラハ父母ト兄夫妻、青木側ニハ奈良原氏一人 外ニ清平廻間
ダケ 自分ト藤原ガ仲介者席ニツキ無事終了 式後スシデ神社カラ一升出タ酒デハ
時頃終了 帰宅シタラ朝日新聞記者不在中ニ來 除(ママ)勲サレルコトニナツタトテ写
眞ヲ取りニ來タ由 ドウモ、ホントウニ出來ナイ表彰ヲ間違ヘテ居ルノデハナイカト思ワ
レル

◆▼270ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月16日(水)

天気 晴

秋冷サワヤカナ日デアッタ 定刻出社 検査ノコト新庄機発送ノコトナド打合せ九時
半出 清平宅ニヨル 之レヨリ前太田ヲ呼ビ川畑氏ノ件話シ手帖ヲ渡ス 十一時組合
着 木材十台分発送方命シ適性價格組合要求額ヲ作製シ一時半終ル 福知氏ニ渡シ
事ム所ニ行ク 北浦氏ヨリ電話アリ 若松商業へ一機廻スコト 理事長問題早急ニ進メ
ル様努力サレタシトノコトデアッタ

三時ヨリ津田沼星野次長牧田課長來 工員ノ給料問題審議 結局加給金津田沼増
額ハ決定 運用ニツイテハ尚調査 両者平行セシムルコトトス
夕方讀賣來 古イ話ヲサセラル。朝日夕刊ニハ表彰ノ件出テ居タ 自分ノ写真ト昔シ
ノ苦心談デアッタ

六時ヨリ川畑氏ト会见 山水楼ニテ馳走ニナル 太田ノ話シヲナシ最(ママ)非自分ノ方
へ來テ貰ヒタイトノコトデアッタ。明日返事スルコトトス

◆▼271ページ◆▼ 昭和17(1942)年9月17日(木)

天気 晴後雨

朝太田ヲ呼ビ川畑氏ニ会フトノコト。鈴木祝詞ニ來ル。島田氏來 今日午後一時半ノ櫻デ岐阜縣萩原へ行ク 急行券モ買ツテ居イタトノコトニ明後日ノ重役会ニ間ニ合フベク帰ル予定デ行クコトトス。清平ニヨリ右話シテ上京 事ム所ニ行ク 次長ハ畑氏、青木ト千葉縣庁へ行ツタトノコト 丹下ニグライダー検査ノコト、自分出張ノコトヲ依頼シテ本社ニ行キ二百円假出シテ、東日ニヨリ久シ振りデ羽太氏ニ會フ 小原氏ニ會ヒ白戸ニ頼マレタ指定工場加入ノ件相談 販賣部ノ人ニ照(ママ)介サレAIGノ見本提出スルコトニナリ諒解ヲ得 東京駅ニ行キ切符ヲ買ヒ庄司デ晝食 櫻ニ乗ル。島田、同友人重田氏同行ス。車中浅草寺ノ塩入先生ニ會フ 二時間以上話シグライダーノコトヲ述ベ觀音様ノコトヲ聞ク 車中山口縣へ帰ル山本君ニ會ヒ経営上ニツキ参考ニナルコトヲ話ス 七時半岐阜着 長良ホテルニ入り、八時ノ時間間キワニ食事ニ間ニ合フ 中々立派ナ旅館デアッタ

▲▼272ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月18日(金)

天気 曇雨

五時半起床 窓外ニ長良川ヲヘダテテ稲葉山ノスイランヲ望ム 洗顔シテ川岸ニ出觀音經ヲ讀誦シ写真ヲ二三枚取り石ヲヒロウ
信長ノ墓ニ參リ九時二十五分ニテ出發 十一時萩原着 晝食後駅前ノ自動車屋快男子ニ村氏ト会见後役場ニ行キ工場ヲ見ル 少シ古イ建物デアッタガ先ヅヨカッタ。再ビ役場ニ帰ル 町長上京不在 助役町會議員、農林校々長等約十名位ト会见 一番必要ナル木材ハ小坂宮林署長ガ町へ差當リ月百五十石乃至二百石ヲ出スカラ早く着手セヨトノコトデアッタト アトハ実績ニヨリ出ス由 人ノ方モ相當居ルトノコトデアッタ。敷地ハ無償デアラス 建物設備ハ此際買取ツテ呉レトノコトデアッタ。ニ村氏ト下呂ニ引上ゲタ食ヲ共ニス 回答ハ成可ク早クスルコトニス。七時五十分ニテ自分ダケ先キニ帰ル 十一時六分發ニ乗ツタガ満員デ名古屋デ次ギノニ乗替ル。ヤハリニ等満員ニテ三等デ帰ル

▲▼273ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月19日(土)

天気 雨

八時半新橋下車 事務所ニ行ク 大部分出社シテ居タ 青木ヨリ縣庁ノ件ヲ聞キ局提出書類マダ出サナイトノコトニ本社へ判ヲ貰ヒニ行ク用命ズ 丹下ヨリ試験場、ト人ノ問題報告ヲ聞ク 小島ヨリ人來 材料渡シテ山形商業間ニ合セテ貰フコトトス 富岡ト工員ノコトニツキ話シヲ聞キ坐談会ノ件打合せ、本社ニ行ク 十時丁度ヨリ重役会。総会ノ決定事項ノ其行ノ進行状態ニツキ報告アリ 同書類ニ記名捺印ス 自分ダケ印持

タナカツタノデ明後日トス 萩原出張ノ経過ヲ報告ス。畑氏ヨリ自分ニ一万二千元
同社長ヨリ八千元、兄三三千元、森川氏ニ四千八百円大蔵省ノ認可ヲ経テ出スコト
ナツタトノコト 組合ニ行キ藤原、志村ト晝食ヲ共ニス 巴ノ山本君ト横井金融ノ件注
意ヲ與ヘテ居ク

四時帰宅ス 船橋ヨリ社ノ自動車ヲ呼ブ 星野氏來 土地ノモノヲ廿八日ニ照(ママ)待
スルコトニナツタノデ、ダレ、ノヲ呼ブベキカト想(ママ)談デアッタ 五良平デ聞キ合セ回
答ス

夜風雨ハゲシ 散髪ニ行ク

▲▼274ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月20日(日)

天気 雨後晴

恵美子代理サセル筈ガ船橋デ借リタ着物ヲヌラスト困ルノデ仁三郎ヲヤルコトニシタ
徳治ト二人デ行ク 自分通信省ニ行ク 航空局カラハ長官ト三部長、中華新井氏 大
日本航空片岡氏 協会東氏等参列 飛行士ハ新野外四名 朝日ハ美土路氏ガ來テ居
タ 一人々寺島通信大臣カラ渡サレ後チ茶菓ガ出テ少時会谈 其話シモ出ル 記念撮
影ガアツテ、スグ市政会館ニ行ク 此頃ヨリ晴レ初メタノデ仁三郎學校ヘヤリ慰靈祭ニハ
自分民間側代表トシテ玉串奉奏ス 終ツテ徳治ト松本楼デ晝食後東日会館デ映画ヲ
見テ帰ル 車中渡辺宏ニ會フ 四日前ニ帰ツテ居タトノコト 二度モ出テニ回共無事ニ
帰ツタ運ノヨイ男
船橋ニヨリ貰ツタ折ト酒 供物ノモチ一個ヲ置イテ帰ル。大分ツカレタガ工場ヘ行キ航
空神社ト山縣ニ参拝ス
自分ノ帰ル一寸前畑氏 ■■(嬉(ママ))ビニ來テ呉レタ。夜皆デ観音経ヲ上げ一家団欒
シテ夕食ヲ取ル 愉快デアッタ

▲▼275ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月21日(月)

天気 晴雨

定刻少シ遅レ出社 二三用ヲスマセ十時過ギヨリ中央養成所ニ行 山下課長不在ニツ
キ佐藤課長ニ飛行機運搬路設置ノ件願書ヲ提出シテ工場ニヨル
時間ナク晝食後墓参シ昨日ノ光栄ヲ報告シテ本社ニ行キ、タコツボニ育タ稲ヲ社長ニ
贈ル 東君ニ預ケル 一昨日ノ書類ニ捺印シテ、組合ニ行キ中級機ノ算定ヲナシ福知氏
ニ渡シ秋葉原駅ニ行ク 打合セタノニ家内居ラズ。観音様ヘ行ク 二時十分丁度初ツタ
處デアッタ 御経ガ終ツタラ先キニ家内來テ居タ。共ニ星野先生ノ観音ト地藏菩薩ノ
話ヲ聞キ六時帰宅 入浴 夕食

▲▼276ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月22日(火)

天気 雨

定刻前出社 佐渡島主人へ返書ヲ書キ九時ヨリ舟崎ニ行ク 兄行カナイカラトノコトニ判ヲ預カルコトトス 自分ガ会社ニ残ツテ居ルコトガ不満ラシイ親(ママ)子ノ口振りデアツタガ、ソシナ風ニ考ヘルコトモ止ムヲ得マイ 長尾京都へ帰ツテ居ル由 会社ノ成行キモアヤシイラシイノデ最(ママ)非完成セシムル必要アリ

十一時本社着 社長、畑氏ヨリ会社分慰勞金一万二千元、別ニ社ヨリ寸志トシテ八千円貰フ 兄ノ分三千円モ受取ル。木下耶麻次モ丁度來テ居タ

自分ノ表彰ヲ機会ニ航空関係者ヲ招待スルコトトシタトノコト 折角利用スルコトダ。午後社長ト松戸検事局へ行ク 乙竹モ來テ居タ。結果ハ大變ヨカッタ 多分不起訴トナルラシイ。四時半帰り飛行館ニ行ク 八時頃散会ス 畑、今里モ出席ス 松戸職員ノ坐談会ニ初メデアリ自分ノ表彰モアリ自分カラ今日ノ分ハ招待シタコトトス 九時過ギ帰宅

▲▼277ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月23日(水)

天気 曇後晴

午後ヨリ次第ニ晴レ上天氣トナリ待宵ノ明月晴レ

朝鈴木菊雄工場建設後ノ仕事ノ単價ニツキ來ル 工場出 八時過ギル 二三用件後野口氏宅ニ行ク 不在 妻君二千円入封筒ヲ預ケテ船橋ニ行ク 清平上京セリト兄ニ昨日ノ預ツタ小切手ヲ渡シ自分ヨリ三百円祝金ヲ補ツテ二千円ニス 鈴木館立替ノ二百二十円、模型店拂込ミノ五百円ヲ兄ニ手渡ス 久次郎ニ嫁ノコトデ手紙出シテ呉レトノコトデアッタ。正午事務所着 高岡ヨリ來タ書類ヲ見不備ノ點丹下ニ手紙出サセル

一時半出テ銀行 三和日比谷支店ニテ昨日ノ小切手ヲ現金ニ換ヘ日特ニ行キ林氏ニ五千円返シ別ニ五百円利子トシテ渡ス 直接社長ニ渡シテ呉レトノコトデアッタガ過日畑専務カラ利子年五分五ノ割デ差引クトノ話シモアッタノデ兎ニ角ク預ケル

三時ヨリ所長次長会議 大シタコトナク産報組織ノ下書ガ出來タトノコト位デアッタ 日野原毎会出席セズ一寸問題トナル九月廿三日 三保ニテ九月廿三日 三保にて

▲▼278ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月24日(木)

天気 曇後晴

ニュースヲ聞イテ起床 小鳥ノ掃除。家内ニ五百円ヲ與ヘ母ヘノ買物ヲサセルコトヲ命ズ 惠美子ト寺参リ方々上京 夜帰ル 二三百円買物ス スグ又夜トボシニ女中ヲ連レテ

行ッタ

自分ハ工場ニ行キ調べ物ヲシ帰宅 島田君來 萩原ノ其後ノ話シヲ聞ク 野口君ハ九百円借りテ千円返シタノ二百円持タセテヨコシタ 何ニカ品物デヤルコトニシヨウ。午後祝詞ヲ貰ッタ處へ返書ヲ十五六通書ク 清平來 夕方工場ニ又行キ人名簿ヲ持チ帰り夜來月九日招待者ノ調査ヲナス

岡山ベニヤ商会店員二名來 組合ノ話シヲナス

大口豊作ニ夜カオルノ貯金通帳以外金ト債券、判モ全部渡ス

▲▼279ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月25日(金)

天気 晴

五時起床 讀経朝食後六時半出カケニ参吉來テ39工員ノ昇給ノ件來月ニナル旨話ス。スグ上京 事務所ニ行キ予定ヨリヤ、遅レテ千鳥進行会議ヲ開ク 九時四十分終リ、紀ノ国屋ニ川畑氏訪問 共ニ第一ホテルニ行キ晝食ヲナシ氣付イタコトヲ教ヘル 一時半ニテ出發スル由 來月初メ頃又來ル由 再ビ事務所ニ帰り協會へ寄ル 今日ハ二十日ノ慰勞休暇デ誰レモ居ラナイ。満州国ノ飛行士ガ來テ星ノ間デ晝食ヲ取ツテ居タ 富岡ト工場配置ニツキ打合セル 四時ヨリ組合ニ行キ五時秋葉原発歸ル

▲▼280ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月26日(土)

天気 晴雨

工場ニ出 三代川居ラズ徒歩上京 協会ニ行キ名簿ヲ貰ヒ招待者ヲ書イテ貰フ。事ム所ニ一寸ヨリ十時交詢社ニ行ク 何ノノ會議ダカ分ラナカッタガ会社ノ運行上ニツイテノ懇談会ノ様ナモノデアッタ 初メハ何ンモ云ワナカッタガ松戸デ陸軍ノ部品ヲヤレトノ社長ノ言葉カラ所信ヲ述ベ部品ヲヤルノカ將來完成機体ヲヤルツモリカラ決定スル必要アリ。ソレニヨツテ、ソレニフサワシイ仕事ヲヤルコトニスベシト主張シ、立川飛行機トノ交渉ヲ引受ケル。最後ニ人事部下資材部ノ設置ヲ主張シテ正午散会 本社ニヨリ過日ノ旅費清算(実費)ヲナシ組合ニヨリ船橋ニテ鷺見氏ニ会フ 二時間余リ話シ後チ清平ニ模型ノ組合ノコト善処方ヲウナガシ過日出資ノ五百円ハ清平へヤルコトヲ申渡シ五時頃帰宅。家内トエミ子野口君へノ礼ニ小供服買ヒ稲毛ノ母へノ羽織ノ裏地ナド求メテ來ル

夜徳治ノ帰りヲ待ツ 又雨トナル

▲▼281ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月27日(日)

天気 晴

六時起床 観音経ヲ皆デ上ゲル 後チ五六通手紙ヲ書ク 久次郎縁談ノ件姉へ百円送金ノコト等

十時頃ヨリ出カケル 仁三郎ハ學校 其他全員ト青木仙ノ介同道ス 仙ノ介奈良原氏ガ色紙ニ和歌ヲ書イテ持セラレタ 二十日ノ祝詞 国府ノ台カラバスニ乗レズ金町カラ松戸へ電車デ出ル 正午丁度着 墓參後芝ノ上デ、辨当ヲ喰フ。コンナ事ハ実ニ和ヤカニ気分ヲスルモノデアル。天クラクナル。降ラナイ内ニ帰ルコトトス。バス数台待ツテヤット乗レル。東京へ廻ル予定ナリシモ馬鹿ニクタブレタノデ、スグ帰ル 徳治ハ仙ノ介ト奈良原サンへ行ク

◆◆282ページ◆◆ 昭和17(1942)年9月28日(月)

天気晴

朝顔ソリ出社 河島航空官ニ式検査ニ來 一寸會ツテスグ上京 自動車事故ノ爲メ停留所迄歩ク 十二時二十分本社着 一時今里、板垣、矢野氏ト松戸ニ行ク 検事局ニ矢野氏ト二人出頭 折原検事ニ會ヒ高木村工場ノ建築許可書其他一件書類ヲ提示ス 本日付ヲ以ッテ此事件ハ不起訴トナル旨申シ聞カサル。工場ニ立寄り飛行場ヲ見テ居ル内ニ自動車空デ先キニ行キ鎌ヶ谷迄歩ク。五時半樂園着 船橋署長。吉野町長以下鷺沼区ノ人々ヲ招待 自分挨拶後ニ畑専務挨拶 吉野町長ノ答辞アリ 八時散会ス

今日乗員養成所ヨリ戸田氏ニ面會ニ來リガソリンノ件自分ニ洲崎警察迄至急出頭サレタイトノコトデアッタ由 明朝行クコトトス 今日ハ実ニツカレタノデ明日ハ休ミタカッタ

◆◆283ページ◆◆ 昭和17(1942)年9月29日(火)

天気晴

六時半ヨリ上京 八時本社着 洲崎警察大井氏ニ電話シテ行ク 其前立川行ニツキ専務ヨリ立川ノ部品製作ヲヤリタイノデアルガ赤坂君ガヤツテ呉レナイトノコトデアッタ 松戸デヤルコトニツキ機械ト人ヲ廻セルカ専務デヤツテ呉レルナラ松戸デ引受ケル旨ノベル

九時洲崎警察ニ行ク 別段ノコトナク当社ノガソリン三十ガロントゴムホース二本ノ盗難届ヲ出シテ呉レトノコトデ代書ニタノミスグ提出。養成所ノ件ニツキ相談ニ入ロウトシタラ取アワズ 養成所カラ出サセテ呉レ、スグ行ツテクレトノコトデ一度本社ニ帰り養成所ニ行ク 車ナク松戸ヨリ局ノ自動車ニ同乗ス 所長山下氏等ト相談ノ上高尾、山下佐藤諸氏ト同道 再ビ洲崎警察ニ行ク。ヨク取レタ機体ハ試運轉用ノモノニテガソリンハ支給セルモノ今夕納入済デナイカラ伊藤ノ保管中ニツキ伊藤ヨリ盗難届ヲ出スベキ

モノト主張 ツヒニ明日検事ト相談ノ上返事スルトノコトニテ分レル

▲▼284ページ▲▼ 昭和17(1942)年9月30日(水)

天気 雨後晴

五時半起床 工場ニ出 一昨日タノシダ下請申請ノタイプヲ整理シ本社ニ行ク 社長
両専務赤坂、板垣モ来 板垣ヨリ台北進出ノ件日親ヨリノ話シヲ出ス
畑氏ヨリ明日立川ノ監督官ト社員ガ足立ニ來ルトノコト 原町田デ出來ルダケヤルコ
ト等ト聞キ、立川ニ行ク 社長、常務不在 山田氏又不在ニツキ営業ノ者ニY39ノ見
積書ヲ出シ注文書ヲ伊藤宛ニタノシデ足立ノ方ノ話ハセズニ居ク 社ヨリ電話アリ田中
ニ行ク様手配セシニ洲崎警察デヤハリ自分ニ來テ呉レトノコトニ一度事ム所ニ帰り四時
半出頭ス ガソリント持主ハタレデモヨイカラ事件ガ飛行場内デアッタコトダケヲ書イ
タモノヲ出シテ貰ツテ呉レトノコトデ明朝行クコトヲ約シテ帰ル 実ニ今日ハツカレタ

▲▼286ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月1日(木)

天気 晴

朝觀音経ヲ上ゲル。藤枝富山ノ鮎スシヲ持ッテ來テ呉レル 八時自動車來 中央養成
所ニ行ク 山下課長不在 高尾大尉佐藤氏、所長ニ會ヒ自分デ原稿ヲ書イテ居イタノ
デ、ソレニヨッテ書イテ貰フ 承認書トシデアッタ スグ洲崎代書屋ニ行ク 高後氏ニ會
フ 共ニ晝食ヲナス 食後提出 大井氏コノ書キ方ハ、イケナイトノコトデアッタガ会社
ニ対スル盜難届ノ添付書類ダト云フコトデ兎ニ角預ケル。外ニ署長宛ニ答申書ヲ出シテ
貰ツテ呉レトノコトデアッタ。事ム所ニ行キ、宮本ニ會フ。ヤハリ神風ノ方ガホシイトノコ
トデアッタノデ部品調査ヲ返事スルコトトス 板垣トニ三打合セテ、局末森氏訪問
補給部買取價格ヲ聞ク 二円ガ畑デ大分高イモノデアッタ 當方ノ事情モヨク話シテ
帰ル

▲▼287ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月2日(金)

天気 晴

六時三代川へ自動車デ來ル様仁三郎ヲ使ニヤル 七時十分出カケル 途中車ニ會フ
其マ、千葉縣庁ニ行ク 八時四十分 余リ早イノデ白戸へ行ク 十一日小原君連レテ
行クコトニ約束ス 人少ナク製品モヨクナカッタ。縣庁ニ農務課ニ行キ野村氏ト小作官ニ
會フ 昨日書類ハ農林省へ速達デ送ツタ由 價格問題ニツキ意見ヲ聞キ帰ル途中田母
神氏ニ會フ タドン千個賣ツテ貰フコトヲ約ス。十時頃ヨリ上京 事務所ニヨリ板垣本
社ニ居ルトノコトニ行キ縣庁ノ模様ト昨日ノ局ノ様子ヲ話シ今日板垣ニ村上氏ニ會ヒ

相談スル様話ス

一時東日ニヨル 羽太其他ノ人々ニ會フ 組合ニヨリ三越ニ行キ 阿弥陀如來ヲ求メテ
五時久シ振リニ明ルイ中ニ帰ル

◆◆2888ページ◆◆ 昭和17(1942)年10月3日(土)

天気 晴

今一日ハ少シノンビリシタ 九時半頃ヨリ中央養成所ニ行キ山下課長病氣欠勤 丁度
幸ヒ係長ニ會ヒ警察ノ旨ヲツタエ打合せヲナシ工場ニ行キ日誌ヲ見敷地ヲ見分シ福井
ヨリ工作狀況ヲ聞き、正午過ぎ帰宅
晝食後二時工場出 三時半帰宅ス
朝、夕観音経ヲ上ゲル

◆◆2899ページ◆◆ 昭和17(1942)年10月4日(日)

天気 晴

拾時頃工場ニ行ク。三代川ニタドンヲ取リニヤル
夕方四時頃ヨリ家内ト和子ヲ連レ船橋市ニ行キ山縣記念號敷地ニ植エル植木ヲ買フ
丁度三十円 明後日取りニ行クコトトス
盆栽書ヤ高僧傳ヲ讀ム
清和二勤メテ居ル小供來 徳次ノ嫁ノ候補者トシテ家内ノモノニ引合ス 恵美子ノ骨
折リ大体合格點

◆◆2900ページ◆◆ 昭和17(1942)年10月5日(月)

天気 晴

五時半起床 角來 Y39試飛行ノコトナド打合ス
清平宅ニ一寸ヨル 今朝八時ノ東武線デ両親ハ日光へ行ツタ由
本社ニヨリ社長ニエビヲ贈ル 野田不在ニツキ太田外二名ノ所書ヲ預ケテ帰ル 事ム所
二十二時迄居リ組合ニヨル 志村ヨリ横井対巴ノ契約下書キヲ見セテ貰フ 尚氣付タ
點ヲ話シテ居ク
生田君來テ居タ 定刻浅草寺本堂ニ行ク 讀経ガ終ツタラ事ム所カラ電話アリ、帰ル
淡商業カラ來客 文部省型五百八十円ノ予算シカナカッタトノコトデ受取ル 補助金
取ツタラ残金貰フコトトス
四郎平カラ古谷石ノ返事ガ來テ居タ 三四十円位デアル由 大分安ク買エル譯ダ

▲▼291ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月6日(火)

天気 雨後晴

六時起床 八時工場出 間モナク家ヨリ迎へ來 帰ル 野口君來テ居タ 神崎ヲ株式組織ニシテ完成品ヲ作ラセルコトニナリ局へ挨拶ニ行ツタトノコト 萩原ノ話シニナリ重田、島田、ダメダトノコトニ山村氏ニ金ヲ出サセルトカノコト 然ルベク依頼 一日モ早クマトマルコトヲ希望ス。再ビ工場ニ行キ四郎平君ニ古谷石ノ件依頼書ヲ出ス。大坂清和主人へシンナーノ件イヅレモ速達ニテ出ス。晝食ニ帰り幕張ニ行キ島田君ニ會フ 萩原ノ件速達ヲ促ス 野口君ノ事ニツキ話シ合フ ドウモドチラノコトガホントウカ分ラナクナツタ 三時帰り三度工場ニ行ク 自動車帰ツテ居タノデ植木ヲ取りニヤリ明日植樹ヲ依頼ス

▲▼292ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月7日(水)

天気 晴

今日ハ北風ハゲシク寒カッタ 朝工場ニ出ル 自動車修理ニ行ツテ居ラズ スグ上京 事務所ニヨリ航空局ニ行ク 北浦氏ヨリ高岡滑空機工場トシテ認メズトノコトデアッタ 尚会社引ツギノ届出ニ対スル書類追加ヲ出スコトヲ聞ク 東洋ノ中村氏來 丸ノ内ホテルニ行キ木村新君ノコトヲ聞カレル 一通リ話シ三越ニ行キ頼ンデ居イタ観音ノ像ヲ買フ 予定シタヨリ大分小サカッタ 事ム所ニ帰り組織改変ノ打合せヲナシ三時半本社ニ所長次長會議ニ出席 五時終リ 六時半帰ル 三時頃久々田ニ火事アリ 風ノ爲メ大火トナル

▲▼293ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月8日(木)

天気 晴

五時半起床 六時二十分出 七時四十五分事務所着 八時大詔奉戴ノ式ヲ行ヒ後チ感謝報恩生活ニツキ話シヲナス 班長級及係長其他ノ移動進級ヲ決定ス 本社ニ行キ明日ノ出席ヲタシカメルベク局ニ行ク 二部長ニ會ヒ例ノ大会社ノ件ニツキ自分ノ意見デアル統合問題ヲ話シ出現方ヲ依頼ス 総務課長補給課長ニ會ヒ一身上ノ件デ礼ヲノベル 本年度資材ニツキ補給課ノ諒解ヲ得。石島君ニ原價計算出サナイコトノ諒解ヲ得 尚高岡滑空機問題ニツキ諒解ヲ求ム 夕方本社ニ行キ明日ノ席順ニツキ調べ六時出テ七時半帰宅 太田君來テ居タ 鹿児島ノ模様、及前田ノ状況ヲ聞ク

◆▼294ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月9日(金)

天気 曇小雨

定刻出社 清平宅ニヨル シバラク振テ兄ニ會フ。日光ハ食フモノガナクテ酒モナク温泉ニモ行ケナカッタトノコト ツル姉モ胃下垂テ静養ヲ要スルトノコト 清平モ小供モ風引デアッタ

本社ニヨリ局ニ行キ長官三木サン今夜出席ヲタシカメ午後事ム所ニ夕方迄居リ産報ノコト、土地問題等ソレ々命ジル 四時過ぎ上野精養軒ニ行ク 來会社(ママ)約六十名社員三十名位ニテ余興後六時過ぎヨリ開会 板垣ノ司会ニテ国民義(ママ)禮 社長ノ挨拶 話シハ主トシテ伊藤ヲ合併シタコトニツキ誤解ヲ解ク事ニ重點ガアッタ様デアッタ。長官ト海軍航本山本大佐ノ挨拶 食後自分ノ挨拶ヲナシ二三來賓ノ祝詞アリ 八時半終ル

帰途津田沼駅ニテ徳治、恵美子ト會フ 帰宅後話シヤ写真テ十一時床ニツク

◆▼295ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月10日(土)

天気 雨

ヨク降ル 午後止ム

晝前縣庁ニ行キ住宅営團ノ件検見川ハ仮契約出來ルコトニナツテ居タ 十三日東京ニテ行フコト 高木村ノ方ハ土地ハ五十坪迄ハ営團デアル分ハ農地変更ノ許可ハイラナイトノコトデアッタ コレニツイテモ十三日協議スルコトトス。晝宅デ食事 胡錦鳥雄ヲ雌ト取替エル。カナリヤ雄一羽ト十姉妹一番買フ 二十円也 朝追込ミ小屋ノカナリヤ二匹寒ソウナノデ巢箱ヘウツス。小屋ガ余リ淋シクナツタノデ十姉妹ヲ入レル 徳治ニ洋服代トシテ百円與ヘル

◆▼296ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月11日(日)

天気 快晴

六時起床 経ヲ上ゲ朝食後小鳥ノ手入レ後洋窓ノ下ヲタガヤシ球根二三ヲ植直ス 九時ニナツタノデ新調ノ袴ヲ着ル 稲カリヲナス。スグ出カケル 白戸ヘ十時十分着 十一時十分小原君來 G1ノ出來タノヲ見セ工場モ見テ並木ニ行晝食ヲナス 二時頃分レテ藤枝ニ寄ル 此頃ハ平均十円位トノコトデアッタ 清和ノ送状ヲ見セル 四時清平宅ニ行ク 兄起キテ居タ 静カニシテ居タ方ガイトノコトデアッタ由 清平同道楽園ニ行ク 五時 五時半太田、渡辺、坂本來 會食ス 八時半帰宅ス 會食中話ハツキナカッタ

◆▼297ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月12日(月)

天気 晴雨

七時半工場出 スグ上京 本社ニヨリ住宅営團ノ件ヲ話シ事ム所ニ行キ正午迄一寸急
(ママ)ガシカツタ
午後一時半浅草寺着 三時半終了 家内ト、田原町迄行キ観音様ト不動様ノ台ヲ求
メ五時半帰宅ス
謝文達へ手紙出ス 色々送ッテ呉レタ由 又安岡へ百円呉レタトノコトダガマダツカナイ
旨報ラセル

◆▼298ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月13日(火)

天気 晴夕立

定刻出社 中央養成所へ過日御出席ノ挨拶ニ行ク
二時組合ニヨル 値上問題同行ノ予定時間遅レタノデ福知氏一人デ行ッテ來タ由。事
ム所ニ行ク 千葉縣庁ノ山崎氏スデニ來タ由。書類ニ目ヲ通シ長田氏ト営團ニ行キ山
崎氏ニ会フ 課長以上誰レモ居ラズ 明日長田氏用地課長ニ会ッテ貰フコトニシテ帰り
用ヲ方付ケ山崎氏同道 帰途鈴木館デ夕食ヲ共ニシ八時帰宅 内ニ這ルト大雨ト雷ニ
ナル。山崎氏ハ雨ニ會ッタカモ知レナイ

◆▼299ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月14日(水)

天気 晴

定刻工場出 九時ヨリ上京 事ム所ニ行ク 島田君來テ居タノデ自動車ヲ呼ビ試験場
ニ行ク 松浦氏ト川崎氏ニ会ヒ島田氏ノ方ニテ駒鳥作ルコトニツキ圖面其他ノコトヲ聞
キY39ノ報告ヲナス 70%ハ最(ママ)非必要トノコトニ驚見長尾氏ト相談ノ上決定ス
ルコトノ諒解ヲ得テ帰ル 島田君ト銀坐裏ノ吉本鳥屋デ御馳走ニナル
午後富岡ト班長、教育其他ニツキ相談ス 四時帰ル

◆▼300ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月15日(木)

天気 晴

昨夜否今朝小便ヲモラス 昨日帰りニツカレタ爲メ?
七時起床 野口君來 神崎ノ件ニテ昨日局ノ関口君ニ会ッテ來タコト 神崎指導ヲ頼
ムトノコト、二十日頃ミドノ行キ打合セヲナス

清平宅ニヨリ昨日川崎氏ニ会ッタコトヲ話シ奈良原氏訪問 今回受賞ノ賞金ニ対スル

心持チトシテ百円進呈シ軸ヲ一本書イテ貰フコトヲ依頼ス
事ム所ニ出社 高岡ノ木勢氏ニ時頃会见 局ノ意向ヲツタエ当社ノ契約ヲ作り証明ス
ルコトトシテ明日正午再会ヲ約ス。五時頃鷺見氏ト会见 Y3970%ノ件ニツキ想
(ママ)談 長尾氏デヤルカ当社デヤルカ、イツレニシテモ設計ヲ急グコト 鷺見氏ニ指導
方依頼ス
今日ハ又大変昆(ママ)雑シテ小岩デ漸ク直立スルコトガ出来タ

◆▼301ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月16日(金)

天気 晴

定刻出社 九時出 十時十五分事ム所着 直チニ全員ト共ニ靖国ノ英霊ニ感謝ノ祈リ
ヲ捧グ

三時迄居ル 十二時高岡ノ木勢氏來 会社ノ証明ヲヤルコトニシ一時半頃帰ル
淡路町ノ渡辺ニ行キ御霊代ヲ注文ス 五時過ギ帰宅
今日朝夕ニ回御経ヲ上ゲル

日本高僧傳日蓮ニ及ブ 昨日讀ンダ親鸞ハ大ニ心ヲ打ツモノガアッタ

◆▼302ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月17日(土)

天気 曇雨

時事 鷺沼ノ祭例(ママ)

今日ハ町ノ御祭り 例ニヨツテ雨ガ降ツタ

六時半起床 小鳥ノ手入レ

御経朝夕

朝一回工場ニ行キ家内ト共ニ航空神社ノ掃除ヲナス 内陣モ掃除ス

午後一回行キ中谷由平ノ保俚(ママ)証菊池ニ渡シテ居ク

日本高僧傳讀ミ終ル

夜庭デ取レタ米ヲ今朝航空神社ニ上ゲタノヲ家内ヤ恵美子ニモ手傳ワセ「ダツコク」ス

調べテ見ルト一合デ八千個アリ 約一合ニ五有ツタ アスハ精白スル予定

◆▼303ページ◆▼ 昭和17(1942)年10月18日(日)

天気 曇

六時起床 讀経 小鳥 すももヲ鉢上ゲシ球根ヲ植エル

朝一回夕方一回工場ニ行 夕方分室事ム員皆不在 一人シカ居ナカッタ

兄ニ電話シテ來テ貰フ 清ヲ連レテ來タ 牛肉ト松茸ガアッタノデスキ焼ニス 酒モ三合

バカリアッタノデ丁度ヨカッタ
砂山松戸へ行くコトヲキライ津田沼二代リタイトノコトデタ方來タガ松戸ヲ山奥ノ仕方ノナイ處ノ様ニ云ヒフラスモノノアルラシイノデヨク話シテヤル 尚残リタイ時ニハ残シテヤルコトヲ話ス

▲▼304ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月19日(月)

天気晴

今日モヨク晴レタ 六時起床 入浴 観音経 朝食 七時出ル 宿ノ主人駅迄送ルマダ四十分アリ松本城ヲ見ニ行ク 大急ギデ写真取ルコトモ出來ナカッタガ丁度八時八分發奈良井着 スグ駅裏ノ日本小型分工場ニ行ク 主任ト話ス ドウモ打解ケテ話シテ呉レナカッタ 工場ヲ見ル 製品ハヨクナカッタ 町ヲ見物シ十時四十分ニテ三留野ニ向フ ○時五十分三留野着 宿ニツキ晝食ニ松茸井ヲ取ツテ貰フ 町ノ関係者数名來工場ヲ見ニ行ク途中木材搬出ヲ見ル 実ニ沢山アッタ 此ノ地ハ唐檜ガ少ナク明日檜(ヒバ)ガ沢山アルトノコト 木ヲ見セテ貰フ 実ニヨカッタノデ見本ヲ貰フ 篠京都行ヲ中止シ泊リ夜又関係者殊ニ中井氏ハ舞鶴カラ來タトノコトデ皆熱心デアッタ 九時半頃迄話シ會フ 檜ト、ヒバノ試験片モ野口君ニ持ツテ帰ツテ貰フコトトス 今日ハ車中其他駄句数句ヲ作ル

▲▼305ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月20日(火)

天気晴

六時起床 八時五十分發ニテ川井氏其他ノ人々ノ見送りヲ受ケ出發 正午名古屋着 航空局へ電話シテ富士滑空機ヲ聞キ電話スル 小泉君丁度居タガ二時間デハ行ケナイラシイノデ帰リニヨルコトニシテ駅デ散髪ナドシテ二時二十分特急ニテ五時大坂着 乗合タクシーデ帰宅。姉ニ來テ貰ヒ今日配給ニナツタ上等ノ牛肉デー所ニ食事ヲス

▲▼306ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月21日(水)

天気晴

六時起床 讀経 上京 事務所板垣昨夜帰京ノ由 報告ヲ聞キ不在中ノコト今後ノ事ナト話ス

正午 事ム所ニ本社ニ行キ明日ヨリ出張ノコト廿三日役員会欠席ノコトヲ諒解ヲ得 航空局ニ行ク 皆不在 増田へ御霊代ノ件ニテ行キ組合ニヨリ三時再度局ニ行キ一種ニ昇格ノ件モーター買入証明ノ件 一ハ厚生省迄長田事ム官同道本年度分ニ間ニ合セテ貰フ 一ハ第三四半期間ニ合ワズ 第四四半期ニ入レルコトニ諒承 事ム所ニ帰リ石倉ヨリ

台湾進出ノ件ニツキ話シテ聞ク。五時半出 清平宅ニヨル 長尾本日上海 ホテルニ会见中電話ニテ話シ長尾スグ帰ル由 廿四五日頃京都ニテ会见ノコトトス

▲▼307ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月22日(木)

天気 晴

四時家内起床 自分五時前起床 五時半朝食 六時丁度出ル 家内トランクヲ大風呂敷デ、背負テ停留所迄送ル 実ニ忠実ナ奴ダ 野口君待ツテ居タ 船橋ニテ清平一所ニナル。新宿迄送ル 車中長尾会见ノ様子ヲ聞ク。自分ニ、アク迄相談相手トシテ出馬サレタイトノ希望ノ由 廿五日京都ニテ會フコトトス。八時丁度發 甲府過ギテ家内誠心の辨當ヲ取ル 渡辺ノ呉レタ白米ガ丸ノ餅米ノ様ダッタ 野口君モ嬉(ママ)ンデ呉レタ 一時松本着 一寸前同車中ノ中年ノ一紳士ヨリ千葉ノ伊藤サンデスカトノコト 聞イテ見ルト松本ノ主催者小林氏ノ令息トノコト 実ニ奇(ママ)遇ト云フベキデアッタ。着スグ信州工室ニ行キ専務、社長ニ会见 工場モ見、話シモ聞ク 大分皆熱心ノ様デアッタ。壹時間半バカ居テ三時半 自動車電車ニテ浅間菊ノ湯ニ行ク 主人スグ出迎ヘテ呉レテ久シ振リニ昔話シニ花サク 母堂ニモ會フ。野口君長谷川君ニ電話シテ呼ブ 八時過ギ來 十時過ギ迄話シ込ンデ帰ル

▲▼308ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月23日(金)

天気 晴少曇

六時起床 観音経ヲ上ゲ八時出 清和ノ店ニ行ツタガ不在 藤井寺ニ行ク 新ラシイノトシヤレタ建方デキレイデアッタ 十五日ノ祝ト佐藤君ノ急死ノ見舞ヲ述ベル 山本君ヤ技師社長ト一時間半ニ渡リ懇談 十二時半天王寺区ノ宅ニ行ク 兄新世界へ行ツタトノコト 晝食ヲ馳走ニナリカバンヲ取りニ惠美須町へ行キ新世界へ寄ツタラ帰ツタアトデアッタノデ引返シタガ帰ツテ居ラズ スデニ一時ニナツテ居タノデ姉モ白浜行キ中止ス 三時半中ノ島下車 岡市見学。五時十五分東和歌山駅發九時白浜宅ニツク 途中ヨリ警戒管制ニ會フ 潜水艦ノ爲メラシイ 十時四良平夫妻帰り十一時迄話シテ床ニ入ル 大分寒イ

▲▼309ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月24日(土)

天気 曇小雨

六時起床 風引テ居タノデ考ヘタガ朝風呂ニ入ル 食後早速石ヲ見セテ貫ヒ六個デ百六十円ダツタノデ二百円渡シ外ニ一個貰フ 内ニ観音立像型ノモノアリ 少シ早目ニ晝食ト酒ヲ馳走ニナリ温ツタテ

十一時半ノバスニテ帰途ニツク ○時五分白浜発 三時半天王寺着 カバンが重イノデ、タクシーヲヤトヒ四時過ギ帰宅 其頃ヨリポツリ、降ル
夜ハカシワデ御馳走ダツタ。食後空ノ教室ヲ見ニ行キ八時半帰ル 十時過ギ床ニ入ル

▲▼310ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月25日(日)

天気 晴

上天氣トナル 手紙ガ來テ居ルトノコトニ惠美須町ニ行ク 清平カラ其後ノ模様ト長尾廿六日東京デ用事アリ 京都へ帰レヌトノコトデアツタ 省線ニテ京都桜井ニ行キ十一時半頃迄居ル 治具ハ大分工夫サレテ居タ。上京ノ国際ノ工場ヘ行き倉橋君ニ會フ 晝食ヲ馳走ニナル 大久保ノ青年學校ハ休ミトノコトニ倉橋君ヨリ内容ヲ聞ク。横井ノ岡村君ノ案内ニテ清水カラ知恩院迄東山ヲ見物ス

三時半平安神宮前デ見物ヲ打切り、松味ヲ訪問ス アイニク、戸ベニシテ不在デアツタノデ向ヒノ洋服屋サンへ名刺ヲコトツケ省線ニテ帰り、道頓堀千日前ヲ見物シ八時半帰ル 小型時計ヲ戎橋筋デ見付ケタノデ一個買ツタ處小針ガ大針ヨリ早クウゴクノデ又取替ヘテ貰フ 中古品デ五十四円デアツタノガ新品デ十八円八十錢ノデ間ニ合フ 返ツテヨカッタ

▲▼311ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月26日(月)

天気 晴

朝布施ノ第一航空三行キ大分時間ヲ喰フ 十一時半ニナル 附近デ晝食ヲ取り、西村ニ行キ一時半帰坂。駅ニ行キ切符ヲ求メ東洋ニヨル グライダーノモノ一人モ居ラナイトノコト 通信局ヘ電話スル 金井氏居ルトノコト 駅ニテタクシータノンダガ第二飛行場迄ハ行カナインノデ南波氏ニ會フコトヲ止メ金井氏ニ會ヒ、アラマシ大坂ノ状況ヲ聞ク 浜寺モ東洋ノ名デアツテ居ルガ全然関係ナイトノコトデアツタ 井上長一ノコトモ聞ク。エミス町ニ帰り重二夫妻ト姉夫妻文雄ト鳥佐ニ鳥ガナイノデ來山ニ支那料理ヲ喰ヒ重二三送ラレ十時二十分大坂発 大分スイテ居タノデヨカッタが大分ツカレヲ、オボヘル

▲▼312ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月27日(火)

天気 快晴

東北ニマレナ快晴トノコトデアツタ

七時十一分高岡着 アマリ早イノデ福光ノ大平木工ヘ行ク 十時過ギ辞ス 大分工場ハ立派デアツタ 漸時(ママ)滑空機ニ代ル由 値上問題希望ハ変リナイガ千三百円ハ高スギル様ナ口振りデアツタ 埴山ノコトヲ調べタガ三子ハ再縁シタ由 其主人モ又死ン

ダトノコト 帰途寺ガアッタノデ聞合セ出町花ト分ツタガドウニモ時間ガナイノデ車中カラ御経ヲ讀ンデ居ク 正午高岡着 迎ヘニ來テ呉レタ 城跡ノ料理屋デア四名バカリ來テ接待シテ呉レタ 縣庁ノ方ハ建築シテモヨイトノコトデ今日建築屋ト協議中トノコト安心シテ二時十四分引留メラレタガ出発 六時十八分高山着 富山カラ電報シテ居イタノデ迎ヘニ來テ呉レタ 最(ママ)非自宅ヘトノコトデアッタガ客ガ來タリスルカラト事ワツテ宿ニ案内シテ貰ヒ、シバラク話シテ帰ル 敬子ハ少シモ年ヲ取ツテ居ナカッタ 小供ハ十四ニナツテ工場ニ今年カラ行ツテ居ルトノコト 小供三人連レテ來タ 兄モ同道シタ

▲▼313ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月28日(水)

天気 快晴

七時前起床 少シマダ眠カッタガ起キタラ元氣ガ出タ 昨夜ノ風呂トアンマガヨカッタラシイ

中田氏ニ電話スル スグ來テ呉レタ 共ニ工場ニ行 工場ハ高山駅ノ近クデアッタ 名古屋ヨリ井上外一名検査官ガ來タ 初メテノ人デアッタ 挨拶ヲスル 百五十坪ノ新築ノ由デ文部省型ヲヤツテ居タ自分デヤラナイト業材ノ使用箇所ガ分ラナイカラ月産三十台ヲ限度ニヤルトノコトデアッタ 木材ハ福田ノ注文ガ來テ居タ。現状デ月産五十台迄出來ル 尚設備スレバ月百台ハ出來ルトノコト 木材入手ニツイテハ営林署ハ困難ダトノコトデアッタノデ帰途小坂へ立寄ル 十時五十分高山発 小坂ニテ晝食後営林署ニ行ツタガ署長不在。松沢ニ行ツテ津田沼へ初メニ來タコトモアリ高山ノ仕事モ初メハ関係シテ居タガ抜ケタトノコトデアッタ 会ツテ話シテ見ルト中田氏ヨリ氣ガオケサイノユルセル男ノ様ニ思ワレタ。

高山ハ十台分即日発送スルトノコトニ注文ス

木材ハ松沢デハ將來二百四十円ノツモリトノコトデアッタ

事情ヲヨク聞イテ大ニ参考ニナル 二時五十分発準備急ニテ名古屋ニ行 車中井上氏ニ再会ス 七時前名古屋駅前清駒ニ泊ル 明夜ノ寝台券手ニ入ル

▲▼314ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月29日(木)

天気 晴

六時半起床 朝食後観音終リ駅ニ行キ明朝ツク旨打電シテ、タクシーニテ九時過ぎ富士航空ニ行ク 十時半頃小泉君出社 三嘴君ガ一所ニ來タ 目下ハ協会ノ名古屋訓練所ノ教官ヲシテ居ルトノコトデアッタ。三嘴ガトラックヲ持ツテ來テ居タノデソレヲ今日一日貸シテ呉レルトノコトデアッタ 富士ハ人モマダ少ナカッタガ延ビソウニ思ワレタ。小幡ニ行キ名古屋グライダーニ行ク 木下氏ニ會フ。ドウモ活氣ガナカッタ 同氏ノ父ガ最(ママ)非会ヒタイカラ自宅迄來テ呉レトノコトデアッタノデ協会デ晝食ヲ馳

走ニナリ名古屋合板ニ行ク 知ツタ人ガ居ナカッタノデ、予期ノ結果ヲ得ラレナカッタ。木下ニ行キ主人夫妻ニ会フ 最(ママ)非何ントカ作業ノ出来ル様ニシテ貰ヒタイ 下請デモヨイトノコトデアッタ 考慮ヲ約シテ、十州楼ト云フノへ案内サレ、小泉三嘴ト会食大ニ觀(ママ)談後大須觀音ニ參詣 コ、デ皆二分レ駅ニ行キ約二時間待ツテ十一時四十七分發ニテ寝台ニ入ル

▲▼315ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月30日(金)

天気 晴

七時半新橋下車 八時事務所出 畑氏ニ電話シテ帰京ノ挨拶ヲナシ、青木君ヨリ不在中ノ話シヲ聞ク

板垣出社シタノデ十一時頃出 組合ト渡辺デ御霊代ヲ受取り津田沼ヨリタクシーデ帰ル 途中鷺見氏ニ會ヒ宅へ一所ニ帰り四時迄待ツタガ清平、長尾來ラズ帰ツテ貰フ夜清平來 長尾今夜長野ニ行ツタ由 其後ノ様子ヲ聞ク。百万円位ニツメテ成立セシムルラシイ。自分ノ出露ニツイテ、青木等ノ意向モ諒シヲ聞ク 出テヤラネバナラナイニツイテ舟崎ニ先キニ話スカ局へ話スカガ問題デ尚会社へ聞合セタ場合最(ママ)非入社ヲ希望スル旨デナイト、オカシナ者ニナルノデ其空氣ヲ作ツテ居ク必要ガアル 高岡ノ連中二人帰郷シタノデ一人又連レテ來タトノコトデタ方來タ 今村ガ云ツタコトガ氣ニナツテ帰ツタラシイ 夕方野口君宅ニ行キ三留野ノコトナド打合ス

▲▼316ページ▲▼ 昭和17(1942)年10月31日(土)

天気 曇リ

今日ハ早朝カラ人が來タリ十時工場出テカラモ工員ノコトデ、ウルサイ話シバカリデアツタ 高岡ノ職工ハツヒニ返スコトトス 午後野口宅ニテ木内君ト會フ 三日頃後ニ一度神崎へ行クコトヲ約ス 船橋ニ立寄り兄ニ清和ノ見積書ヲ渡シ寄宿舎建築ノ件ヲ聞キ三時事ム所ニ出ル 五時迄居リウルサイ話シヲ方付ケ帰ル

▲▼318ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月1日(日)

天気 曇リ雨

八時十分工場出 仕度進行シテ居タ 十時航空神社祭典執行 後飯塚ヲ呼ビ滑空機製作方針樹立ニツキ策ヲ立テルコトヲ命ジ六日東京事ム所ニテ会議スルコトトス

四日津田沼ノモノノ慰安会ニ松戸ノモノノ参加スルヤ否ニツキ自分ハ参加差支ナシト許可シタ處、長本昨日東京デ、ナラヌト云ワレタ來タ(ママ)トノコトニ電話シテ板垣ニ話シタガ、スデニ本社ヤ各方面ニ右ナラヌ事ヲ通知シタトノコトニ休日ヲ同ジクスルコトハ認メテ居ルノデ各自單獨ニ参加スルモノハ差支ナシトシテ自分費用ヲ出シテ参加サセルコトトス 費用出スコトハ星野一人ダケ知ラセテ内内ニスル様ニス 支出ハ津田沼産報カラ出タコトトスルコトトス
丁度三百円入ル

▲▼319ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月2日(月)

天気 晴

東京事ム所出 轉籍工員ノ手帖、貯金、積立金、同台帳等退社希望者ノモノヲノゾキ全部持参 青木ニ渡ス。事ム所ニツイタラ小幡ノ材木屋來テ居タ。ヨク話シヲ聞キ福知氏ニモ來テ貰ヒ結局組合宛見積リヲ出サセルコトトシテ歸ス。福知、板垣ト第一ホテルニ晝食 福知君ト一時适会谈ス 木材ノコト局ノコト組合強化ノコト、等々 一時ヨリ久シ振リニ浅草寺ニ行ク 少シ初マツタ處デアッタ 終ッテ塩入師ノ講義ノアト外務省ノ山崎氏ノ外カラ見タ日本及日本人ニツキ話シアリ 大変ヨカッタ。夕方船橋ニヨリ帰宅

▲▼320ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月3日(火)

天気 晴

七時半起床 寢テ居ル内ニ清平來 發起人会ガ十日ニアルノデ、ソノ時カラ参加スル様ニシテハドウカトノコトデアッタ 後チ小鳥ヲ掃除シ工場ニ行ク
正午帰宅 二時半三代川來 置時計ト古谷石ヲ持チ下デ芋ト菊ヲツミ船橋ニ行ク
時計ヲ伊藤へ頼ミカバント石ヲ清平宅渡し芋ヲ置ク 五時适居リ一足先キニ鈴木館ニ行ク 六時頃、長尾、鷺見、清平來 長尾氏ヨリ経過ヲ聞キ發起人トシテ参加サレルカアトカラ役員トシテ這入ルカトノコトニ自分ノ今ノ立場ヲ話シ参加ハスルガ、イツ這入ルカニツイテハ君等ニ時機ヲマカセルコト 尚会社ト局ノ方デ自分ノ出馬ヲ必要トスル旨、カタメテ居イテ貰ヒタイ旨希望ヲ述ベル ヨク承知シテ十時頃歸ル

▲▼321ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月4日(水)

天気 晴

六時半起床 手ガ次第第二痛ミヲ増スラシイ 今日モ大分おしりを拭くの困った
本社ニヨリ事務所ニ行ク 板垣ニ陸軍デ大型機大量発注シタ旨話ス 最(ママ)非ヤリタ

イト云ツテ居タ

正午晝メシを喰ヒニ出ルト磯部氏ニ會フ 食事が済んだとの事ニ銀坐迄ブラ、同行スツヒデニ本社ニ寄ル 再び事ム所ニ帰ル 三時半ヨリ組合ニ行キ局報告ノ爲め羽布ノ配給量調べる 六時帰宅
本日十月分給料受取ル

▲▼322ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月5日(木)

天気 晴

温イヨイ天気デアッタ 昨日松本へ忘レタ万年筆が届イタノデ今朝礼状ヲ出ス
九時本社ニヨル マダ伊藤飛行機ノ解散書ハ終了届ケニ判ヲ押ス様ニナツテ居ナカッタノデ事ム所ニ行キ十分程居テスグ役員会ノ爲メ交詢社ニ行ク 社長ヨリ日立ノ機械部品ヲ松戸デヤリタイトノコトニツキ自分ヨリ一應機械部品ノ不適當ナル事ヲ話シ陸軍ノ仕事ヲシタイナラ滑空機ノ大型機ヲヤル様ニスベキ旨ヲ話シタガ結局会社ノ方針トシテヤリタイナラ又、工員組織ヲ準備スルナラヤツテモヨイコトニ一結(ママ)シ、局、立川ノ諒解ヲ得ルコト 佐藤進氏ヲ顧問ニ招ヘイスルコトノニツヲ専務ト自分ニヤルコトトナル

スグ船橋ニ帰り、青木以下小供達九人ヲ鈴木館ニ晝食ニ招キ自分ノ立場ヲヨク話シテ聞カセル

二時半終了 葛飾ノ盆栽ヲ見ニ行キ四時帰宅 今日買ッタチユーリップヲ植エル

▲▼323ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月6日(金)

天気 曇リ

六時半起床 一度工場ニ出羽布ノ調査ヲ命ジ船橋ニヨル 昨日倉橋來ナカッタトノコトデアッタ

十時過ぎ事ム所着 滑空機製造ニ関スル会議ヲ開キ三十人迄十二月中ニ充員スルコトニ決定 二時終了 直チニ本社ニ行ク 一時間程待ツタガ畑帰ラズ一人局ニ行ク 課長部長誰レモ居ラズ 北浦、石島氏等ト旅行ノ結果ニツキ話ス。伊藤君ノ處へ行クト野口君ガ來テ居タ 五時迄話シ石橋君ヲ加ヘ四人デ銀坐迄夕食ニ行ク 八時頃終リ石橋ノオゴリデ何ントカサロンニ行キ十時半帰宅ス コンナコトハヤハリ一番ツカレル

▲▼324ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月7日(土)

天気 晴

七時起床 八時二十分工場出 九時半車デ出ル 神之台デ奈良原氏ニ會ヒ車ヲ提供

シテ上京

局ニ行キ駒林氏ト会見 立川ノ機械部品ヲ松戸デヤルコトニツキヤツテモヨイト云フコトノ諒解ヲ得 之レヨリ先キ村上氏ニモ話シテ居ク

局デ相羽君ニ會フ 正午本社ニ行キ右畑氏ニ報告シテ事務所ニ行キ少時羽布使用量ノ調査ヲナシ三時頃ヨリ班長會議ヲ開キ産報ノ準備委員會ヲ行ヒ終ツテ羽田ノ連中ヨリ希望等ヲ聞ク 津田沼ノモノ一人モ來ラズ 五時帰途ニツク 六時半帰宅

▲▼325ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月8日(日)

天気晴

六時半出 八時事ム所着 十二時ヨリ出テ盆栽展ヲ見大森駅下車 徳次ヲ尋ネ時間ヲ計リ松浅本店ニ行ク 青島、信田ガ來テ居タ 今日ノ會ハ太田ト照井ガ會ツテ話シ會ツタコトカラ初マツタトノコトデ來會者照井、太田、青島、佐藤、信田、乗池、以上デアッタ コレヲ發起人会トシテ當時ノ出身者二三十名デ惠美會ヲ作ルコトニ決定 毎年一回位アツマルコトニシタイトノコト 賛成シテ謝意ヲ表ス 今日ハ太田君ノ全部負擔デ大ニ成功シテ居タラシイ口振りデ、汁粉ヤ、鳥、アツキメシ迄全部材料ハ太田ガ持参シタモノトノコト。大ニ喰ヒカツノミ語り會ツテ愉快ナル一タヲ過シ九時半記念写真ヲ取ツテ散會ス 十二時帰宅

▲▼326ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月9日(月)

天気晴

七時起床 勝野來 共ニ工場ニ行キ作業打合せ 清平ニヨル 明日長尾來ル由 本社ニ行キ皆ト工業俱樂部ノ株主總會ニ行ク 普通株主六十名タラズデアッタ スライト僅カノ時間デ終ル 不思議ナ光景デアル 板垣ト事ム所ニ行キ土地問題ヲキメ十二時出ル 一時十五分傳法院着 讀経後京都帝大ノ川□文学博士ノ魂ノ郷愁ト云フ講演アリ 名古屋ノ木下來 附近デ喫茶店ニ入り話シヲ聞ク。下請デモ何ンデモヨイカラヤラセテ呉レトノコトニ局ト相談ノ上返事スルコトトス 今日ハ早ク床ニ入ル 十時半徳次帰ル

▲▼327ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月10日(火)

天気晴

七時十分起床 大分ツカレガ取レタ ユックリ朝食後九時工場出 材料工賃ノ原價ニ対スルヤリ方ヲ調査ス 女ヲ入レル必要アリ 大体型ハ出來テ居ルガ実行サレテ居ナイ。

松戸へ出懸ケル處へ川崎航空官卜榎林操縦士ヲY39ヲ見ニ來 晝食後帰ル 自動車
船橋へ行ツテ二時頃帰ル アマリオソクナツタノデ松戸行中止シ船橋へ行ク 清平モ兄モ
居ナイノデ、スグ帰り二三盆栽ヲ地へ降シタリ水ヲヤツタリス
徳次ノ友達ガ來テ居タノデ牛肉ノスキ焼ガ出來タ

◆▼328ページ◆▼ 昭和17(1942)年11月11日(水)

天気晴

六時半起床 清平來 昨日ノ發起人会大体予想通り解散ト決定 長尾獨力デヤルコ
トニナツタ由。清平同道ホテルニ行ツタガ不在 事ム所ニ行キ十一時過ぎ迄事ムヲ取リ
組合ニ行ク 清平來 晝食後再ビホテルニ行キ長尾君ニ會ヒ勞ヲ謝シ今後ヲ激励シテ一
時半本社ニ行キ建設委員会ニ列ス 足立ハ大体予定通り進行 松戸ハ土地問題ノ爲メ
遅延セルモ三月迄ノ一期工場ハ予定通り進行セシメル予定
終ツテ次所長会議 五時過ぎ終了 七時清平ニヨリ夕食ヲ喰ヒ帰宅

◆▼329ページ◆▼ 昭和17(1942)年11月12日(木)

天気晴

七時過ぎ起床 木村新、ノ事 ■■

八時十分工場出 清和二手紙ヲ書ク 長本居ラズ

十時半ヨリ松戸ニ行ク 浦川科長ト会见 Y39試験ニツキ諒解ヲ得 曳航機ニツキ意
見ヲ聞キ工場ニ行キ青校ノ教育状況ヲ調べ一時帰宅ス。兄ガ來テ居タノデ午後休ム
夕方散髪ニ行キ氣持ヨクナル

十時頃島田君來 明日カラ一兩日萩原へ同行シテ呉レトノコトデアッタ

◆▼330ページ◆▼ 昭和17(1942)年11月13日(金)

天気晴

六時過起床 出懸ケル處へ上岡君來 九二輕偵ノ話シ 陟航空學校へ賣ル件コトワル
九時半事務所着 次長、鈴木、安立、ニソレ、Y39 70%コトワルコトト100%驗
査ニツイテ話シス

明日明後日重役一同デ伊立へ行クトノコトデアッタガ自分ハ今日カラ萩原へ行クコトヲ
話ス

十一時出テ銀坐デ菊池泰方ニ万年筆ト四色ノシャープペンシルヲ買ツテ東京駅ニ行ク
清平來テ居タ 明日行クトノコト 角、青木連レテ行ク由。島田又オクレル 高山迄切
符自分デ求メ乗車ス 時間前島田重山來 一時半発車 今夜モ又長良川ホテルニ泊ル

自分六日本室二人入ル。セマイガ落付ケタ。日本佛教史ヲ讀ミ十時消燈ス
今後ノ旅行ノ目的ハ金ノ取引ラシイ 自分ニハ先方ヘノ安心サセル爲メノ同行。ロボット
トナル

秋晴に 晴れ々と仰ぐ 富士の山

到白扇を 眼にあたり見る 秋の富士

▲▼331ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月14日(土)

天気 雨

今日モ又曇ッテ後チ雨トナル

例ノ九時ノ準急ニテ十一時萩原着 二村氏宅ニテ晝食ノ辨當ヲ受ケ後チ町役場ニ行
キ町長外町会議員約十名位ト会社重山氏ヨリ残金貳万貳千円渡ス 前ニ三千元渡シ
テアツタ由 自分ニ一言タノムトノコトニ滑空機用材トシテノ木材ノ必要性ヲ一席話シ
ス 明日町其他有力者ヲ四十七人呼ブトノコトデ其案内ニモ又町トノ協定書ニモ皆自
分ノ名ガ入レテアツタコトハ少シ不愉快デアツタ

二時五十分ニテ高山ニ行ク 島田氏同行 四時過ぎ着 大雨トナル。長瀧旅館ニ入り
後チ角正ノ精進料理ヲ喰ニ行ク 上仲丁度帰ッテ居タノデ呼ブ 姉モ來 ニギヤカニウ
マイ野菜料理デ九時迄過ス

來る毎に 静かにぬるゝ 美野路かな

▲▼332ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月15日(日)

天気 晴

夜中カラ雨止ム 朝キレイニ晴レテ居タ 八時二十分宿ヲ出島田君小坂ニ行ク 自分ハ
村川ヲ尋ネ敬子ノ案内デ公園カラ東山ヲ見物シメインストリートヲ通ッテ国分寺ニ行
ク 途中市長ノ青少年男女ノ閱兵分列式ヲ見ル 国分寺ハ災火(ママ)ノ爲メ現在ノモ
ノハ室町時代ニ出來タモノトノコトデ僅カニ本堂ト三重ノ搭ダケシカ見ルベキモノハナカ
ツタ 上仲ニ寄り十一時駅ニ出タガ島田氏來ラズ ヨッテ敬子ト和井田工場ニ葉方ニ
會ヒニ行ク 工場モ見セテ貰フ 小サイナガラ習フベキ點ガ多カッタ 駅前ニ休息中島
田氏來 丁度時間ガヨイノデ〇時十四分デ帰ルコトス 上仲、村川ノ見送リヲ受ケ
出發 二時萩原着 五時案内ニテ六時ヨリ町長以下三十余名ノ來客ニ島田君ノ挨拶
ノアト自分ヨリ木材ト飛行機ニツキ話シヲナス 八時半土地ノ有力者ノ宅ニ泊メテ貰
フベクニ村氏ノ案内デ引上ゲル

◆◆333ページ◆◆ 昭和17(1942)年11月16日(月)

天気 晴

六時半起床 寒風ハゲシク東京ノ一月頃デアッタ
八時十分小坂着 シバラク待チ九時小坂営林署長ト會見 組合トシテノ立場ヨリ需用(ママ)状態ヲ話シ月九百石程度ヲ高山、小坂、下呂デア出セナイカヲ聞イテ見ル 確答ヲシナカッタガ小坂ダケデ年一万六千石ヲ小坂拂下出來ルノデアアルガ其半分以上ニ渡ルト云フコトハ不可能トノコトデアッタ 先ヅ差当リ一二割程度ノ處ラシイ 日本ノ利益問題ニツイテハ不合理ハ認メルガ今ノ處仕方ガナイトノコトデアッタ 種々懇談ノ上九時五十八分發 帰途ニツク 夜十時半帰宅 湯ニ入り十一時ノビ、ト床ニ入ル 家内トヨシ停留所迄迎ヘニ來テ居タ

◆◆334ページ◆◆ 昭和17(1942)年11月17日(火)

天気 雨

ツカレガ出タガ十時迄眠ル 終日氣持チヨカッタ。ヤハリヨク眠ルノモ必要ダト思フ
工場出 船橋ヨリ上京 清平今朝帰ツタ由
一時事ム所 板垣風ヲ引イテ休ミ

青木ヨリ土地ノコトヲ聞キ足立ヨリ検査ノコトヲ聞ク 三時東日ニ寄り明日ノ中級機懸賞會授與式參列ノコトヲ申込ミ丸ノ内會館ニ行ク 組合理事会ニ出席。値上問題ノ報告アリ 手数料問題ハ下請親會社ヲ親會社ニテ金錢ノ交換ヲナスコト 歩合ハ會社ニヨツテキメルコト 理事会後自分ノ祝賀會ヲ開カル 秋田カラ平田氏、名古屋カラ小泉等モ來テ居タ 宴後グライダーノ歴史ニツキアラマシ話ス 誰レモ知ラナイコトデアッタトテ 十時帰宅 雨ノ爲メ靴ニ水ガ這入ツテ氣持チ悪ルカッタ

◆◆335ページ◆◆ 昭和17(1942)年11月18日(水)

天気 晴

七時前起床 九時出 清平宅ニヨリ同道シテ上京 神田駅デ分レル 自分東日會館ノ授賞式ニ參列 受賞者ノ代理ヲツトメル 午餐後本社ニヨリ肥田木ノ賞金本人ニ送ルコトヲ諒解ヲ得 事ム所ニ行ク。板垣次長今日モ休ミ 夕方青木見舞方々ヤル。富岡課長ニ二三用件ヲ命ジ四時東日行キ 鷺見君ト會ヒ會館デコーヒーヲノミ同君ノ賞金貳百円也包ノマ、渡シ四時半辞シテ帰宅 六時半夕方ヲ終ル
昨日役場ヨリ貯金組合ト高額貯金ノ通知アリ 申込ミ書ニ年額三百円トシ兼ネテ頼マレタ町長ト陣屋ノ生命保儉(ママ)ニ加入スルコトス

▲▼336ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月19日(木)

天気晴

早朝清平來 昨日柳下、長尾会見 發起人ヲキメ自分ニモ依頼ヲ今日出スコトニナツタ
トノコトデアッタ 十時事務所出 十一時頃山崎君來 晝食ヲ共ニス
一時ヨリ局ニ行キ会議ノ爲メ山下君ニ木材ノ件委細話シテ組合ニ行キ誰レモ居ラズ清
和ノ伊藤ガ居タノデ、サンライイングシーラーヲ依頼ス
四時丁度本社ニ行キ役員会ニ出席 終ツテ上森、野村両氏ノ慰勞会ニ出席 九時散会
十時過ギ帰ル 又明日某株主ガ常任ノ重役ヲ招待スルトノコト
板垣夕方出テ來タ

▲▼337ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月20日(金)

天気晴

七時起床 九時工場出 回間呼ビニヤル 藤原昨日大崎警察へ上ゲラレ帰ラナイコトニ
ツキ様子ヲ聞ク。ヨクハワカラナイガ、セツトウ事件ニ関係アリトノコト 今日報告ヲ待
ツコトトス 正午晝食ニ帰り町長、鈴木忠両方ノ妻君來 帝国生命へ徳次ヲ一万円入
レル申込書ヲ渡ス 此度町ノ貯金組合ノ内高額の貯金ニ加入セネバナライノデ平素ノ
義理ヲハタスコトトシテ加入ス 午後再ビ工場ニ出ル 二時再ビ帰宅 同半ヨリ上京 五
時前本社ニツイタガ、非常ニクタブレタノデ今日ノ招待ハ出ナイコトニシテ帰途ハ京成デ
帰ルコトトシ上野ニ出夜店ヲ見テ七時帰宅ス

▲▼338ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月21日(土)

天気晴

六時半起床 九時前事ム所出 間モナク立川ノ山田外一名來 同道シテ津田沼ニ案
内 Y39カバーノ件打合セ 一両日中ニ工員派遣ノコトニ取キメ晝食後帰ル 金ヲヤ
ルベク準備シテ居タガ機会ナクヤレナカッタ
夕方四時帰宅ス

▲▼339ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月22日(日)

天気晴

七時起床 小鳥ノ手入レヲシタダケ
十時ヨリ仁三郎同道上京 清平宅ニヨリ青木ノ祖母告別式ニ行ク 二時丁度間ニ合フ

上野ニテコーヒーヲノンダダケデ帰宅 五時ニナル

今日ハ安岡登ノ日立入社試験アリ 合格セル由夕方分ル

大藪ニ組合其後ノ様子ヲ聞ク予定不在ニテツヒニ會エズ

夜島安博來 今度ノ会社入社ニツキ六ヶ間敷イ意味ヲホノメカシテ居ク

▲▼340ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月23日(月)

天気 曇リ

昨夜中雨ガ降ツテ居タガ朝止ンデ居タ

大藪來 組合ノ仕事ニツキ注意ヲ與ヘ上京 十時過ギ事務所着 今日新事務所ニ引越
シスルトノコトデ荷物ヲ出シテ居タ。間モナク福知君來 藤原ノ事 組合事務今後ノ事
木材ノ件 北海道ノコトヲ福知君ヨリ聞キ高山ノ件ヲ自分ヨリ話ス 正午分レテ淺草
ニ御參リニ行ク 途中本屋デ本ヲ二三冊求メル ヤツコニ晝食 お寺ニ家内ト和子ガ
來テ居タ 今日ハ早ク済ミ五時帰宅ス 京成電車カラ今日買ツタ入(ママ)間ト死(友松
円諦氏)ヲ讀ム

▲▼341ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月24日(火)

天気 晴

七時前起床 散髪ヲナシ野口君宅ニヨル 勝野來テ居タ 三留野ノ件其後ノ模様ヲ聞
ク 鋸ノ据付中トノコト 萩原ノ話シヲナス。新事務所ニ行ク 足立ヨリ神崎ノ報告ヲ
聞ク

前事ム所ニ行キ東君來ルヲ待ツ コレヨリ先キ原田氏來社 待ツテ居タトノコト 明日
十時會フコトヲ東君ニコトツケル。三時東日ニ鷺見君ヲ訪フ 不在 スグ帰宅 途中船
橋宅ニ一寸ヨル 清平不在 長尾京都(行)ツタ由 長野ノ方マダ確シナイ由 ヤハリ若イ
處ガアル

▲▼342ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月25日(水)

天気 晴北風

昨夜徳治帰ル 急(ママ)ガシイ顔ヲシテ居タ

清平ト同道上京ス スグ事務所ニ行ク 十一時過ギ高山ノ平田來 木材入手ヲ困難ノ
事情ヲ聞キ今後ノ方針ヲサツケ晝前帰ル

午後二時ヨリ産報準備會開催 松戸産報ノ成立ヲツゲ四時終ル

四時半ヨリ帰宅入浴 徳治ト共ニ酒ヲノム 二三日前配給ノ五合ナクナル

▲▼343ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月26日(木)

天気 晴

七時前起床 朝食後新聞ヲ讀ム 九時出カケタ處へ島田君來 十時過ぎ迄話ス 工場
出十時半 清平鷺見君來テ居タ Y39脚ニクツシヨシヲ付ケルニ決定 其方法ヲ取キ
メ広瀬ニ設計ヲ命ズ 試験場ノ川島航空官來 三型ノ修理調査
二時過ぎ清平鷺見氏ト帰宅 新会社ノ事ニツキ清平ヨリ狀況ヲ聞ク 夕方鷺見氏帰
ル 兄來 夜下ノ宅ニテ牛肉ニテ会食ス
夜來栖大使ノ帰朝後初メテノ昨年ノ今月今日米國ニ於ケル交渉狀況ノ報告演説アリ
録音ニテ聞ク

▲▼344ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月27日(金)

天気 晴雨

今日ハニワカ雨アリ

九時松戸第二分室出 鈴木ニ立川職工ノ件脚用材ノ件、グライダーノ件話シ石倉ト
分室ニ行ク 十一時本社ニ行キ配當金ノ受領証印ヲ捺シタルモノ會計へ返ス 十一時
月分給料受取ル
川田少将ノ招待ナリトテ社長両専務、自分板垣瑳我野料亭ニ行ク 初メテデアッタガ
中々高級ナ家デアッタ。新橋ノ美人三人來 土ビニテ酒モ一ワタリ出ル 御馳走モ
中々沢山アッタ 二時終ツテ帰社 富岡ヲ連レテ局工務課ニ行ク 建築資材ノ件 自
分ハ別ニ関口、並ニ北浦氏ニ高山小坂萩原ノ件クワシク話シ來月誰レカ行ク様話ス 考
慮スル由 終ツテ安岡稔体格不合格ノ爲メ明後日學科受ケラレナイノヲ兎ニ角受ケサ
セテ貰フコトニシテ通知書ヲ貰ヒ帰途安岡宅へ渡シテ居ク 今日醫者行カナカッタ由
明日學校休ンデモヨイカラ行ク様命ズ 今月ハ仕事ガ出來ナカッタノデ七十円ヤル

▲▼345ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月28日(土)

天気 晴

六時半起床 八時出 九時松戸着 富岡外一名トタクシーヲヤトヒ行ク 工場ニヨリ
富岡ト二人百〇五部隊ニ工場ノ説明ニ行キ諒解ヲ得飛行場拡張計画ヲ聞ク。協会格
納庫モ立テラレナクナッタ由 終ツテ第三期中央乗員養成所操縦生卒業式ニ参列 ア
ザヤカナ飛行演練ヲ見式ニ入り終ツテ十二時半ヨリ食堂ニ入ル 二時近ク終ル 工場ニ
行キ頼ンデ居イタ自動車三時近ク來 自分ハスグ帰宅ス 四時
早ク床ニ入ル

友松円諦氏ノ人間ト死ヲ讀ミ終ツタノデ今日應召ニ出發シタ浜野ニ餞別五円ト共ニ

右ノ本ヲ贈ル

▲▼346ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月29日(日)

天気 晴

六時起床 朝食後七時ヨリ成田山参拝ニ行ク 二ヶ月程参ラナカッタノデ今日ハ特ニ稔ノ受験ヲ御願ヒス 行キニ電車故障デ遅レ帰ッタノハ十一時デアッタ
晝食後仁三郎ヲ相手ニ佛手柑ヲ入レル小屋ヲ作ル 四時頃出来上ル
藤原、廻間同道挨拶ニ來ル 丁度一週間行ツテ來タノデ責任ヲ取ツテ組合辞任スルト
ノコトデアッタ

▲▼347ページ▲▼ 昭和17(1942)年11月30日(月)

天気 晴

六時四十分起床 八時工場出 自動車修理ニ行ツテ居ラズ徒歩停留所ニ行ク 十時五十分新橋事ム所着 立川工員ノ件 其他二三用件ヲ終リ第一分室ニ行ク 各課長ノ採點板垣君ノヤッタノニ同意ス。福知氏會ヒタイトノコトニ組合へ行ク 十二時半不在ニツキ觀音様ニ行キ終ツテ三時組合ニ再ビ帰ル。藤原ニ辞職シテ貫ヒタイトノコトデアッタガ昨日本人カラ辞職ノ申出アッタ旨話ス。木材ノ件話ス 長田事務官來 木材ノ話シヲナシ特ニ高山一本立ハ不可 二本立ニヤルベキコトヲ強調ス 五時半帰ル 途次安岡ニヨル 昨国語理科全部出来タガ算術ガ五題ノ中二題シカ出来ナカッタトノコト鼻ハ蓄腦(ママ)デナイトノコトデアッタ
鹿児島ノ汎東亜工業ノ新築祝招カレタガ行ケナイノデコトワル

▲▼349ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月1日(火)

天気 晴少曇

六時四十分起床 今日ハ終日津田沼 九時工場出
正午帰り 二時工場出 四時帰ル
午前羽布使用量報告書原稿作り 午後青年學校調査
午前菊池ノ兄ヨリ身分ガ一ヶ月以上ニナツテマダキマラナイカラキメテ呉レ、午後ハ白砂ガ今日カラ出張ヲ取消シ本社ニアツテ出社スルコトニナッタトノコト 聞カヌデモナイガ少々行き過ギノ様デアアルノデ調査スルコトトス

▲▼350ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月2日(水)

天気 晴

六時二十分起床 船橋ヨリ上京 ソレヨリ先キ参吉ニ松岡ノ餞別届ケル様事傳ル
九時半第二分室ニ行キ間モナク事ム所ニ行ク 出張者問題注意ヲ與テ居ク 正午組合
ニ行キ島田ノ申出ニ対スル書面下書キヲ作ル
初メテ益田ノ事ム所ニ行ク 柳下氏ヘ行ツタ長尾君間モナク帰ル 大坂ニテ一人デ全額
引受ケテ呉レタトノコト 名前ハ云ワナカッタ 發起人ノ名モ大体キメテ居タ。陸軍省ヘ
一時ニ行クトノコトニ分レテ清平ト晝食ヲ共ニシ局ヘ農林省ノ許可ノ出タ札ニ村上氏ト
補給課ニ行ク 森川航空官ヨリ森本ノ件話シアリヤルコトニキメタ旨返事ス
二時半本社ニ行キ三時半ヨリ次所長会議 主トシテ賞與ト昇給問題 次ギニ戦時手
當約一割程度ノ出ス件ニツキ議論ヲタ、カワシ五時半終ル

◆▼3551ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月3日(木)

天気 晴少曇リ

六時起床 七時半出 船橋ヨリ乗車 丁度時間ガヨカッタノデ、スグ乗ツタガ鎌ヶ谷迄
シカ行カナイ車デアッタノデ鎌ヶ谷ヨリ徒歩ス 丁度五十分カ、ル 九時十分工場着
十時頃今里一行來 十時半地鎮祭ヲ行フ 終ツテ 自分ハ足立工場ニ行キ青校ノ状況
ヲ調べ立川ノ部品ヲ見テ三時ノ定期デ帰ル 京成ニテ帰ル 帰途野口君ニ一寸立寄り
安岡ニヨリ來月第二回ノ体格検査アル迄ニ鼻ヲ直シテ居ク様通ジル

◆▼3552ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月4日(金)

天気 晴後少雨

六時半起床
工場出 ガンリンナク待ツ 十一時自動車ニテ縣庁ニ行ク 営團ノ松井氏ニ會フ 農務
課ニ農地變更許可書ノ札ニ行ク 不在 名刺ヲ預ケテ帰ル
十二時半千葉発 二時航空局ニ行ク 一島航空官不在 加古氏二十一日三田浜樂園
差支ナキ旨返事ス 三木部長ニ會ヒ安岡ノコトタノミ奈良原氏養子ノ野村氏ノコトモ
依頼ス 今愛媛ノ養成所ニ操縦課長ヲシテ居ルトノコトデアッタ
奈良原氏工場ニテ久シ振リニ會フ
夕五時過ぎ追事ム所ニ居ル

◆▼3553ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月5日(土)

天気 晴

六時半起床

航空局直行 京成ヨリ大藪同車ス
工務課ニテ富岡課長ニ會ヒセメント、電線ノ件 物動、建設ニモ行ク
終ツテ十時頃福知氏來 初級機原價ニツキ算定 基礎ノ説明ヲ求メラレ十二時半迄
カ、ル 反ツテ材料代ハ多クナツタ
第二分室ニ行キ職員賞与ノ點數表ニ最後ノ採點ヲ行ヒ本社ニ持參セシム。局報告ノ羽
布使用量調査書原稿ヲ渡シ作製ヲ命ズ 二時半出ル 組合ニヨル 清平ニ會フ 四時
半帰宅

▲▼354ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月6日(日)

天気 晴

家内ハ和子ヲ連レテ海浜學校へ下見ニ行ク爲メ七時過ぎ出ル 夜七時半頃帰ル スデニ
満員ダガ過己ノ実績ニヨリ入レテ貰フコトニナツタトノコト
仁三郎ハ立体戦ヲ多摩川へ見ニ八時半出ル
自分モ同時刻工場ニ行キ自動車ニテ東京ニ直行 社長宅ニ石ト魚ヲ贈リ本年ノ礼ヲ述
べ東亜輕飛行機ノ發起人ニナル件快ヨク承認ヲ得 尚重役ニ這入ル場合株券ハ金ヲ出
ストノコトデアツタ
守屋課長訪問 日曜タノニ役所ニ行ツテ居ルトノコト 予算ノ爲メダロウ。木下耶麻次
君訪問 丁度宅ニ居タ 種々礼ヲノベ一時間程話シテ帰ル 五時 之レデ少シ氣ガ楽ニ
ナツタ

▲▼355ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月7日(月)

天気 晴

朝清平來 明日一日應召(在郷軍人会)ニツキ国民服ヲ貸ス 共ニ出ル 役場ニヨリ發
起人ニ必要ナ印鑑証明ヲ貰フ。野口君ニヨリ青年學校ノ主任トナルベキ人ヲ聞キ合ス
丁度千葉中ノ劍道ノ先生デ他ニ出タイ希望者アルトノコト 実情ヲ聞クト、スベテヨサ
ソウデアツタノデ交渉ヲ依頼ス
十一時事ム所着 板垣本社ニ居タノヲ呼び東亜輕飛行機發起人トナルコト、青年校主
任ノコト其他二三話シテ十二時半出 組合ニヨリ晝食後浅草ニ御參リニ行ク。終リニピ
ルマカラ帰ツタ向島ノ向福寺住職ノ話シガアツタガ下手ノ上ニ内容ガツマラヌノデ帰ル
人が多ク氣ノ毒デアツタ 最後迄聞イテ帰ル

▲▼356ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月8日(火)

時事 大東亞戰一週年

家内ハ五時半カラ學校ヘ行ク 和子モ仁二郎モイツモヨリ一時間早く出ル
自分ハ八時工場デ生死ヲ賭シテ生産ニ従事スベキコトヲ述ベル
富岡課長ト八十七部隊ニ行ク 今日ハ隊長ニ会フ 鉄道ハ移轉サセテモヨイトノコトデ
アツタノデ更ニ研究ノ上回答スルコトトシテ帰ル
十二時半ヨリ浅草寺ヘ行キ戦ボツ者ノ慰靈法要ニ参列後司法次官大森氏 讀賣新聞
講演部長ノ講演ヲ聞ク 七時帰宅 帰リノ電車コンデクタブレタ
本日ヨリ食事ノ前後ニ頂キマス御馳走様ト云フコトニキメ且ツ食事ニ不平ヲ一切云ワナ
イコトニ家族一同ト共ニ取キメル

◆▼357ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月9日(水)

天気晴

七時半鈴木來 作業ノコト打合セアリ 九時工場出 飯塚佐藤ニ鈴木ニ翼ヲヤラセルコ
トヲ話シテ居ク 船橋ニ寄り兄ト同道上京 組合ニヨリ福知氏ニ會フ 理事長ノ件ニテ
福知氏本庄氏ニ會フベク連絡中デアツタ 明日會フ予定 美津濃氏ハ諒解シタラシイ
生田モ自身(ママ)アルトノコトデアツタ。ソレヲ聞イテ局ニ長田氏ヲ訪問シタガ正午迄
帰ラズ 一先ヅ事ム所ニ行 一三処理スベキモノヲスマセ、本社ニ行キ賞与額ノ査定ヲ見
テ再ビ局ニ長田氏ト会見 ヤハリ理事長問題デアツタ 一兩日中ニ大体ノ事キマル旨答
ヘテ組合ニ行ツタガ福知氏居ラズ 四時秋葉原発 帰ル 北風強ク寒シ

◆▼358ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月10日(木)

天気晴

今朝ハ寒サ今年初ノ厳シサデアツタ
九時過ギヨリ自動車ニテ松戸ニ行ク 富岡ト会フ 百五部隊ヨリ出頭ヲ命ジテ來タト
ノコトニ同道ス 森少尉ニ会フ。初メノ建物ガジヤマニナルカドウカヲ飛ンデ見ルカラ建
物ノ大キサニ布板デ示シテ呉レトノコトデアツタ 結果ハ十二日午後聞キニ行クコトニキ
メル 工場ノ内外調査ノ上ニ二時頃タクシーヲ呼ビ帰途ニツク 三時事ム所着 四時過
ギ職員一同ニ賞与ヲ渡スニツキ一寸挨拶ヲ行フ 五時ニテ帰ル 六時半帰宅 徳次ト
同主人來テ居タ 自分ノ帰リヲ待ツテ居タトノコトデ入浴後食事ヲ共ニス 九時一寸
前帰ル

◆▼359ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月11日(金)

天気晴

今日ハヤ、アタタカデアツタ 七時半恵美子徳次ト共ニ上京 スグ本社ニ行キ百五部ノ

模様ヲ畑氏ニ話シ新橋ノ事ム所ニ行ク 次長來 十一時頃福知氏ヨリ電話アリ組合ヘ行ク 会社本莊氏ニ会ツタガ、ダメダッタトノコト 夕方生田ニ会フコトニキメ三越ニヨリ戸車ヲ求メ田村町ノ事ム所ニ帰り四時過ぎ辻富岡ト養成工ノ件、機械作業ノ件等打合ス

四時半第一ホテルニテ福知君生田君ト會見 生田讚(ママ)成ス ヤレ、之レアドウニカ形ガツキソウダ 福知氏ト銀坐へ出テ夕食ヲ共ニシ九時帰宅 勝野ガ來テ居テ神崎ヲ退メルコト野口君ニ話シタラシカラレタトノコトデアッタ

◆◆360ページ◆◆ 昭和17(1942)年12月12日(土)

天気 晴

八時半工場出 局養成課員ノ今日三田浜樂園ニ來ルノデ酒其他ノ手配ヲナシ工場自動車ニテ上京ノ途次樂園ニト、ケル 酒一升六合 焼酎五合 白米一升五合 丁度おこうさんガ居タノデヨク頼ンデヤル

藝者式名寄附スルコトス

出ル前島田君來 組合証明ノコト頼マレル

本社ニヨリ十一時丸ノ内会館ニ出席 清水、飯國、生田、本庄、水野、出席 福地氏ヨリ値上問題陸軍問題ノ報告後理事長問題ニ入り福地氏ヨリ話シタニ対シ誰レモ發言シナイノデ自分ノ私見ヲ参考トシテ述べツヒニ清水氏理事長問題モ半年振りデ確定ス 午後三時ヨリ工員募集會議ヲ課長以上ニテ行ヒ方針ヲ定ム

二時過ぎ大蔵清三來 一時間程話ス 少佐ノ軍服デアツテ來タ

◆◆361ページ◆◆ 昭和17(1942)年12月13日(日)

天気 晴

七時起床 今日ハ朝夕観音經ヲ讀ム

十時半ヨリ和服ニテ千葉ニ出カケル 並木ニテ正午野口君ト共ニ利根川氏ニ會フ 年配モ相當デアアルシロ振りデハ大分張切ツテ居ル様デアッタノデ御願ヒスルコトトシ給與ハ本給百七十円デ月収弍百五十円位ニナル様ニスルコト 一月カラ囑託トシテ建設事務ヲヤツテ貰フコト 四日カラ來ルコト等ヲキメル 履歷書ハスグ宅へ送ツテ貰フコトトス 帰宅後盆栽ヲ二三手入レシ今年ハ浜勇(ママ)ニワラガキセル

惠美子夕方脈ガ早クテ苦シイカラ醫者ヲ呼ンデ呉レトテ一寸驚カサレタガ大シタコトハナサソウデアッタ

◆◆362ページ◆◆ 昭和17(1942)年12月14日(月)

天気晴

恵美子病氣欠勤 布施醫師ニ電話ス 夜デナイト行ケナイトノコト

八時半工場出 今日ハ第一空廠ノ森大佐來ルトノコト 畑専務モ來ル由 會ツテ呉レト
ノコトデ十時頃來ルヲ待チ挨拶ヲシテ十一時発松戸ニ行ク 百五部隊ニテ森少尉ニ會
フ 午後三時頃写真眞ガ出來ルトノコトニ待ツコトトス 其間養成所へ早瀬ヲ連レテ行キ
一型ト九〇ノスケッチヲサセル 山下、浦川、甲斐三課長ト會談ス

帰場後飛行場ヨリ工場迄ノ巨(ママ)離ヲ計ル 飛行場ヨリ約二百米 格納庫ノ北端ヨ
リ丁度式百五十米デアッタ

二時半森少尉写真眞ヲ持ツテ工場迄來ル。地圖ト変リナカッタ。明日航空軍主計部長
十一時ニ來ルカラ相談シタイトノコトデ會見ヲ約ス

帰途船橋ヨリ右事ム所へ報告 富岡氏モ來ルコトトシテ夕食 牛肉ガアッタノデ馳走ニ
ナリ帰宅 六時半

徳治突然帰ル 松原ノ主人ガカナリヤヲ買ツテ呉レタトノコトデ持参ス。エミ子心臓カ
ツケラシク中耳炎ノナリカケデモアル

◆▼363ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月15日(火)

天気晴

朝青仙來 クラブノゴム印ト用印ヲ持ツテ行ク

アトへ勝野來 昨日製品持ツテ來タ由

九時出 金町廻リ松戸ニ行ク 車中富岡ニ會フ 十一時空軍主計大佐ニ會見 氣ノ毒
ダガ軍ノ要求ニ従ツテ貫ヒタイ、クワシクハ小松原現隊長ト協議シテ呉レトノコトデアッ
タ 尚今日ハコレカラ行事ガアルトノコトニ再會ヲ約シテ帰ル ドウモ格納庫へ変ヘナケレ
バナラナイ様子デアッタ 一時半自動車迎へニ來 スグ帰り工場ニ一寸行ク 星野氏ノ
希望デ不用プロペラヲ出シテヤル

恵美子和孩子二人共ヤスム

◆▼364ページ◆▼ 昭和17(1942)年12月16日(水)

天気晴

鈴木菊雄來 作業ノ件

八時出 十時半事ム所第二分室着 十一時第一分室行 静岡ノ鹽地來 グライダー
製作ニツキ意見ヲ求メラレ注意ヲ與ヘル

二時頃信田君來 二時半ヨリ目黒ノ太田ニ行ク 三時過ぎ着 四時半頃迄居ル 恵美
会ノ事打合せ工場ヲ見セテ貰フ 大分立派ナ家デアッタ 工場ニ数多ノ機械ガアルダ
ケデアッタガ僅カノ人間デ、ヨイ仕事ダ。駅前送ツテ呉レル 途中東亜輕飛行機ノ株

二三百買ツテ貰ヒタイコトヲ話ス。照井ニプラグノ仕事ヲヤラセルコトニシタノデ十五
万円程銀行デ融通スルコトニシタトノコトデアッタ
七時帰宅

利根川先生ヨリ履歴書來テ居タ

▲▼365ページ▲▼昭和17(1942)年12月17日(木)

天気晴

早朝清平來 角ヲ呼ブ 昨日須坂ノ工場モ決定シタル由 今夜長尾ト二人デ須坂へ出
張スル由 午後行ク様ニ話ス 九時出 松戸ニテ富岡ト一所ニナリ工場ニ行ク 百五部
隊午後三時ニ帰ルトノコトソレ迄休ム 富岡ハ鉄道ノ変更線調査ヲナス 二時半ヨリ
行ク シバラク待チ小松原中佐ト会见 変更圖面ヲ提出 諒解ナリ覺書ヲ作ルコトト
ナリ草稿ヲ森少佐ガ作ツテ呉レタ 一兩日中ニ清書スルトノコト 四時十五分ノバス少
シ遅レテ來 帰ル 五時帰宅 今夜久シブリデー一人デ羊ナヘ 白廉(ママ)ガ大變ウマカッ
タ 昔稲毛ノ下宿時代ヲ思ヒ出ス

寒月や 羽音かすかに 鳥渡る

▲▼366ページ▲▼昭和17(1942)年12月18日(金)

天気 曇リアク

終日日ヲ見ズ 寒イ日デアッタ

七時過ぎ起床 工場出ガケニ上岡ニヨリ恵美会ノ話シナシ毎日酒ナド貰フノデ寒梅ノ
軸一本ヲ贈ル

工場出 十時駅ニ行キ大藪ガ來テ居タノデ同行シテ八十七部隊ニ行ク 荒蒔大尉ニ面
會 線路変更ノ件話ス 部隊長差支アリ相談シテ居クトノコトデ月曜日行ク約束シテ
事ム所ニ行ク 川畑氏上京中トノコトニ電話ス 風ヲ引イテ寢テ居ルトノコトデアッタ
月曜日會フ約束ヲシテ第二分室ニ行キ次長ト會ヒ利根川氏ノ履歴書渡ス 井上武三
郎氏來 少シ話シテ帰ル 組合ニヨリ五時半帰宅ス

▲▼367ページ▲▼昭和17(1942)年12月19日(土)

天気晴

七時起床 九時半工場出 十時過ぎ試験場ヨリ岩本氏外一名來 Y39ノ予定並ニ
文部省型ノ生産計画ヲ話ス 企画ノ裏木、検査ノ白砂、参吉列席セシム

正午ヨリ上京 第一分室ニ行ク。夕方ヨリ會議ノ予定工作課長帰ラズ中止 松戸ヨリ

足立來 同所ノ問題ニツキ協議ス
本社ヨリ電話アリ行ク お歳暮トシテ先月ノ賞与ト同額受領ス 七時過ぎ帰宅
北風強クナリ寒クナル

▲▼368ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月20日(日)

天気 晴

七時過ぎ起床 小鳥ノ手入レ後工場ニ行キ村山ニ午後改造家屋ノ材料調べニ來ル様命
ジ木村課長ニモ借リルコトヲ事ワツテ來タノニツヒニ來ナカッタ
清平朝來 終日新会社ノ書類ヲ作ツテ居タ
午後鷺見君ト吉野、提橋來 夕方帰ル 鷺見君夕食シテ帰ル
昨日井戸ノポンプ、コワレ今日修繕ニ來テ呉レタノデ助カッタ
午後正月旅行ノスケヂユールヲ作り後チ盆栽ヲ土地ニ生ケル

▲▼369ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月21日(月)

天気 晴

七時起床 九時工場出 十時八十七部隊へ大藪同行ス 局ヨリ來隊シタル由ニテ其爲
メ局、百〇五部隊等共ニ協議シヤレトノコトデアッタガ、ソレデハ遅クナルノデ原案ヲ諒
承サレタイ旨依頼シ局ノ意向ハ今日聞イテ明日回答スルコトトス 第一ヨリ第二分室ニ
行キツヒデニ先日來見タ本函ヲ求メ大和運輸ニタノンデ貰フコトトス
三時半胃腸病院ニ佐々木利吉郎氏ヲ見舞ニ行ク 四時有野氏來 会见 四時半ヨリ、
川畑氏ト今朝ニテ夕食ヲ共ニス イノシ、ガアッタ。太田善藏電報デオンダトノコト今
日來タ由 グライダーニツキ教ヘ貰ヒタイトノコトデアッタ 銀座ヲ散歩シテ九時帰
宅

▲▼370ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月22日(火)

天気 晴

七時半起床 八時鈴木ト太田來 太田ヨリ九時頃迄鹿児島ノ状況ヲ聞ク 軍デ大分
カコブヲ入レテ居ルラシイ
十一時ヨリ工場出 自動車ナク帰宅 晝食後徒歩八十七部隊ニ行ク 二時半ニナル
荒蒔副官不在 三時半頃帰ル 部隊長ニモ會フ 漸ク隊ノ諒解成リ協議ノ決(ママ)果
明日軍ノ計理へ隊ノ熊谷少尉ト同道スルコトヲ約シ上京 本社ニ行ク 専務帰ッタアト
デ會エズ。東氏ニ栄助ノ件速カニ解決スル様話ス 川畑ニ電話シタガ不在。日比谷ノ書
店ニヨリ來年度ノ日記帳ト聖徳太子傳ヲ求ム

▲▼371ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月23日(水)

天気 晴夜雨

六時半起床 八時工場出 自動車居ラズ 途中ヨリニテ會ヒ九時十分前八十七部隊着 熊倉少尉同道東部軍司令部ニ行ク 初メハ絶対ニ移轉不可能ノ様子デアッタガ遂ヒニ、ソレデハ願書ヲ出セト云フ處迄行ツテホットシタ 十一時半終了 晝食後十二時過ギ本社ニ行ク。長島辞表出シタ事ヨリ戸田、星野デハ人心ヲ収攬シ得ナイノデハナイカトノコトデアッタ 其爲メ今カラ津田沼へ様子ヲ見ニ行クトノコトデアッタ 第一分室ヨリ願書提出様式ヲ富岡課長ニ渡シ第二ニ行キ営業関係ニ三話シヲ聞キ、三時半紀ノ国屋旅館ニ川畑太田ト會ヒ五時交詢社ニ東亜輕飛行機ノ發起人会ニ出席 初メテ益田柳下氏ニ會フ 四王天上原氏モ來 書類ニ記名捺印シテ七時出ル 津田沼ニツイタラ雨ガ降ツテ居タ

▲▼372ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月24日(木)

天気 雨

夜來ニ雨シト、ト降ル

六時起床 七時二十分出 九時本社着 十時頃利根川氏ヲ畑、板垣、赤坂、清水氏ニ照(ママ)介 本給一五〇、月給二五〇位トシテ話シ進ム
石倉俵木同道局へ行ク 村上氏ニ第二回拂込徴収ニ関スル書類提出 工事概況ヲ話ス。飛行場問題ニツキ小島氏ニ説明 ツヒデニ安岡ノコト聞ク 心配イラヌトノコトデアッタ ノデー任 安心ス。補給課森川氏ニ會見 現況報告 石倉君照(ママ)介ス 終ツテ獨リ八十七部隊ニ行ク 昨日ノ禮ヲ述べ実測ニ関スル打合セヲナシ、野口君ニヨル 岐阜ノ川井氏ト出カケタトノコト 三時帰宅ス

▲▼373ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月25日(金)

天気 晴

七時前起床 工場ニ行ク。島安博來 就職ニツキ相談アリ 野口君自宅ニ來 帰ル川井氏昨日來 三都(ママ)野ハヤメ坂下デ町自体ガヤリタガツテ居ルトノコト 今日午後二時發デ行クカラトノコトデ方針ニツキ相談ヲ受ク
十一時出 第一ニヨリ鉄道ノ件 次長富岡ト打合セ 第二ニ行ク 日旗ノ福岡工場長來 次長、畑、氏モ來ル
四時ヨリ川畑訪問 川畑氏ヨリ会社ノ方針ニツキ相談ヲ受ク 自分ノ考ヘヲ話シタガ 何ンダカ氣ノ毒ニナツタ 誰レカ相談相手ヲ見付ケテヤリタイモノダ

六時半帰宅。徳治ト共ニ夕食ス 青仙來

▲▼374ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月26日(土)

天気晴

八時半出 自動車ニテ八十七部隊ニ行キ斎藤少佐ニ會ヒ測量ニ立會フトノコトデ日取リ知ラセル約束シテ工業學校ノ卒業式ニ参列 十一時半終了 営團ノ家ヲ見ル 大分スデニ人ガ這入ッテ居タ 電気モ昨日カラ、ツキ初メタトノコトデアッタ 其足デ船橋ニ行キ例年ノ通り松下氏へ蛤ヲ送ル

帰宅シタラ、ヨシ二人デアッタ 大工來タノダガ仲間同志デ折合ワズ帰ッタトノコト 午後二時ヨリ四時工場ニ行ニ居リ(ママ)事ム所へ朝ノ件電話シ飯塚ヲ呼び工場方針ニツキ語ル。ドウモ頼リナイ男ダ

八木下ヲゲケレイス 大分感激シタ様デアッタ

長島ニ會フ 池松トノ折合ガツキソウニモナイノデ止メルコトヲ承認シ其旨戸田氏ニ話シテ居ク

▲▼375ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月27日(日)

天気晴

七時起床 朝食後散髪シテ小鳥ノ手入レ後十一時工場ニ行ク 東京事ム所ト連絡

八十七部隊立會ノ件

大工ニ名來 材料不足工場ヨリ貰フ 酒ノ配給アリ

夕方清平來 明日東京事ム所へ行クコト 参吉ヲ呼び本月ニテ止メル者ノ打合せヲナス 午後ニワトリ小屋ノ網ノヤブレタ處ヲリブ材ニテ、格子ヲ作ル

夜太田善藏ヲ呼び川畑氏今日一時ニテ帰ッタコトヲ聞ク

▲▼376ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月28日(月)

天気晴

昨夜ハ大工ニ時迄ヤッテ居タ 今朝ハ五時カラ初メル 今床張リト台所ハ一通リ出來タガ井戸ノポンプヲ上ゲルノヲ素人ガヤッテ落シタノデ、ポンプヤヲ迎ヘルヤラ大サワギシタ由

八十七部隊斎藤少佐ニ明日十時松戸へ測量立會ニ來テ貰フコトヲ打合せ上京 十一時東亜事ム所ニ行ク 上原、柳下両閣下ト会见ス 局ガ陸軍ニ対シテ変ナコトヲ云ツタノデ陸軍ガ進行シナイトノコト 鷺見君其爲メ局へ行ッテ長田氏ニ會ッテ來タトノコト 晝食後上原氏ト鷺見、清平陸軍へ 自分局へ挨拶方々行ク。工務課全部ト総務課長ニ

會フ 守屋氏ハ東亜ラインチキダト陸軍デ云ツテ居タ ドチラデ云フノガホントカ分ラ
ナクナル。木材ノ件ニテ高山一本デヤルカラ他ハ認メナイトノコト 守屋氏特ニ強調シ
テ居タガ自分ノ意見トシテハ二本立ヲ要スル旨述べテ居ク 第一第二分室ニ行キ本社ニ
ヨリ給料ヲ受取り七時帰ル

▲▼377ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月29日(火)

天気 晴

八時出ル 途中清平ニ會フ 車中昨日陸軍へ行ツタ話シヲ聞ク 柳下氏ノ云フ様ニ陸軍
ハ援助シナイ方針ダトノコト 当方守屋氏ノ話シヲス

九時半松戸着 マダ自動車來ナイノデ職業指導所ニ挨拶ニ行ツタガモウ今日ハ誰レモ
居ナカッタ 途中野口菊治氏ニ會フ 少シ立話シヲス 十時迄待ツタガ來ラズタクシー
ニテ行ク 誰レモ來ラズ測量モヤツテ居ラナイノデ命ジテ食事ニ出カケタラ齋藤少佐來
同道シテ松戸ニ食事ニ行キ一時半終ル 大藪今來タ處ダトノコト。測量ダト云ツテ卷
尺一本持ツタダケデ何ニモ出來テ居ナイノデ齋藤少佐ニ対シテキマリ悪カッタ 結局
春早々隊ノ方デ測量シテ呉レルコトナル

帰途船橋ニヨリ兄ヘノ渡ス金下節子ニ心付例年ノ通り二十円渡シテ帰ル。マダ台處出
來テ居ナカッタ 見タ處今日ハ仕事ハチツトモ出來テ居ナイ ポンプ屋三四十円カゝル

▲▼378ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月30日(水)

天気 曇リ

七時起床 工場出 九時松戸工員一同年末ノ挨拶ヲ行フ 職員一名モ居ラズ終ツタ
處へ飯塚出社ス

鷺見君赤紙來 十日入宮トノコトニテ日本橋ノ事ム所ニ行ク 誰レモ居ラズ田村町事ム
所ニ出社 富岡ニ昨日ノ不準備ヲ話ス 正午清平來 飛行館ニテ鷺見ト會食 應召解
除方法ニツキ協議 結局柳下氏ニ依頼スルコトトシ後刻電話ニテ柳下氏ト話ス

午後二時ヨリ課長會議 六時終ル 七時過ギ帰ル 関西旅行ニツキ巡拝券購入出來タ
ガ九時ノ急行券買ヘズ十時ノ普通急行ニ變更ス

夜佐藤孝吉來 朝鮮ノ話シヲ聞ク

▲▼379ページ▲▼ 昭和17(1942)年12月31日(木)

天気 晴

夜風が出タ 明日ノ初日ノ出ハヨロシカロウ

船橋へ晝食後買物ニ一寸行ク 帰ツタラ大工ガ待ツテ居タ 二日カラ仕事ヲスルトノコ

トニ、ヤリ方ヲ頼ンデ居ク
角二一日ノ急行券タノム 買ツテ來テ呉レタ
今年上半期悪ク下半年順潮
最大ノ事項ハ伊藤飛行機ノ名稱ノ消滅 チブスヲ病ンダコト
物質的ノ心配ガナクナツタコトハ名稱ノナクナツタ代償ト見ルベキカ 幸ニ世人ノ同情ト
引立アリ 明年ヨリ新ラシキ考ヘノモノト国家ニ御奉公申上グベキナリ

◆◆380ページ◆◆ 補遺

(65ページから続く)

三月一日

午後間廻(ママ)君來 組合ノ事大分様子ガワカッタ 協会ノ方大藪ガヨク行ツテ居ルト
ノ事 明日出ガケニ最(ママ)非立寄ル様ニ事傳ル。
仁三郎、田久保來 四時過ぎ歸ル
廻間君ノ話シデ星野氏ノ私用ノ件ニ栗林フンガイ 止メタイト云ツテ來タトノ事ニ
之レハイケナイト考ヘ夜星野総務宛手紙ニテ注意ラウナガス

玉子に感謝す

統制をしり目に玉子の 押寄する
好意にて 寄り集まりし 玉子かな
生玉子 流動物に 護守られる
吾が生命 護り通せる 玉子かな

◆◆381ページ◆◆ 補遺

(65および66ページから続く)

生玉子 流動物の まづさかな

いり玉子 おまじり二分に 蘇生する
黄身のみの 茶碗むしも 又うれし
今日よりは 白味もよいと よろこばせ
朝二つ 晝二つ三つ 夜二つ

有難や 黄金佛に せめらるゝ

三月二日

本年度初年工養成ニ関スル方針 グライダーハ入レル事絶対的ナルコトヲ話シ根本方針ヲ示スカラ俱体案ヲ作ルコトヲ話ス 二時半ヨリ加給制度ノ会議ガアルトノコト二一時十五分帰ル。産報ヨリリングゴ石油箱ニ七分程贈リ來ル(宇賀持参) 個 ミカンサエナイ菓(ママ)物拂低(ママ)ノ

◆▼382ページ◆▼ 補遺

(381ページから続く)

時ヨクアツメテ呉レタ 丁度無クナツテ來タ處デアッタノデ有難カッタ
大藪本日モツヒニ來ラズ

入院以來ヨク、ナグサメテ呉レタ「カナリヤ」ガタ方死ンダ 一三日前猫ニシツポヲカジラレテ以來元氣ガナカッタガ、誰レカ死ナナケレバナナイ運命ニアッタトシタラ此際此カナリヤガ犠牲ニナツテ呉レタ様ナ氣ガスル

今日ハ妻ノ熱モ三十六度八分ヲ最高ニ午後ノ四時デサエ六度六分トナッタノデイヨ、平熱トナッタコトガ分ツタ 自分ノ検便モ無菌ト云フコトニ決定 イツ退院シテモヨイ宣言ヲ受ケル。コンナヨロコビノ中ニ一人淋シクカナリヤハ行ツタ

待わびし 妻の微熱も 今日取れぬ
検便の 知らせも嬉し きんも無し

◆▼383ページ◆▼ 補遺

(382および72ページから続く)

病中を 慰めくれし あゝカナリヤ
カナリヤが 犠となりしか 吾々の
よい事の 中にカナリヤ ひとり逝く

今日ロウカヲ三回一時間オキニ散歩ス ローカノ長サ八間 四往復ニテ一丁ナリ 第一
回一丁 第二回一丁 第三回一丁半

ろうか行く 歩みも歩毎に 力つく

散歩して むねすく腹すく 八ツをすく

昨日以來今日モ便通アリ 此調子ガ永ク續イテ呉レレバ幸

此頃は 順潮に行く 下の道

三月八日 日曜日

昨日病院デ退院前日ニ採血シテ貰ツタ決(ママ)果ニヨルト古イ毒ノ方モナイトノ事

わづらいの 元たへにけり 五二の春

▲▼384ページ▲▼ 補遺

(383ページから続く)

三十年の なやみも取れて 春清し

脈もよく 下痢も直りて チブス様々

酒でなく 充実したる 下っ腹

右二句ハ八日初入浴ノ時気付キタル時ノ一句

初入浴

気に入た お湯のぬくみや 春がすみ

湯上りや 何にたとえん 此心地

之れも又 希有の事なり 長湯かな

春の湯に 六十日のあかを 流すかな

初外出

春かへる お礼参りや 初歩み

今更に 白帆ニ青き 春の海

▲▼385ページ▲▼ 補遺

(384および207ページから続く)

重二の結婚を祝して

かわり行 世界と共に 新家庭

七月十七日

二時工場工員全部ヲ食堂ニ集メ自分ヨリ話シテ呉レトノコトニ会社名議(ママ)変更ノ件ヨリ工員ハコノマ、引繼グ方針ト給与規定変更ノ用意アル旨ヲ話シアト畑氏ヨリ同様ノ話シアリ 二階ニ帰ルトスグアトヨリ各班長打連レテ解散要求書ヲ持参ス 所長、次長、ト別室ニテ会谈サセル 畑、矢野、森川帰ル アト工員結局将来ノ会社方針明示等ノコトアリ 戸田星野両氏、本社へ処置ヲ聞キニ行ク。夕方宅ニ兄清平ヲ呼び以上ノ経過ヲ話ス 清平ノ話シニ星野ヨリ今朝清平ノ就職口ハ星野ガ引受ケルトカ 工員ノ住所氏名ヲ宇賀ニ書カセテ居イテ呉レトカ、話シアリタリト。尚乙竹ニハ森川ヨリスデニ話シ乙竹ヨリ宇賀ニ話シタタル(ママ)由。話ス時期ハ自分ニ一任サレテ

◆◆386ページ◆◆補遺

(385ページから続く)

七月十七日

居タガ公表スルコトハ廿一日以後ニシナイト尚動ヨウノ恐レアリト思ツテ居タノニ乙竹ダケノ話シナラヨイガ他ノモノ迄スデニ話シタラシク宇賀ガ知ツテ居タトノコト 三時頃福知新次氏來 組合ヲ代表シテ倉庫ノ礼ニ來 廿日引取ル由 畑氏ニモ引合ス。其時福知氏ヨリ工場ゴタ、シテ居リ自分ガ行テ何ニカヤル計画アルソウダガトノコト 藤原ヨリ聞イタトノコト。ソレハ野口君カラ過日話シハアツタガ千葉県ノ人ノ資本デ仕事ヲヤルコトハコリ、タシ三十万ヤ五十万デハ出來ソウニモナイガ航空局ガ支持スルナレバ、ヤツテモヨイト考ヘテ居ルガ、今日ノ問題ガソシナコトノ爲メニ計画的ニヤツタ様ニ見ラレル恐レアルカラ今日デハ出來ナイト思フ。然シ自分ノ身辺ノモノノミヲ解職スルコトハ自分ニモヤメヨトノコトト思フノデ考慮スルツモリダト外ニモ二三話シ合フ

◆◆387ページ◆◆補遺

(388および210ページから続く)

戸田氏ニハ今日最悪ノ状況ニ立到ツタコトニツキ自分トシテハ進退ヲ考慮スル旨話ス。星

野氏ニ六右ノ上ニ福知氏ニ話シタ自分ヲ止メサセル爲メノ計画ト思ワレルカラ考慮スル旨話ス。星野氏ハ、ソシナコトハ絶対ニナイカラ自重シテ呉レトノコトデアッタ

七月廿一日

工場ノ状況一通リ話ス 長尾鷲見ノ意見ハ今小工場作ルコトヲ、中止シテ大会社計画ニ参加シタイ、ツイテハ僕ニモ参加ノ意志アリヤ アレバ條件ニ希望アリヤトノコトデアッタノデ自分モ現会社ヤメルツモリデアル旨話シ新会社ノ發起人ハ国防経済協会副会長八木下中将デ發起人ハ同協会財閥ガ出スコト 資本金千万円デ目下八木下氏ハ二名ハカリ使ツテ創立事ム、ヲ取ツテ居ルガ技術者ヲ得テ計画ヲ立テル予定ダトノコトヲ聞カサレル 自分ノ参加ニツイテハ自分ニモ多少ノ抱負ガアルカラ、ソレガ実現出來ル様ナレバ参加シタイ ソレニ一度先方ノ人ニ会ワネバ分ラヌ。條件ナドハ第二義的ナ問題デアアル旨答ヘル

◆◆3888ページ◆◆ 補遺

(3877ページから続く)

ソレデハ長尾氏モ至急返事セネバナライカラ其方針デ進ム 僕ノ名前ヲ出シテモヨイカラトノコトニ出シテモヨイト答ヘテ居ク 十一時終(ママ)寢

▲▼392ページ▲▼ 知人名簿

住所	電話	氏名	関係
本籍 山形縣南置賜郡玉庭村大字玉庭四六四〇番地		伊藤淑 大正十五年一月十八日生	女中
々 玉庭村字松尾		渡辺三夫	右叔父

▲▼424ページ▲▼ 昭和十七年出納表

観世音会費	17-5月-18-4月	3
盆栽	17-1月~17-12月	5
国風盆栽会	17-11-8月 一ヶ年分	1